

令和6年度 市民と市長のタウンミーティング実績

					参加者		
	とき	開始時間	終了時間	公民館名	合計	男性	女性
1	令和6年5月10日 (金曜日)	19:00	20:11	三浦公民館	33	25	8
2	令和6年5月14日 (火曜日)	19:00	19:50	奥南公民館	19	18	1
3	令和6年5月16日 (木曜日)	19:00	20:35	住吉公民館	15	11	4
4	令和6年5月21日 (火曜日)	19:00	20:18	九島公民館	15	13	2
5	令和6年5月23日 (木曜日)	19:00	20:10	祝森公民館	19	12	7
6	令和6年5月29日 (水曜日)	19:00	20:16	鶴島公民館	15	11	4
7	令和6年5月30日 (木曜日)	19:00	20:27	畑地公民館	20	15	5
8	令和6年5月31日 (金曜日)	19:00	20:13	小池公民館	18	18	0
9	令和6年6月2日 (日曜日)	14:00	16:00	市役所	35	21	14
10	令和6年6月3日 (月曜日)	19:00	20:05	玉津公民館	14	13	1
11	令和6年6月4日 (火曜日)	13:00	13:59	日振島公民館	15	11	4
12	令和6年6月4日 (火曜日)	14:45	15:45	戸島本浦集会所	20	14	6
13	令和6年6月4日 (火曜日)	16:20	16:58	戸島公民館	22	16	6
14	令和6年6月5日 (水曜日)	19:00	20:15	遊子公民館	33	26	7
15	令和6年6月7日 (金曜日)	19:00	21:00	御槇公民館	32	25	7
16	令和6年6月8日 (土曜日)	10:00	11:15	吉田公民館	16	12	4
17	令和6年6月8日 (土曜日)	14:00	15:04	三間公民館	27	16	11
18	令和6年6月9日 (日曜日)	10:00	12:05	岩松公民館	30	20	10
19	令和6年6月9日 (日曜日)	14:00	14:42	Zoom	2	2	0
合計					400	299	101

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
1	三浦	1	公共交通機関の便数が少ない。三浦から市内へ出るバスは休日にはない便もあり、確実にあるのは1日4便。人口減少とともにバスが少なくなる。少なくなるから乗らなくなる。 市の方で、コミュニティバス、ライドシェアなど、なにを考えているものがあるか。足がない方もいるので、どうにかバスなどお願いしたい。	公共交通機関には、免許を返納された方や高齢の方が利用されていることは承知しています。特にバスということで宇和島自動車との流れの中でお答えすると、バスに対し、国・市・県から補助を出して維持をさせていただいている。三浦から下波について、下波の交差点から津島側は小さいバスでなんとか路線を繋ぎながら維持してもらっている。便数については、そのような中で宇和島自動車にも頑張ってもらっている。減便・廃止ということもある中で、ここ三浦半島は、下波からの折り返しをしてでも繋いでいくという、宇和島自動車の気持ちも感じている。適当な時間に便がないというところは、通学時間などに集中させなければならないところもある。廃止路線についても、需要があるところは台数が少ない中ではあるがコミュニティバスを運行している。 三浦地区は、まだまだ重要な路線だと思っている。現在の状況で、コミュニティバスは難しいが、デマンド系も含め、宇和島自動にも伝えながら市の中でも検討していきたい。	企画課	—
2	三浦	2	孫が三浦小学校の1年だが、親が共働きで働かなければならないが、預かってくれるところがない。放課後の教育というか、預かってもらえるようなものはないか。 せめて兄弟が、一緒に帰れるようなことが考えられないか。学年が違う場合など、下校時間が違うため。これも子育ての一環になるのではなかという提案です。	一般論でお伝えすると、放課後に預かる仕組みは準備している。三浦小学校の詳細は承知していないが、学校に登校し、仕事から帰ってくるまでに預けられる仕組みがないかということだろうか。 ごもっともなことなので、今後こういった回答ができるか、このあと連絡先を教えてもらえればと思う。	こども家庭課、生涯学習課	—
3	三浦	3	後日要望を提出するが、50年近く住んでるがそのころからすると地域のインフラが荒れている。部分的には対応いただいているが、河川の砂利の堆積や道路があれてるなど。 また南海トラフ地震について、この前地震があったが、一次避難場所は山にあり待機する場所がないので検討できないか。夜も、真っ暗でライトなどを持っていくが暗いのでどうにかできないか。回答の際、できないのであれば、こういう方法ならできなどの回答をいただきたい。	地域から様々な要望があり、道路、河川も優先順位をつけて対応してるが、現在も道路が荒れていると多くの地域でお叱りを受けている。引き続き、できるものを優先順位つけて対応していきたい。 また、この三浦地区は、防災意識高いところ。夜間、避難場所へどう逃げるかについては、県の補助などもあり、避難場所や避難路に照明をつけるなど補助を出しているが、実際すべての避難路等で対応できるかというところと難しいところである。命を守っていただくためにまずは避難場所へ逃げていただきたい。そこに建物などがあればよいが、一時避難所のような高いところでは、なかなか建物を建てることは難しく、準備ができていない。	建設課、危機管理課	(建設課)6月10日三浦地区要望の現地確認を行った
4	三浦	4	5月に入って、災害支援のふるさと納税の寄付が始まった。 り災証明は、個人で地震保険に入っている方しか適応されず、屋根が傷んでいる方もお年寄りが多いので、そういう困ってる方を助けてもらえないか。6月になると豪雨も心配なので、お願いしたい。議会の方には、予備費もあるし、基金もあるので助けていただけないか。 また、被災した体育館や南予文化会館などの修繕も早急をお願いします。	街を見ていても、屋根にブルーシートを設置しているところは多い。ご自身で施工できない方へはNPO宇和島センターに業者を紹介してもらっているが、追いついておらず屋根の修理業者にも行列ができている状態。既に調査をしており、どの程度の費用が必要なのかも確認している。これに対しては、何らかの対応をしたいと考えているので、しばらく待っていただきたい。 公共施設については、老朽化が進む中で、特に南予文化会館は重篤な状況となっている。音響など専門の方でないと難しいため、建設した業者や設計者とも話しており、できるだけ早めに修繕したい。予算が必要なものであるため、早めに議会に上程できるように準備を進めている。わかり次第、お話ししていきたいと思う。	文化・スポーツ課、企画課 (建築住宅課)	(企画課)南予文化会館の復旧については、6月議会に関連予算を計上し、復旧に取り組んでいくこととしております。 (文化・スポーツ課)総合体育館の復旧については、6月議会に関連予算を計上し、復旧に取り組んでいくこととしております。
5	三浦	5	南予文化会館と総合体育館の修理の完了時期はいつごろか。	今は当時の設計者との協議をしている段階であり未定だが、南予文化会館の復旧には期間がかかりそうだ。とにかく同時進行で、できるだけ早くしようとしている。現状では、時期などはまだはっきりしていない。	文化・スポーツ課、企画課	(企画課)南予文化会館の復旧については、6月議会に関連予算を計上し、復旧に取り組んでいくこととしております。 (文化・スポーツ課)総合体育館の復旧については、6月議会に関連予算を計上し、復旧に取り組んでいくこととしております。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
6	三浦	6	近所のお年寄り（92歳）からの情報。その方が一人で市立宇和島病院に診察に行った。診察の場所がわからなくなり迷っていた際、職員の方2～3名の方に聞いたが、誰も教えてくれず、案内してもらえなかったとのこと。もっとお年寄りに親切に対応してもらいたい。	そういった方から聞かれたのであれば、関係者は丁寧にお答えするのが当たり前。早速持ち帰って、病院局の方で対応させていただく。まずは、その方にお詫び申し上げたい。早期にできることなので、しっかり対応していきたい。	病院局	—
7	三浦	7	不燃物の処分について。 年に数回、市役所で回収していると思う。お金を払うのは当然だが、（市役所まで）持って行くのであれば、心理的にないと思う。車がない方もいるので、地域のごみステーションに捨てるようにできないか。 宇和島市は持ち家率が高いので捨てずにおいている方も多いかもしれないが、近所に出せる方法はないだろうか。 福岡市東区に以前住んでいた時の話ですが、福岡市では、その内容に応じて、ステッカーを購入し、指定された番号を書いて、指定された日に、指定された場所に出せば業者が回収してくれる。	不燃物は専用ごみ袋に入る範囲のものを受け取っているが、大型のものについては最終処分までやっている業者をお願いしている。ただ、ご高齢で（粗大ごみを）出しにくいなどもあるので、調査、研究させてもらいたい。	生活環境課	（生活環境課）不燃物は、市指定ごみ袋（もえないごみ）に入れば、通常のごみステーションに出していただけるが、指定ごみ袋の大サイズにも入りきらない「粗大ごみ」は、環境センターに直接持ち込んでいただくか、市許可業者に運搬処分を依頼していただくことになる。 また、本庁駐車場で許可業者による粗大ごみ等の回収が年に1～2回行われているので、そちらをご利用いただいても良い。 ごみステーションは十分な広さを確保できない場合があること、粗大ごみを収集する体制の整備など廃棄物処理にかかる対応の拡充には行政コストの増大を伴うことなどから現在の処理方法となっている。粗大ごみを運べない方は、ごみステーションに出すことも困難と思われるため、許可業者にご依頼いただくことになる。ご理解とご協力をお願いしたい。
8	三浦	8	夜間訓練を3回やっているが、夜間に避難場所まで連れていく人、連れて帰る人が夜間なので大変。そこに車で通りかかった人が声かけるのは、夜なのでどうかと思う。その際、車に回転灯付けたらどうかと思う。警察に聞いてもらったら、黄色なら良いとのこと。ただ、常時つけるのではなく、緊急の場合などにつけるなら良いとのことだったが、業者に価格を聞いたら、個人ではだめで、なにかの団体でないと教えられないと言われた。地域の防災担当者などに付けていたら安心して乗れるのではないかなと思う。	今年度から避難の際に、手助けが必要な方の避難計画を作成しようとしており、その中でも特に必要な方1,000名について早く取り組むこととしている。今ほどの質問は、いかにスムーズに避難できるのかという案の中で、黄色のランプがあればいいのではないかとのことです。先ほど、警察は良いと言ったが、業者は団体のところでなければ、価格を教えてもらえないということなので、理由がわからないため、いったん持ち帰らせてもらえれば。 避難する際に、安心して乗れる合図としてということで、避難する際に手助けがいる方、体力がない方を補助するために使っていかどうか確認させてもらいたい。個別に回答する。	危機管理課、福祉課	—
9	三浦	9	地震でブロック塀を倒れなくするために、パイプを打ち込む、L字に組むなどの方法を考えているが、既存の塀を補強することに対して補助はでないのか。ブロック塀が壊れる前に、補強したい。	既存のものを補強するということは想定されていないと思うが、補強後にブロック塀を含めた全体の安全を担保しようというものでなければ、難しいのではないかなと思う。	建築住宅課	（建築住宅課）既設のブロック塀を安全な状態まで改修する場合は、耐震診断の結果を踏まえ、構造計算に基づき補強可能か検討することが必要となる。 改修は所有者の負担も大きいことから、早期に対応可能なブロック塀等の除却・建て替え工事についての補助制度を実施している。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
10	奥南	1	もし南海トラフ地震が実際に起こったら、広範囲で被害が出るのが予想される。宇和島市で、どのくらいの備蓄品があるのか。何日分など。	宇和島市が準備する公的な備蓄は、3日を目指している。それでは十分でないので、ご自身での蓄えをお願いしたい。1週間から10日程度の備蓄をお願いしたいとお声掛けしている。 備蓄品は避難所である小学校などにバランスよく置いておかないといけない。食料については、アルファ米や水など基本的なものである。能登の地震ではトイレカーを派遣したが、現在トイレカーのネットワーク化を図っている。今、長崎、淡路島、福島、岩手県とのネットワーク化を目指す中で、広域化することにより、こまめに配分できるように仕組みをみんなで連携していこうとしている。トイレについては、「自動ラップ式トイレ」なども導入しようと、配備を進めている。ただ、行政では潤沢に対応できないところもあるので、1週間から10日の個人の備蓄も重ねてお願いしている。	危機管理課	(危機管理課)備蓄計画：自助・共助の促進と事業者との協働を推進するため、最低限必要な備蓄量の半分、2分の1を流通備蓄と救援物資で賄いまして、残りの2分の1の半分、4分の1を市の公的備蓄と自主防災組織や各御家庭での自助・共助で分担して備蓄を進めている。
11	奥南	2	中学校に娘がいるが、中学校で高校の説明があった。市内の数高校の説明の際に、パンフレットを読むだけの説明になっていた。西予の宇和高校や三崎の方の高校などは、魅力を大げさに語って、魅力的に感じた。西予は学校をアピールするのに地域おこし協力隊なども協力していると聞いており、すごく魅力的に感じた。 子どもが地域に愛着を感じるのは高校の時に感じたものだと思う。小中学校は宇和島は力を入れているように感じるが、高校に魅力を感じるようなアピールをすることに力を入れるのもいいと思う。 宇和島は協力隊が少ない印象があるが、吉田の小学校も統合するが、そこに協力隊が入ればよいのではと思う。今後の、協力隊や宇和島がどうなっていくか教えてもらいたい。	まず、高校の説明会については、生徒集めに熱心なところは、いろんな手法の中で協力隊を雇っているところもあると聞く。各高校の方向性について、市がどこまで関与できるかというところ。 令和9年度から編成が変わっていき、南高は水産高と一緒にあって、キャンパス制度でやっていくと聞いている。南高は、普通科というよりはスポーツに長けているなど、能力に長けているような関係の科になると聞いている。これからは子どもたちの奪い合いとなり、自ずと自分たちのアピールはやっていくはず。 私も高校時代の友人とのつながりが今も深い。今後も、しっかりやっていくべきだと思う。協力隊については、どういった活動してもらうようにするかを考え、現在闘牛に関して募集している。西予は26名ほどいるが、我々のまちに興味のある方が移住を含めてきてくれるという優れた仕組みなので当市も必要なところに配置できるよう取り組んでいきたい。	学校教育課 (企画課)	(学校教育課)全国募集をしている学校などは、学校の魅力を強くアピールして生徒に興味深い内容でプレゼンを行っている印象がある。市内の高校も大変魅力的な取組をしているので、それらが十分に伝わり、選ばれる学校になってほしいと願っている。そして、宇和島市や市内の小中学校と高校が連携し、宇和島市の魅力を発信できる人材を育成していきたいと考えている。
12	奥南	3	地震対策で補助金が色々あるが、近所でも空き家が出てきている。住めないような状態のものもあり、壊すことに対しても補助はあると思う。近所の方が聞いた話では順番待ちと聞いたが、予算は前年と比較してどうか。	もともと、夏頃に募集した上で、審査決定し、年度内に完了としていたが、現在はゴールデンウィークまでに締め切って、工事期間に半年ほどを持てるようにしている。年度のはじめに募集したらすぐ埋まる状況。 優先順位の設定があり、基本的には、その建物が倒れた場合に道路に影響するところは優先度が高い。予算は当初に比べて増やしているが、昨年度からは変わっていないのではないかと。まったく不足しているというよりは、条件に合わない申請もあるので、そのあたりも考慮していきたい。私としては予算を上げていきたいと思っている。	建築住宅課	(建築住宅課)現地調査の受付期間は、4月末としており、5月から現地調査を行っているが、調査の結果、補助条件を満たさないものもある。 補助条件を満たし、緊急性の高いものから補助対象として通知している。補助対象となられた方が辞退された場合は、緊急度が次点の方にご案内している。
13	奥南	4	空き家を壊すのも良いが、空き家を再利用する補助金が個人事業ではあつたりするが、住宅でも使えたら良いのではないかなと思う。	空き家バンクという制度は作っているが、耐震化済みなど一定の条件があったかと思う。移住者の不安は、住む場所と仕事と言われている。現在、移住できる家を空き家バンクとして登録するため、物件を探している協力隊が1名いる。 それ以外の旧耐震の家は市が関わりにくい。市営住宅も、旧耐震のところから新耐震の住宅へ移りませんかと提案している。現在、旧耐震の市営住宅から新耐震への民間賃貸住宅に移動される方に対する家賃補助もしていく流れがある。	建築住宅課、 企画課	(建築住宅課)空家バンクに登録したい住宅にも耐震診断、耐震補強の補助制度は活用可能である。 (企画課)令和4年度から移住者や子育て世帯の住宅取得を支援する制度として、「住むなら宇和島応援金」制度を創設し、新築と中古住宅(市の空き家バンク登録住宅)の購入に要する経費に対して、10分の1(上限50万円)の補助金を交付している。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
14	住吉	1	3月の避難訓練については、地域を上げて活動した。（大浦2区の防災だよりを市長に渡す。）100名あまりが集まり、防災意識を強く持っている。役員会では最悪の事態を想定し、自分の命は自分で守るという心構えである。一時避難所については、2、3日は対応できるが長期になると難しいので、避難所の運営支援を要望したい。 大浦は安心安全な避難所がない。最悪の想定では、津波からの避難で標高10m以上のところに避難したあと、公民館などの平地に避難する。高齢者の多い地域なので、避難所という安心安全なところを求めたいが、できれば具体的な活動やこういった行動が良いのではということをお願いしたい。	地震が起これば、次は津波からの避難を意識して、より高くより早くが大原則。大浦地区に限らず、高いところを目指すということで、福祉的な手伝いがある方はどうしたらいいかを常々考えているところ。 一方で、東日本大震災でもあったように一時避難所は、とにかく命を確保するという事で何かあるという所ではないところ。では、一時避難所に潤沢な建屋などを設けるのは、場所として難しく、すべての地域に構えるのも難しい中で、生き残った施設に、この地域はここに避難して下さいと誘導することを担当課では考えているところ。 大浦は、津波が来ればどうなるかなど想定はできると思うが、宇和島地域での津波の及ばない施設や三間、鬼北などに避難を促していくことを話している。被害に対してどのように対応するかについては、地域の防災士や地域の方と連携してやっていくものと認識している。	危機管理課、生涯学習課	—
15	住吉	2	三間など影響のないところに逃げるということだったが、道が通れない場合、一時避難所に何日かいないといけないうと考えられる。お願いしたいのは、ビニールハウスでよいのでJAと提携していただいて、廃業した農家のものなどを提供いただいて、一時避難場所は地域の自主防災会が準備するなどして建てれるようにし、1週間など避難するのはどうか。能登でもストーブ炊いて避難していた。立派な建物はいらないが、そう言ったものをお願いしたい。	ビニールハウスなどの簡易なものでよいということは、ご要望として担当課としっかり話していきたい。	危機管理課（生涯学習課）	—
16	住吉	3	耐震化は皆さんに勤めていきたい。耐震診断3000円なので。ただ、その家がどのくらいの費用になるのか、自己負担がどれほどかなどのデータがないため、年金の方など高齢者は負担が大きい。先日、テレビで黒潮町が低コストで耐震工事ができる、規模にもよるが125万円できるといえるものが放映されていた。危機管理課とも相談したが、建築住宅課にも聞くと宇和島では受けてもらえるところがないと聞いた。高知県黒潮町は、専門の業者をお願いして、黒潮町が125万円補助し、持ち出しなしでやっているとのこと。多少は自己負担がでることもあると思うが、その範囲内でできれば耐震化も進むと思う。家の中のボックスや寝室の耐震化などがいくらかかるか、資料などを提供いただければ回覧でまわしたいと思う。	耐震化は、費用がどのくらい必要かという目安がないので、耐震化の検査すら取組めないのではと思っている。耐震化は千差万別あるので、これも担当課と話していきたい。黒潮町の事例や業者については、確認していきたい。	建築住宅課	（建築住宅課）低コストで可能な耐震補強の工法普及に向け、設計事務所・工務店などを対象に7月に名古屋工業大学の教授をお招きして「低コスト耐震補強」の勉強会を開催した。 耐震シェルター、耐震ベッドの詳細資料は建築住宅課にて提供可能です。
17	住吉	4	先日の地震の際、南風寮が避難所だったが、鍵が開いてなかった。避難したお年寄りがこけそうになるわ、どうしていいかわからなかったため。大超寺奥の集会所も鍵がしまっていた。仕方ないので家に帰って、朝になって子供に連絡したとのこと。住吉小学校に、私の知人が避難した。工事中だったので保健室、医務室に避難した。 もしものときのカギの管理はどうなっているのか。	避難所の特性によって避難場所は異なると思うが、大雨などの警報が想定されている場合は、明るいつ時から鍵を開け、張り紙などして対応している。もっと大量の降雨が予想される場合は、予め職員が行くなど状況によって変わってくる。 突如の地震の中で鍵が開いていなかったということですが、場所によっては、揺れで自動解錠するボックスにカギを保管している。避難所のすべてがそうになっているわけではないので整理させてもらえれば。南風寮に関しては確認する。集会所は、地域の管理であるため把握しかねる。住吉小については、確認し個別に連絡する。	危機管理課	（危機管理課）地震時の鍵の管理体制において、南風寮及び集会所につきましては、地元管理の避難所となる。 本市では、津波浸水エリア外の公共施設（学校・公民館等）または、夜間・休日が無人となる宇和島市が指定した津波避難ビルは、玄関に地震の揺れを感知し、自動解錠するボックスを取り付けており、玄関のカギ等を保管している。 また、危機管理課では、令和6年度中に、宇和島市内の30公民館を対象に、休日・夜間にかかわらず遠隔操作で玄関を開場出来る設定を準備している。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
18	住吉	5	スライドの愛媛県と連携した人口減少対策について、市は途中の数字が出ていないのはなぜか。出生反転を示すなら、20～39歳のところを示すべきであった。途中の年代の数字を入れて、宇和島は減っているが、どういうことに取り組んでいるかを聞いたかった。ひとり親世帯の問題も関係しているので、そこにスポットライトを当ててほしい。また、出生の反転は宇和島だけではなく難しいと思うが、宇和島としてどう提示するか、今渡した数字を出してもらわないと。こういう手当をしても女性が減っているというが、男性も減っている。企業誘致などを行っても難しい。そんな中でどうしていくかということが求められると思う。その世代の数字を頭に入れておかなければならないと思う。	県の示している資料で、県の独自の計算のため、市については20年と60年を示してあるため。 おっしゃっていることは理解するが、この次のスライドの内容が、その世代に訴えているメッセージとなる。ひとり親世代については、分析をしてみないと分からないが、一方で、子育て施策だけでなく、就職や収入などが総合的に求められる。給料などは我々ではできないところがある。企業は働く人をいかに確保できるかを考え、集約化している状況にある。子育て施策としてはそれなりに充実しており、少しでも子供を育てる勇気につながればと取り組んでいる。今回、世代に向けた施策について目を向けていかなければならないと理解した。	市長公室	—
19	住吉	6	伊達博物館について 入札が2回失敗した中で、建てることに一生懸命になっているようだが、建てた後の収支バランスが問題ではないか。 今後50年、100年を見据えた事業になる中で、収入が1,800万に対して、経費が1億7,000万となっている。人口が減って、これからさらに減ってくる中で、ランニングコストをカバーするのは大変だと思う。そのあたりを市民に対して説明してほしい。	まずは、伊達博物館の立ち位置に目を向けていただきたい。収入が多い方が良いが、博物館法においても収益だけを求めるものではないことが原点となる。 現伊達博物館の維持管理費は9,000万円ほどかかっている。新伊達博物館の維持管理費は、現時点の、単純計算の試算額をお示ししているので、今後、指定管理者の考えも踏まえながら、精度が上がっていくものである。 現博物館でも企画などで頑張っているが、新博物館ではこれらを充実させることや新たに学芸員を採用するなど、新たな価値も加わっていく中での増額となるのではないかと、この試算（数字）となっている。 収支として赤字となっているのではないかと、これからの宇和島を考えた時に何を「まち」の売りにするのかという視点で考えると、独自の歴史文化がある中で、宇和島城を含めて、これらを活かしていきたいと考えており、ここにかかる費用は、宇和島全体の経済にも波及効果があると考えている。	伊達博物館	—
20	住吉	7	50年の通算で138万人が入ったというが、市の資料では49年間で平均35,000人となっていた。高すぎると思い、単純に割ると28,000人にしかならない。伊達博物館に確認したら、間違っていた、39年で割っていたとのことだった。数字が違ったというだけで、信用ができなくなると考える基になる。これは軽率なことだと思う。伊達博物館に指摘した。慎重に扱ってほしい。	数字が独り歩きすることもあり、実績値が単純な計算ミスがあってはいけない。経緯を把握していないので、確認したい。	伊達博物館	(伊達博物館)HP掲載資料「伊達博物館改築事業の概要について」4P ※市民からの指摘により誤りが判明、24.4.5に訂正したものを更新済み

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
21	住吉	8	伊達博とやすらぎの里について。 膨大な予算を組んで建設が進んでいる。宇和島は、宇和島城に人が来るので、宇和島城周辺を中心とした観光ビジョンを考えて取り組んでほしい。そのあとに伊達博に流れていく。まずは、宇和島城。文化観光都市、宇和島であれば、どうやるかということが見えてくる。伊達博物館にそれだけをお金をかけるより、宇和島城を中心とした観光にするべきではないか。やすらぎの里も、更地になり膨大な金額をかけている。 伊達博物館についてもそうだが、もっと市民の声を聴いて、将来・未来のまちづくり、魅力ある街をつくり、子どもについでほしい。ビジョンが見えない。博物館は50～100年続く事業だが、あまり情熱や真剣さが見えてこないで、しっかりと進めてほしい。これだけ大きな事業であるので総合的なまちづくりを考える必要がある。伊達博物館の用地は愛媛県の緊急避難場所となっていたりするので、あそこに建てる以外の選択肢はなかったのか、このままでは負の遺産となってしまう。関係者、行政、議会としっかり協議していかなければならない。 基礎を直せば安く済んだと思う。新たに32億をかけて、みんな言わないだけで納得していないのではないのか。総事業費以上のものを作ってもらいたい。まわりの環境整備、治安を含め、まずは12天守の1つである宇和島城の観光事業を整備することで、伊達博物館が生きてくるのではないのか。	これまで、建替委員会にて議論してきた。ビジョンの話はされていたが、私が就任して以降、宇和島の文化・歴史については脆弱だと感じていた。当時、吉田はすでにお練りの登録に向いて動いており、三間には毛利家含めて熱心に活動している方々があり、津島の重伝建もまた然りである。市内だけのみならず文化・歴史につながる活動をしている方々を応援する「まち」でなくてはならないと思っている。 伊達博については、建設委員会でもバラバラで立てるよりは、天赦園と一体として、お城の見える場所が良いのではないかと意見などを踏まえて、そこに決まってきたと記憶している。 市民の声を無視してという意見があったが、説明会も可能な限り基本計画、絵のないときからこうなりますと繰り返し行っており、金額についてもそのすべてを宇和島市が払うわけではなく、国・県のサポートを受けながら行っている。先日、被災した南予文化会館や総合体育館の修繕についても国からの財源を含めてお願いをしている。市立病院のエネルギーセンターや伊達博物館の建設は都市再生整備事業、国交省のお力をお借りしながら進めている。現在、総工費の約77%は補助など国の財源による支援が予定されており、もちろん市が負担する部分もあるが、国費は常に意識しながら取組んでいる。 やすらぎの里は、くい打ちが十分でない中で、地盤沈下による不具合などにより、利用を中止した。温泉を楽しみにしている方も多く、今もいつやるのかという問合せをいただいている。これについても、国から7割近く支援などが決まる予定で、財源を確保している。地元の国会議員のみなさんはじめ、国の担当者にも何度も説明して応援してもらっている事業である。 ただ、たしかに文化・歴史というのはビジョンは示していかないといけないと思う。文化・歴史の中で、天赦園や新たな伊達博物館などへ繋いでいくことを考えていきたい。	伊達博物館、 商工観光課	—
22	住吉	9	やすらぎの里について、温泉施設以外の施設をなぜ壊さなければならなかったのを教えてほしい。	かつてはプールなども運営できていたが、不具合が解消できなくなっていた。 長堀にもプールがあるので、今回は（プールに）手を出さずに、温泉と特産品を扱うところに特化した整備とした。元々の施設と機器に費用が掛かっている中で、この施設の利用率を考えると、集約して整備したという経緯だと認識している。	商工観光課	（商工観光課）全ての施設を新設する案と一部施設を残す案で検討した結果、全てを新設した方が、施設の配置や導線の自由度があり、運営者の意見も設計に反映しやすいこと、また、事業費においては、一部施設を残した場合、いずれ改修費が必要となり、全体的に見れば大きな差はないことから、全てを新設することとしたもの。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
23	住吉	10	大浦の埋立地について 先日、入札があり、売却が決まったが、以前、地元から商工観光課に「異臭出さない、騒音出さない、鳥の害を無くすように」という条件を付けていた。先日市長と話したが、これは地域の絶対条件なので、これを守らなければ、地域で法的処分をしたいと思っている。このことについての罰則などは考えているのか。 また、手が空いた時にも、自治会に来て欲しい。魚市場も同じ条件を出したと思うができていないので、きちんと守ってもらうようにしてほしい。	罰則など、この後に起こりうることにについては、今申し上げる準備はないが、埋立地にはいろいろな経緯があり、大浦の方に色々な思いがありながらも対応していただいた歴史がある。 4区画を売るにあたって、水産業者やトラック業界の方々など、埋め立てた目的に合致した人向けの販売であった。 入札は、県道から直接入ることは絶対にしないなどの、様々な条件を付した。これら各種条件に業者も困惑していたと聞いている。住人の皆様に対して配慮するという内容も条件にした。 これからも我々は関係していくし、入札した業者も地域と関係していくことを条件に応れしていると認識している。落札業者にはさらに念押しするなどして、そういうことにならないようにしていく。 魚市場については、私も散歩で行くが、遠くからみると水揚げが始まると鳥の動きはある。ただ、屋根などに相当の工夫をしているように見える。荷捌き施設も含めて、しっかり対応する努力をしていただくよう話をさせていただく。	商工観光課、水産課	(商工観光課) 入札や契約を進めるに当たり、一般的な条件に加えて、特に臭いの問題が懸念される施設の建設を制限したり、周辺地域の生活環境の悪化を招かないよう配慮するよう伝えているところ。 あわせて、落札者に対しては、売買物件の土地利用について、事前に地元自治会や周辺住民と協議・調整を図り、地域住民の理解を得るように努めることを伝えている。
24	住吉	11	市場をそのままリニューアルできなかったのか。移転することで不便な思いをされていると思う。	市場については、要望から事業が始まったと認識している。私は、建屋の建築が始まってからの関わりだが、旧市場は非耐震で、衛生状態が悪くなかった。船を横付けしておすところは、船底が底付きするなどの問題もあったが、大浦ではそれらの課題を解消している。 一方、2つの市場を1つにしたので、権利関係などの交渉に相当やりとりがあったと聞いている。樺崎大橋が令和7年に完成にした後は、前の市場との距離感もほとんど変わらない。私もその業界にいたが業界の方からは不便は、あまり聞いたことがない。	水産課	—
25	住吉	12	環太平洋大学について 今後も、大学の誘致の検討をしてほしい。 水産大学として整備できたいと思うがどうか。	IPUは、校舎が非耐震であったこともあったが、ノウハウがない市がやることに對しての回答だった。 人口減少の中で、賑わいや子どもたちが来るきっかけになっていたのが、これからは努力をしていきたい。 大学を運営することはかなりのこと。山陽小野田市に東京理科大学ができ、長年、県と市がバックアップしながら、民間の私立として運営していた後に公立化し、ある一定の成功を収めている。地域に大学があればよいと思うが、都会の方でも大きな大学が統廃合を検討している中で、この地域で生徒を集め経費などを含め経営できるのかということを考えないといけない。チャンスがあればやっていきたいとは思っている。 バトンタッチした時に、IPUをどうするかというだけの話となっていたので、当時のIPUの流れを汲んでの「公立化」という話だった。以前のプロセスの中では水産に移行していくという話はなかったと記憶している。	企画課	—

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
26	九島	1	環境対策 プラスチックゴミの回収について。 他のペットボトルなどは近くの収集場所に持っていくのに、プラスチックゴミだけ本庁、各支所に持っていくのはなぜか。 地域の人は非常に面倒で持っていくのが大変だ。専用の袋を作って、配布して収集所で回収してもらえれば我々も対応できる。どういう方法が市民にとっていいのか考えてほしい。	ゴミ関係は宇和島市は広域で取り組んでいる。収集方法は現在、検討しているところ。これは時限的にやっているものと理解しており、検証中だが、全部を本庁・支所に持ってきてほしいということにはならないと思う。これについてはまだ、検証中のため、形ができればしっかり対応できるのではないかな。	生活環境課	(生活環境課)現在、本庁及び各支所で実施している取り組みは、将来のプラスチック分別に向けた実証事業として、持込み場所を設けて、どの程度集まるか、どの程度異物の混入があるか等を見ているもので、宇和島市としてリサイクルルートを確立できているわけではない。 現状では、プラスチックごみの専用袋を作ったり、プラごみの日を設定して収集することは、行政経費も市民負担も大きくなることが予想されることから、現状では想定していない。 プラスチックごみのリサイクルは、技術的に発展途上な要素があり、今後、きれいなプラごみを分けて出すのが困難な世帯では、「もえるごみ」として排出されることは想定しており、可能な範囲でご協力いただきたい。
27	九島	2	市民の健康に対する取り組みが少ない。各地で公園の整備をしていると聞いているが、アスレチックゾーンを作り、大人も健康づくりができるような公園を作してほしい。九島だと、望橋園のところにそういうものがあれば、さらに人が来るようになると思うので、子どもたちだけでなく住んでいる人のための健康を考えた公園にしてほしい。	公園については、遊具の更新をしてほしいという要望について、予算をつけて行っている。その数は200ヶ所ほどあり、現在は、既存の公園遊具について更新をしているところ。健康づくり系の遊具を採用していこうという動きもある。 ご意見は担当課へ伝える。今は、壊れているものを直しているところなので、今後の宿題にさせていただきたい。	都市整備課	(都市整備課)児童遊園を中心とした遊具については、設置から相当の年月が経過しているため、順次更新を進めているところ。 今後の公園（広場）整備においては、インクルーシブ遊具の設置を検討することとしているため、併せて健康遊具の設置も検討したいと考えます。 なお、石丸公園など既存の都市公園の改修予定はありますが、新規の公園整備はございません。
28	九島	3	花いっぱい運動について、今年は望橋園の下に、おもてなしの心で、花を植えようと思っている。そういう企画について協力してほしい。 市が管理していると聞いているので、市の建設課に話はしているが、何とかできないか。いい島、きれいな島にしたいと思っているので、許可なり、できないならどうすればいいのか回答ほしい。	花いっぱい運動については、各地域での活動が厳しくなっているということをお聞きする。三間の方では続けられないとのこと、県にお返しすると言われている。九島のその場所ですらできるかについては、個別にお返しさせていただきたい。	建設課、（生活環境課）	(生活環境課)生活環境課では、公共の土地等で花いっぱい運動を行う団体に、花苗を年2回配布する事業がある。時期が決まっているため、あらかじめご要望いただく必要があります、具体的にご相談いただきたい。 ただし、植栽作業やその後の管理はご自分たちの団体で実施していただく必要がある。 (建設課)令和6年5月23日付で誓約書を出していただき同日付で許可を出している。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
29	九島	4	街灯、防犯灯について。先日、連合自治会の総会があった際、LEDの球がなくなった場合には補助は出るが、新設の場合には（補助が）ないと聞いた。海端の危険なところは（補助が）出ると聞いたこともあったがどうなっているか。	防犯灯については、地域の方に管理していただいている。公が構える道路の街灯などは需要が少ないところへの対応が難しいが、防犯灯だと、地域が困っているところに地域で設置することができるという点で、防犯灯の設置について優位性がある。新設については、対象外と聞いたということか。そこは確認させていただく。（連合自治会総会 宇和島支部での説明）	企画課、市民課、危機管理課	(企画課)地域づくり交付金を活用し、防犯灯を新設することは可能となっている。 (市民課)市が設置する外灯（防犯灯）につきましては、原則、市が所有管理する公園、漁港、橋梁等のほか、その必要性が認められる集落間の道路に限って設置しており、集落内は各自治会でご対応いただいている。新設については校区単位で設置している地域づくり協議会で協議していただき、「地域づくり交付金」（企画課所管）を活用して設置することは可能。
30	九島	5	人口減少について。減るものは仕方ないが、減っていく中でどう豊かに暮らせるかということを考えることはしないのか。次の世代にどうにかしてもらうために、こどもに何かやろうということは他力本願ではないか。今の人たちがどうしたら豊かに暮らせるかという施策はないのか。	心の豊かさについて言われていることは理解しているが、日々の豊かさを享受するサービス等を維持するには、人がいる。「まち」の維持などにも、どうしても人がいる。心の豊かさについて十分でないということだと思うが、国は異次元の子育て支援という話をしているが、市はそれ以前から挑戦してきた。それぞれの豊かさの違いはあれども、それらを見つけるための応援はもちろんする。ただ、色々なことをやっていくことの最低ラインを維持するためにもどうしても人が必要で足りていない。そこに力を入れていくということが流れとしてある。	市長公室	—
31	九島	6	郵便局の防波堤（護岸）だが、港の中に綱取りもないし、車止めもない、捨て石もあるので藻がいっぱいある。そしてそこにゴミがたくさんついて恥ずかしい状態になっている。	新しく整備したその場所は、かつて九島地区からの要望を受けて実現した場所だと思う。捨て石については、工法によってそうになっている。由良半島で行っているところについても、捨て石を安定させてからとなっている。そこにゴミがついていることに対しては、工法を超える何かがあるというのは今、資料がないところだが、綱取りなどの要望はお聞きした記憶があるため、近々要望に来られると聞いているので事前に確認しておく。また、船をつける可能性のある所になぜ綱取りがついていないかということについても、確認させてほしい。	水産課	（水産課）綱取り用の係船環については、自治会から要望があれば対応を検討する。ただしその際地元負担金が必要となる。
32	九島	7	家の前が、防波堤によりゴミ溜めになっている。発泡スチロールのごみが、毎月キャリー1杯ほど溜まり、すごい。以前、生活環境課に関係者と協力するような話をしたことがある。砂場なのでゴミとれないため、フロートカバーをつけてもらえれば、もっとゴミが減ると思う。観光の面でも、きれいな方がよいので、指導してもらうなどしてほしい。	パールのところにカバーをつけてほしいということならば、市が実施するという話ではなく、お願いするということになる。漁協の皆さんにも清掃活動など協力してもらっており組合員の方も参加してもらっているため、今回、ご意見があったことを共有させてもらう。	生活環境課、（水産課）	(生活環境課)ご意見いただいたような事例も含め、排出抑制に向けた啓発を行っていく。
33	九島	8	県と循環道路の整備について、話をしていたが現在では休止状態となっている。循環道路が整備されれば、観光にも良い影響があると思うし、自転車やマラソンなどでもできるので健康にも良いと思うので、行政の方でも検討してほしい。	昔は九島のフェリーしかなかった。橋の整備は、島で暮らす方は自由に往来できるという点では効果的であったと思う。循環道路については、県がどう考えているか、最新のところは存じ上げないが、海側にせり出して作ることは難しいという話は聞いたことがある。では内側がよいかというと、家などにかかりやすいという話も聞いたことがある。県道の話なので、県当局、南予地方局が担当となるが、改めてこのような話があったことを伝え、今の状況についても話をしたい。	建設課	(建設課)循環道路に関しては愛媛県南予地方局建設部の管轄になります。令和6年度に自民党の知事要望で要望予定。
34	九島	9	標高320mの鳥屋ヶ森に、大型バスで上げられるような道路を作ってもらいたい。お客も来ると思う。	大型バスが通るという道路をつけることは、市全体の道路整備の優先順位もあるところであるが、市としても何ができるかを考えていかなければいけないので、今一度どういう景色だったか個人的に見ていきたい。	建設課	(建設課)現在、道路の整備につきましては、緊急車両の円滑な通行や、見通しの確保、離合困難箇所の解消などといった、緊急性の高いところから整備を行っている。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
35	九島	10	愛媛県のふるさと納税の上位に入っていなかった。産物は多いと思うので、ぜひ、ふるさと納税を活用して、九島の発展に繋げていただけたらよいお願いしたい。	ふるさと納税額は上昇しているが、最近多いのは、企業版ふるさと納税の方で、用途を指定して寄附をいただくもの。具体的な提案が主流で、通常のふるさと納税の場合は、全体の話としてどこに配分するのかという話になる。	市長公室	—
36	九島	11	外国から来ている人に対する支援などないのか。そういう人が来ることによって、人も増える。やれということではないが、外国の方が多くなり、島の大半を占めるようになるということにもなると思う。	漁業フェアなど国の制度と連動してやっているものはある。研修生制度のほかに、外国の方に対する支援があるかは、承知していない。	商工観光課、水産課	(商工観光課) 平成31年度より文化庁スタートアッププログラムを活用した日本語教育事業を3年間実施。技能実習生受入事業所や教室参加者からの、「外国人の居場所づくり、外国人同士または地域の日本人との交流の場が求められている。」との意見を踏まえ、令和4年度以降も市単独事業として継続中。
37	祝森	1	宇和島道路宇和島南ICのごみ撤去について、南予きずな博の事業として、道路のごみ拾いをしてはどうか。道路管理者やボランティアががんばっており、R56のごみは少ない一方で、宇和島道路各ICはゴミが多い。清掃自体が危険なのでボランティアでは対応できない。私が要望しても無理だったので、市として、ゴミの撤去を継続してもらうよう国道管理事務所へ要望してほしい。	出勤時、年配の方がゴミ拾いしている。ゴミ袋をもってウォーキングしている人もいる。頭の下がる思いである。早朝のウォーキングで岩村ストアから河川方向へ、そこから下流に向かうと川沿いもゴミが多い。祝森地区でも熱心に清掃されている方もいるが、確かに道路には危険なところもある。各管理者がいる中で、要望が叶わなかったということなので、市としてもしっかり伝えたいと思う。	生活環境課	(生活環境課) ご指摘の場所は、自動車専用道路の法面や緑地帯のことと思われるが、立ち入ることが出来ないため、道路管理のなかで対応していただく必要がある。ご要望は国道事務所に伝える。
38	祝森	2	旧環境センターが来年3月に撤去されるが、跡地のアスベスト検査をきちんとしてほしい。	旧環境センター撤去にあたっては、処理する車両の往来について、ご迷惑をおかけしている。旧環境センターに係るダイオキシン、アスベスト案件については、ルールに基づいてお金をかけて処理し、施工していく。	生活環境課、建設課	(生活環境課) 現行法に基づき、アスベストやダイオキシン類の対策を実行している。解体工事完了後は、敷地内への飛散を確認するため、ダイオキシン類の濃度測定を実施する予定。
39	祝森	3	S54埋め立ての水処理施設に関しては、市が3年前にその運転を辞めたいと言っているが、そこから赤い水が流れている状態である。水質検査の結果としては「害がない」と聞いているが、降雨に対応した設備を造ってほしい。	地元と協議して、その報告を受けたものについては、井戸を掘ってその水質を確認することで地元からも了承いただいていると聞いている。その内容を整理したい。	生活環境課、建設課	(生活環境課) 水質検査などの件は、地元委員会からの要望を踏まえて対応しており、今後も地元委員会と協議のうえ進めていきたい。
40	祝森	4	祝森(石丸)の上に、太陽光発電のソーラー5,000枚が設置されており、我々が監視している。設置22業者の所有者は広島から北海道と全国に散らばっており、毎月通行がある。ソーラー設備については、草刈りとモーター点検をする必要があり、我々としても、業者が点検を怠って火事がおこると大変だと危惧していた。このうち4業者は管理できておらずソーラー施設がカヤで覆われている。来年になると草刈り機では間に合わないと思うので、生活環境課に対して、市条例に基づく指導をしてほしいと申し入れた。我々も、ソーラー業者に対しては厳しい対応をしていこうとしている。	以前、三間において太陽光開発がなされようとしていた際には、神戸市における条例等の事例を調査研究した上で、新設されるものに対しては毅然と立ち向かっていく姿勢が重要であると認識したことがあった。しかし、条例制定以前のものに対しては、適応対応できないという現実がある中で、今は、地元から切なる思いとして管理会社に対して伝えている。このため、市の条例によって適宜適用することはできないが、現在でも指導助言をできるように構えている。カヤの話は今日いただいた話として、先方へしっかり伝えていく。	生活環境課	(生活環境課) 地元住民から不安の声が上がっていることは、管理会社へ通知している。 太陽光発電所の所有者に対して、適正な管理を求めていく。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
41	祝森	5	スポーツ6施設について、老朽化が進み、テニスコートでボールを打つとボールが真っ黒になる、旧温水プールは鉄アームに穴が開いている状態である。昨年、市民環境部長と話して、「そこを一大スポーツセンターにする」ということだったが、前に向いて進んでいないように思える。バッティングセンター（S54建築）については、来月の中ごろに撤去すると聞いている。	担当部署が石丸公園、バッティングセンターなどスポーツ施設に関する地元協議を行っている。要望はなされていると聞いており、健康増進につながるこれら施設について、今日いただいた話を改めて担当部署に伝えていきたい。	都市整備課	(都市整備課) 石丸公園の改修計画については、現時点の計画案が出来上がりまりましたので、関係者への説明後、市民向けのパブリックコメントを実施することとしている。 バッティングセンターにつきましては、解体業者が決まり、8月までの完了予定。
42	祝森	6	市管理の橋梁は、5年ごとに点検するようになっていていると聞いている。精密点検も含めて、予定どおり点検を漏れなく実施してほしい。	先日の地震を受けて、今後何ができるかを考えていくことも含めて、橋梁などのインフラの長寿命化を図る上で、しっかり管理していくことは国から基礎自治体に対する宿題として認識しているところである。しっかり対応するように、改めて、担当部署へ伝え、実行していく。	建設課	(建設課) 橋梁やトンネルにつきましては、平成26年度から5年に1回の法定点検を行っている。
43	祝森	7	市立病院の入院患者への面会について、病院側がどのような対応かはご存じか。 来週27日（月）から面会が前日までに病院局へ電話することによる予約制に変わり、面会は平日の2時から4時の間に1日1回20分まで、人数は2人まで同時に入室をしなければならない。個室等のみ。これは、面会したくても行くことができない時間帯であり、3人以上の場合は外で待機しないといけないことになる。感染対策が必要なことは分かるが、あまりに厳しすぎるので、もう少し緩和していただきたい。	個人的に、外来対応を受ける中で、感染症対策に慎重だという印象を持っている。入院患者に対する対応として、より慎重に行っているものと推察する。 ただ、こちらは病院局で決めていくことであり、私まで情報が来ていないことは間違いない。 不勉強で申し訳ないが、そのようになっていることは今初めて知った。病院の中での仕組みづくりは、四国西南地域の基幹病院としてその職責を果たしていく中で、厳しめのコントロールをしているということを感じる。一方、各家庭の事情を考えたり、患者への励ましをしていく（という側面）がある中、この場でお答えすることはできないが、現状を今、知ったので、病院局と話をしたい。27日からこの形は進むだろうが、その中で少しでもいうところをしっかりと検討するようにと、病院局と話したい。ご迷惑をお掛けする。	病院局	—
44	祝森	8	地震が発生した場合に、宇和島市に給水車は何台かあって、地域ごとに水を配られると思う。それがシミュレーションとして、地域には1日何回くらい来てくれるか、どれくらいの水を運ぶことができるかを教えて欲しい。 また、すぐに支援物資を地域まで運び込むことは無理な話か、どのくらいの期間で運んでもらえるのか。	災害の大きさでこういった支援ができるかが決まってくるが、一般論として、今回の能登半島（地震）では、全国1,700自治体の内、各自治体保有の給水車は1台もしくは2台であり、宇和島も1台保有している。水道に関してはネットワーク化が進んでおり、各県庁所在地、ここである松山が基幹となって、どこで水道が足りないか分析をして、（広域災害までは想定できないが、）局地的な災害に対しては、（平成30年7月豪雨災害では、仙台市や横浜市などに）コントロールしてもらった経験がある。このネットワークは、災害が起こると一気に立ち上がり、次の日には配水に向かうものであるが、これが潤沢なものかと問われると、厳しいと思っている。 このため資料に記載している、非飲用として防災井戸を地域に提供して欲しいと考えている。飲用でなくても、そういった井戸を増やしていこうとしており、今回、井戸の掘削料、ポンプ設置料の2/3をサポートしていく。足りないところを水道のネットワークが補完する。そして、最も重要なのは、各家庭では水の確保をしていただきたい。市の備蓄は、市民の3日分を確保しているものの、各ご家庭が最高の備蓄場所であると考えている。昔の5日分からは今は10日から2週間分を、という話になってきており、備蓄自体は大変だと思うが、私自身、ペットボトル2リットル×6本×20ケースを備蓄しており、これを使うときは古いものから使い、使った分を買い足すようなこと（ローリングストック）をやっている。少しでも備蓄への意識を高めていただき、備蓄への協力をお願いしたい。	危機管理課、水道局	(水道局) 全国の事業体が保有する給水車の総数は1,330台(令和3年度調べ)で、そのうち5台以上保有しているのは33事業体（最多は東京都で30台）。いずれの事業体でも個別での整備には限界があるため、災害時には相互応援を行っている。 災害時の補給頻度については、災害の程度、給水車への補給可能場所や給水所の設置数により、随時変化せざるを得ない。 〈資料〉宇和島市の状況 ①給水車：現在2台1台保有 ②応急給水所用1tタンク：現在30機保有 ※平成30年豪雨の際、吉田・三間地区の応急給水にも使用したタンク。 今後は、省スペースタイプの折り畳み1tタンクの購入を検討中。 ③応急給水袋(6L)：常備7,000袋保有 ※能登地震の状況を受け、配備箇所も含め再検討中。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
45	祝森	9	①飲料水について、大型貯水槽（100立米規模）を各地区に備えていくという想定があるが、今後、拡充の予定はないか。 また、南海トラフ地震を考えると、水の供給が3日分では到底及ばないし、家庭の備蓄も大きな家や経済的に豊かな家庭でないと難しい。給水車も1台しかないとのこと。メンテナンスがからない貯水槽に対して、ある程度予算を設けて是非実施してほしいと思う。 ②市立病院のエネルギー棟建設について、自家発電の能力は、市本庁舎も3日分と聞いている。南海トラフ地震の際、3日分では間に合わないの、燃料の予備タンクに関する計画はあるか。 南海トラフ地震が起こったら大変な状況になるので、水や食料はできるだけ対策を多めをお願いしたい。	①（発言趣旨の耐震性は）貯水槽は（旧町の基幹的な場所に計）3基を設置しており、今後、増設の計画はない。備蓄の拡充についても1つのアイデアだと思うが、まずは一番身近なところの備蓄をお願いしている。備蓄品を整備することにもかなり予算がかかることも現実であるため、たちまち、市としては3日分の確保を目標としている。 ②公共施設の備蓄については、想定すればきりがないところなので、まずは3日分の確保を目標とする建物の構造計算などを行って新庁舎の4階に設営した。エネセンについてもそういった対応としている。	水道局、財政課、病院局、（危機管理課）	（水道局）〈資料〉宇和島市の状況 (1)貯水施設 津波の影響を受けない場所で、旧市町に分散して整備。 使用法は、貯水槽に備え付けている給水栓（4栓）を開け、各自が給水。 ①耐震性貯水槽：3箇所（三間中学校60t、立間小学校30t、清満小学校30t）※水道管路の一部として機能しており、新鮮な水道水が常に貯留される仕組み。したがって、設置場所は水道水の滞留しない流量の多い管路状況が必要。なお、整備費用は約1億円程度／基が必要。 ②緊急遮断弁付配水池：2配水池（丸山配水池7000t、三浦西配水池330t）※地震時には弁が閉じ、配水池内の水が貯留される仕組み。※丸山配水池は、災害拠点病院である市立宇和島病院まで耐震管路を整備。途中2箇所の公園（中央町児童遊園、桜町児童遊園）に応急給水栓口（地下式消火栓）を設置。なお、応急給水栓は未整備。
46	祝森	10	災害時のトイレについて、簡易トイレはたくさん来ているが、工事現場で使うような仮設トイレを男女各1個ずつ避難所に配備してほしい。 自治会加入者が減少しており、去年1月に自治会未加入者に対して、加入依頼のチラシを配ったところ。自治会加入者が増えたような先進事例はないか。	トイレの件については、排泄を我慢することが一番健康を害する可能性があり、能登半島地震における避難所運営においてもよく分かった。市が保有するトイレカーは3台なので現実には全体をフォローしきれないが、このトイレカーについても宇和島市が中心となってネットワークを構築しつつある。被災した時には回してもらおう想定だが、広域となった場合の対応は課題である。吉田の時は、工事関係業者にトイレの要請をして、トラックいっぱい積んできてもらったこともあるが、実際には排泄物がたまると、それを処理する人がいないと大変な惨状になる。トイレについては計画的に購入を進めていたが、臭いや見られるということもあり、また能登半島では、自動ラップ式のトイレが相当人気があったことを踏まえて、また、厳密な個室ではないが（プライバシーを確保できることなど）事例を踏まえて、これらを追加で整備しようとしている。トイレについて、力を入れている。今後とも努力を重ねていく。 自治会加入について、頭が痛い課題である。これで解決とは思っていないが、自治会加入者へはラックポイントでも対応しようとしている。先日、街中の新マンションを自治会加入のお願いで回ると話していた。マンションこそ地域のつながりが希薄で、つい先日のことであるので反応までは聞いていない。祝森でも未加入が半々の状況であること知って驚いた。その分、自治会に負担がいつている。例えば自治会に、電気代のサポートをやっていたらいいというアンフェアな状況が続いている。自治会の加入は任意とはいえ、実際にはごみ処理や外灯などに費やされること、市としても分母を揃えたいが、そのために何が必要かをしっかり考えたい。	危機管理課、市民課（企画課）	（市民課）自治会への加入促進に係る先進事例。 ■仙台市：マンションにおける町会加入促進のため、手引きを作成。建設前・建設中・完成後における働きかけ方を紹介、既存マンションへの働きかけ方を説明。 ■出雲市：未加入世帯への防災訓練への参加を促進。 今後、加入促進を進めるうえで災害対策が加入のメリットとなると捉え、未加入世帯に加入促進チラシとともに地区防災訓練の参加を呼びかけた。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
47	鶴島	1	牛鬼ストリートの清掃と花壇の整備を始めて4年になる。落ち葉に悩まされているが、行政の力も時々借りている。丸山公園に向けての峰については見かねて初めた。メインストリートの真ん中がゴミ捨て場になっている。軽トラやライトバンで乗り付けて大量のごみを捨てたり、黒いごみ袋で捨てたりしている。もちろん、違反ゴミとして回収されないままの状態。先日のお城まつりでもゴミが捨てられていた。市のメインストリートにゴミ捨て場があるのは宇和島だけではないだろうか。戎神社の向かい側には「ここはゴミ捨て場ではない」と書いた看板が2枚立っているが、そこにも捨てられる。持ち帰って仕分けすることもあるが、多いときは対応できない。恥ずかしいことです。最近では少し少なく感じているが、おそらく戻る。あそこはゴミ捨て場ではないとアピールするとともに、該当する町内にきちんとゴミ捨て場を設置してもらいたい。 もう1つ、メインストリートを經由して丸山に上がっていく道に、落ち葉がたまり、土になり、草が生え、木も生えている。目を覆うような惨状となっている。トンネルに抜ける分岐点も、木が生い茂り景色が悪いとの声も聴いている。ぜひ市長にも上ってもらいたい。年に1、2度でいいので除去してもらいたい。せめて観光客が通る場所はきれいに、きれいだなと思ってもらうように努力をして続けている。我々市民も、自分のところの周りを少しでもきれいにしていこうではないですか。	かつて、直接話したこともあり、担当課からも報告がある。皆さんが活動していることに対して本当に頭が下がる思い。 牛鬼ストリートは中心であり、言われるとおり、本来なら別の場所にゴミ捨て場を構えるべきであるが、当事者の中で違う場所を構えることができず、今の状態になっていると聞いている。闘牛場に行く導線であり、現状については担当課も気をつけているが、対応ができていないところなので、持ち帰ってどう対応するのがよいか、さらに意識を高めたい。 丸山への道は、建設課所管で、基本的な清掃しかできていないのが現状。目的地的闘牛場で実施するイベント内容の充実だけでなく、道中のこともあるので、持ち帰らせていただきたい。闘牛の人気も高まっており、それだけの人数の方が通るため、きれいにしておくことに越したことはないの、何ができるか考えたい。 ボランティア活動をするチームを作っているが、うまくいってないところもある。これについては検討していきたい。	生活環境課、建設課	《生活環境課》《牛鬼ストリート》当該地は、周辺自治会の合同の不燃物ステーションとされている場所で、違反ごみ出しがあればシールを貼って一定期間放置して注意喚起することとしていますので、ご理解下さいますようお願いします。
48	鶴島	2	消滅可能性自治体に宇和島市が入っており、頑張っても人口は増えていかない。税収など財政の中長期計画を立てないといけないと思うがどうか。計画は考えているのか。あるのであればその状況に合わせていかなければならないのではないのか。 そのような中、建物を建てるということは正気の沙汰ではないように思うがどうか。伊達博物館は本当に必要なのかという疑問がある。伊達のお宝が市民のお宝と思わないという意見もある。市長は、共通のお宝と思っているのか。なぜ、個人の所有物に税金を使って、建てるのか。生活に困窮しているのに、中学・高校の子どもがいる人など、食事や部活などにもお金がかかる。これらに対応できるならば良いが、人口が減ると分かっているのに、なぜ建てるのか。どこまで値上がりしても建てるのか。	人口が減っている中で、移住者施策などの話もしたが、なるべく減らさないようにしているが、十分ではないことは承知している。市の財政状況については、今ある基金などをどう効果的に使っていくかが宿題となっており、これから先、人口減少の数字に合わせていかないといけないので、深化させて検証していきたい。残る公共施設の利活用について、吉田の小学校の統廃合などは具体的な話としてあるが、それだけでなく残りの公共施設は、どうやって管理していくかということは宿題で、議会からも指摘されているところ。 伊達のお宝が、市民の宝であるのかについては、色々な意見があることは承知している。現博物館が老朽化している中で、「今後どうするのか」を発端として必要な施設として議論され今に至っている。全国の博物館も、大切なものを守るという立ち位置で整理されている。これは赤字でもいいということではなく、ただ黒字でどんどん儲けるといってもいい。400年の歴史ある「まち」としてしっかり確保していくことも行政として一つの形ではないかと考えている。	伊達博物館	—

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
49	鶴島	3	伊達博物館について 建設費は、補助金などで負担が10億という話は分かる。私が言いたいのは、ランニングコスト。収入が1,800万に対して、支出が1億7,000万であり、1,500万が市の努力できる入場料となっている。5万人入っても、1,800万円を超えることは難しい。何より、これから人口は減っていく。運営費はどのように埋められるのか、後世につけを残さないでほしい。市民に説明はしたと言われるが、聞きたい人には丁寧に説明してほしい。広報の手段として、マイナカードの案内はたくさん送られてきたが、伊達博物館の数字などは回ってきていない。回覧板でまわしてほしい。HPなどでは一方通行。市と市民の間で合意形成できていないと松山大学の先生が言っていた。市民に耳を傾けてほしい。本日も市会議員が来ているが、生の声を聴いてもらいたい。人口の状況も踏まえたコストを考えてもらいたい。文化財を守ることが、収支で計るものではないが、バランスが悪いのではない。今後も続いていく問題なので発言している。	住吉公民館での話では、20-39歳の女性人口が減っているのが現実で、その世代にピンポイントで何かできないのかとのことだったが、総じて出産に対してのサポートをしているのは確かだが、その世代の方々だけが宇和島に残るように意識したものではない。また、市民に説明しないということではなく、これまでも説明会を行ってきたし、元々は議会の方々が市民の代表者なのでそこに対応していくということであり、今こういった質問を頂いた際には、しっかりお答えしている。現在の伊達博物館で9,000万の維持費がかかっており、新伊達博物館を建設した際の維持費として1億7000万を試算としてお示ししている。博物館の面積が大きくなっていることも、学芸員など新博物館で雇用する経費なども入れ、魅力ある博物館を目指すために試算している。これについては、今後、精査された数字を具体的にお示しする機会もあると思う。あとはこの地域に足を運んでくれた方が目指す建物として、また、広く経済効果として現れたらと考えている。	伊達博物館	—
50	鶴島	4	城山の登山道について 今までに、学芸員や市議にも話をしたが、整備が進んでいない。学芸員の恣意的なものの考え方で対応していると感じている。南側に登立門の水切りが、何年も前から上部から流れた土砂で埋まっている。昨日もオーバーフローしている。何度も言っているが、直っていない。そこから突き当りの石垣も崩れており直っていないので聞いたら、これも文化庁に申請していると言ったきり進んでいない。文化・スポーツ課を訪ねていった際に聞いたが、樹木名の札をシルバーの方に外してもらったとのことだが、新しいものに代えると言って未だつけていない。これも早くしてほしい。また、やぐらなどの説明書きをした標柱が立っていたがそれもなくなっている。 2月の20日前後に南側に薄紅緋寒桜があるが、古木になって枯れているものがある。これについては、樹木医に対応してもらおうと伝えられたが、具体的に行動されていない。口だけでやる気がないように感じる。具体的に行動を起こしてほしい。 登山道については市の裁量でもできると思うので、登山道もはがれているところもある。城山は宇和島のシンボルなので、博物館も良いと思うが城山の方にもお金を投入してほしい。早急に対応してほしい。	今回の件だけでなく、いろいろなご指摘もされていると思う。文化庁に対して整備計画を提出した上で慎重に行わなくてはならないとされる案件もある。今回、お話を聞いていると、そうではないものもあると感じるので、本日の意見を、一度整理させてもらいたい。 水切りのところ、樹木名の札を外してから2年がたっていること、やぐらの看板、本丸の樹木が代表的な例だと思うので、担当課と共有したい。	文化・スポーツ課	(文化・スポーツ課)・上り立ち門の排水溝の土砂は撤去済(R6.6.5) ・薄紅寒桜は樹木医の診断により、枯れ枝の伐採や整枝を実施予定。 ・宇和島城整備基本計画に基づき整備を進める。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
51	鶴島	5	4月の地震で、私の家の壁にもヒビが入った。クローズアップ現代で、黒潮町では新しい工法を開発して、強度が十分あるものを費用も安くできるとのこと。また、工期も早くできると言われていたので、南海トラフ地震が迫っていると言われる中で、その工法を採用するつもりはないか。採用してもらえれば、早く対策できるのではないか。	黒潮町の件は、住吉公民館でも同じ話があった。非常に安価にできる災害対策で、補助も出していると聞いている。宇和島市にも打診があったようだが、この施工に対応できる業者がなかなか見つからないとのことだった。住吉でも、耐震化の費用にいくらかかるか分からないが、この工法ならゴールが見えやすいので、調査研究してほしいという意見であった。近々担当が、現地に行って勉強してくるとのこと。費用だけでなく、施工が早いことも利点であると思うので、しっかり考えていきたい。	建築住宅課	(建築住宅課)低コストで可能な耐震補強の工法普及に向け、設計事務所・工務店などを対象に7月に名古屋工業大学の教授をお招きして「低コスト耐震補強」の勉強会を開催した。
52	鶴島	6	子育て支援センターに5年間務めていたこともあり、子育て世代の転勤族の方と話す機会があった。宇和島は雨の日に子どもを連れていくところがない。パフィオがあるが、4階は期待したものではなかった。財政難ということは分かるが、子育て世代を呼び込むための、子育てに関する施設が少ないと思う。伊達博物館の予算をまわせないかと思っている。そういった子どもの施設を先に充実させてもらいたい。	子どもたちの居場所や連れていくところが脆弱なのは承知している。屋内のみならず公園なども修理中のところが多くあり、直したとしても、始めに直したところがまた故障するということがある。パフィオの4階は子育てに使われており、津島地区の児童館もそれなりの評価をいただいているが、子どもの数に対して十分ではないと承知している。伊達博物館の維持費に限らず、必要なことには対応し、地域に人を呼んだり、関係人口を増やしていきたい。ご質問の内容は大変重いものだと感じており、子育て世代に来ていただくきっかけとして、あるべきものを整備すべきだという意見については、今後の施策に活かしていきたい。	伊達博物館、こども家庭課	—
53	鶴島	7	宇和島伊達藩は、例の秀吉の肖像画を持っておられ、とても大切だと思う。ただ、宇和島は立地の問題で素通りされることもある。PRの創意工夫によっては観光に来てもらえると思う。伊達博物館については、ランニングコストが大きい、もっと活かしてほしい。	何をするにも市政をPRすることについては、十分伝わっていないこともあることは承知している。伊達博のみならず、観光などまずは市民のみなさんにきちんと伝えていくよう努力したい。維持管理費については、今後、どれだけ圧縮できるかというところであり、現時点では現実的なところをお示ししている。開館まではまだ時間もあるため、これから精度を上げていきたい。	伊達博物館	—
54	鶴島	8	①世界絶対平和都市宣言をしている宇和島で、日本が国連に送った平和の鐘のことを子どもや市民は知らない人が多い。例えば吉田松陰のことを小さな頃から教育している地域もある。宇和島は平和の都市なんだということを教育として組み込むことはどうか。観光資源にもなると思う。九島の橋ができた時に、松本零士さんに平和の鐘をついてもらったほか親子鐘も作った。万博にも小鐘があるなど、宇和島にはたくさん文化財がある。世界絶対平和都市宣言をしていることを知らない人が多いのに、なぜしないのか。 ②お祭りの走り込みがなくなって数年経つ。つまらない。エイの話もあるが行政と神社との関係もあるが、今年のスケジュールに走り込みがない。お祭りの会議も、ただ説明するだけで、ないがしろになっているのではと感じる。なぜ議員が前に座らないのか、宇和島の代表する人たちが大事な祭りの会議で前に座らないのは恥ずかしいと思う。率先していかないのか。	①絶対平和都市宣言について、中川千代治さんがコインを集めて送られた鐘が国連にあること、また、その姉妹鐘である万博公園の式典にも参加した。平和について考える1つの会としていることを承知している。かつて、国際平和デーにも参加したところ、行政だけでなく、何か協働でできることを考えていくべきだと感じた。教育に関しては、教育委員会と相談していきたい。 ②祭りについては、神社との話し合いではなく、オールカマーフェスタの台所事情の問題もある。松明隊の運営をしていたYEGや企業からも厳しいという話が出ていた。コロナ禍もあり、山車の継続が難しいこととエイの話もある中で断念したと記憶している。また、昨年は神事の走り込みも見学した。松明隊ほどの明るさではなかったが、札取りの際は神秘的だったとの意見もあった。エイについては愛南町、西条市で刺された事案があって、復帰までに半年以上かかったということも影響していると思う。安全性の担保が難しいのではないかとということもある。ご意見は検討委員会ですっきり計っていききたいと思う。	商工観光課	—
55	鶴島	9	伊達博の空調が壊れてしまったがいつ直るのか。文化財を保管していることもあるため心配。	伊達博にある空調の故障については、展示系の空調で、部品がすぐ準備できるというものではない。ずっと閉めておくわけではなく、空調の部品等を確保して、早めの再開(開館)を目指す、まだ見通しは立っていない。	伊達博物館	5/26(日)から展示室系統の空調設備故障により臨時閉館、部品交換修繕により6/7(月)に再開。展示室の空調停止中は展示室及びケースを締め切るにより温湿度の安定化に努め、文化財への影響は特になかった。
56	鶴島	10	中央公民館は建て替えとなるのか、内装のリフォームか。このため、土曜塾を鶴島公民館で実施することになり、今、鶴島公民館を使っている人が困ることになる。ホリバタはそのまま中央公民館で実施するの、なぜ土曜塾だけ移動するのか？	全体の話として、今後、あの建物をどうしていくかという話もある中で、議会にもどうしていくかを説明していく話である。土曜塾に関しては、前段でどういう話があったかは分からないが、まずは議会に説明をしてからということになると思う。	生涯学習課	(生涯学習課)中央公民館の改修は、ホリバタの居場所としての機能拡充と、施設の長寿命化を目的としたものとなります。そのため、土曜塾中央教室は鶴島公民館へ、R6.6.1開講時点から移転しております。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
57	鶴島	11	民生委員の会合を行う際に、市の会計年度職員が何名か委員におり、年休を使って参加している状況である。職免扱いで参加していただくことはできないか。これは民生委員の総意として考えていただきたい。 また、なり手も少ないことから市の職員の中からも民生委員が出てくれるように努めていただきたいと思う。	地域のために力添えいただいていることに感謝したい。限られた人数で苦心され、さまざまな役職と兼務されていると聞いている。職員のその状況は存じ上げなかったもので、どういことができるか、持ち帰らせてもらいたい。 職員もまたいろいろな役割を持っているが、職員にもお願いしたい。	福祉課	(福祉課) 現行の市の条例、規則では民生委員の職務が、職免に該当する規定とはなっておりません。 なお、原則、地方公務員と民生委員の兼職については避けるべきものと解されており、なり手不足に対する職員への積極的な働きかけについては慎重を期すべきものと考えます。
58	鶴島	12	宇和島は、世界に発信する観光資源が少なく、あるものでやらないといけない。大河ドラマがあるが、舞台となった場所には観光客が来る。児島惟謙や土居道夫など、市からNHKにアピールしていくことはできないか。 また、和霊様の祭りに、昔は別府から市の職員も含めて来ていただいていたので、それを再開できないか	具体的に手を上げるということは、できていない。児島惟謙は名が通っている方であり、土居道夫さんは大阪の商工会議所会頭として通天閣を作った方。別府では油屋熊八をとことん大切にされている。宇和島で、このように有名な方がいても、十分なことできていない。プラタモリなどに取り上げられると、多くの方々から問合せをいただき、実感している中、候補として挙げられる方もかなり多いと思うが、どういったことができるか考えていきたい。 別府のことについて、当時のことは分からないが別府航路があったことも影響していると思う。宇和島出身の方も多いため、何かしら仕掛けられればいいと思う。	商工観光課	—
59	鶴島	13	大竹伸朗さんの文庫が撤去された。大竹さんは世界の巨匠で、世界からお客さんが来てきている。平和の鐘と大竹伸朗さんとかでできればいいと思う。宇和島をアートの街にしたい。アートと平和を掛け合わせて、何かができればと思う。宇和島にいいものはたくさんあるので、世界に誇る宇和島を出していければ、多くの方が来るのではないかなと思う。市長の裁量でできると思うので真剣に考えてほしい。	大竹さんや平和の力をお借りしてということだが、大竹さんはご自身の活動がご多忙で難しいと思うが、引き続き取り組むことができたかと考えている。 また平和などを組み合わせたイベントについては、こうやって組み合わせてやるんだと具体的な案をお示しただけなら、市として何ができるか考えていきたい。	商工観光課	—
60	鶴島	14	観光資源について、本日の愛媛新聞に松山では、観光客が16.1%増となっておりコロナ前の9割に戻ったとあったが、宇和島はどうか。商工観光課に確認すると、令和3年は1,964人、令和4年は2,554人、コロナ禍前は、2,916人、その前の18年は3,000人に届いていないとの事実を知っているか。人口比率からしてもおかしい。間違いかもしれないので確認してほしい。	コロナ禍により、観光客が激減していることは間違いない。 天守閣に登った人だけでも1、2万人いたので、どういう数字か精査したい。	商工観光課	(商工観光課) 平成30年：2,730千人 ※「その前の18年」 令和元年：2,916千人 ※「コロナ禍前」 令和3年：1,964千人 令和4年：2,554千人
61	畑地	1	① 高岡で12軒が田んぼをやっているが、この地域だけ基盤整備ができていない。作業性が悪いので、基盤整備事業の補助金はないか。地域の総意ではないので私の意見として発言。 ② 旧横山小学校の道路端の土地、市有地だと思うが、ここから杉が伸びており、その上に電線がある。枝がかかりそうになっているので、この杉の元から切ってもらえないか。	① 基盤整備の諸条件については分からないので、後程連絡先をいただいて個別に回答させていただきたい。 ② 小学校の件、市の土地であれば市の管理として対応していかないといけないため、後で場所を教えていただきたい。	農林課、津島支所	(農林課) ※個別に回答済 採択要件： 受益面積5ha以上 受益戸数2戸以上 地元負担：10%
62	畑地	2	この前の地震災害によって、避難所に指定される学校などで雨漏りしたり、壁が落ちたりして使えないと聞くと、避難所などの改修の進捗はどうなっているか。	先ほど南予文化会館や総合体育館でもお話したが、避難所としての機能を持っている体育館なども、なかなかの状況であった。文化施設、体育施設のみならず、様々なことに活用している。体育館としてだけではなく、全体としてすでに取り組んでいるところもあるが、今資料がなく全部に至っていないところはあると思う。全体的な整理に向けて、担当課に確認するように伝える。	教育総務課	(教育総務課) 今回の豊後水道を震源とする地震において、避難所に指定されている4箇所の小中学校体育館において、天井部材の一部に落下があり、現在修繕中です。
63	畑地	3	畑地小学校の体育館が雨漏りをしている。 昨年、教育総務課に陳情に行き、スポットクーラーを2台稼働させると、プレーカーが落ちるため、コンセントの工事をお願いした。技師の方から、今年度対応すると聞いたが、雨漏りへの対応についてどうなるのかと気になっている。	担当課に確認し、別途お知らせする。	教育総務課	(教育総務課) 雨漏り修繕については、業者に見積依頼を行い修繕作業実施を指示しています。 コンセント設置につきましては、新たに1箇所設置する方向で建築住宅課と協議、調整を行っています。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
64	畑地	4	道路、農道がでこぼこになっている。市道へ組み換えするためには幅員4mいるということは分かるが、そういう状態の悪いところが多くある。 30～40世帯の生活道路になっているところがあり、河川敷の道路と住宅道路とあるが、河川敷については狭いので離合場所もない。100mくらい突っ切る道を作った。農道であれば6割の地元負担が必要。市に対して丸抱えしてくれというものではないので、何らか市長が認めたらこの限りではないなどのルールがあれば調査してほしい。4回くらいは市（本所、支所）に話をしていろいろ考えてくれてはいるが、ルール以上のことはできないとなる。現状を把握して特例のルール作りができないか。	何とかしてあげたいという気持ちはあるが、ルール上超えられないところはある。そこを分かっていることだと思うので、どういうものが確認させていただく。	農林課、建設課、（津島支所）	(建設課)建設課としては赤道であるため材料支給の対象路線として扱いたい、ただし一度にすべての支給は難しいため、ご相談ください。 (農林課)市単独土地改良事（補助金40%）
65	畑地	5	やすらぎの温泉はいつ頃できるのか。 ストップしている感じがしたので、進行状況を教えて欲しい。	もともとH14年に整備され、井戸の調子が悪かったなどがあったがとても良い施設だったと思う。その後、地盤沈下などの不具合により休止をしていたが、いろいろ議論される中で、せめて宇和島で温泉は1つぐらいは確保したいということで進めている。実際に元々の場所で解体し、入札し進めていく予定であったが、応札がなく、私もショックであった。仮に応札があれば1年半程度でできる予定であった。特産品売り場の面積も4倍広くとって、津島の売り(特産品販売)もしっかりやっていきたいと入札に臨んでいたもの。応札がなかった理由も精査している。これはやると決めている話なので、できるだけ速やかに、しっかり原因を特定した上で再度公告する。次の入札はいつになるか分からないが、完成までの期間は伸びることになる。津島地域の宝なので皆様方に早めに温泉を提供できるように努力を重ねていきたい。	商工観光課	—
66	畑地	6	新生児は津島で17人くらいしか生まれていないと聞いた。さみしい思いをしている。学校として今後どう思っているか。	私も驚いている。市内で300名ほどを行ったり来たり。かつて津島中学は、11クラスあったころから比べれば、全体で300名しか生まれてこないということは、危機的な状況と認識している。まちを動かすには人が必要であり、熊本のような事情（世界的半導体企業の進出）がなければ人口は増えないと言われている中で、まちの魅力の発信などを決めてあきらめずにやっていきたい。 学校については、小規模校の良いところもあるが、一定の人数が集まった方がいろいろな価値観があり成長していくなどの様々な考え方がある中、地域の方々から選出したPTA代表などで構成される検討委員会の中で意見を聞き、総合的に判断されるものと認識している。	教育総務課	(教育総務課)将来の児童数推移等を見据え、教育委員会として小中学校適正規模、適正配置等に関する基本指針を決定し、6月13日に市ホームページで公表しました。基本方針における基本的な考え方として、旧3町においては、急激に出生数が減少していることから、小学校は原則1校とすることとしています。 津島地区においては、現状でも通学に時間を要する下灘小学校を除き、令和9年度に岩松小学校に一斉統合することを目指しています。今後、保護者の皆様をはじめ、地域の皆様のご理解を得ながら、子どもたちにより良い教育環境を整備したいと考えています。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
67	畑地	7	ゴミステーションの蓋が重く、開けたり閉めたりが大変になってきた。女性にとっても大変なので、蓋だけでも無理のない蓋に替えて欲しい。	いろいろなステーションがある中で、初めて聞いた事例であるため、そういったことが可能か、できるならばできることとして対応していきたいので、担当課に伝えて検討していきたい。 （自治会長）自治会長から担当課へ要望をしており、担当課からは自治会の要望としてまとめてもらい、自己負担はあるが少なくなるよう地域づくり交付金なども利用してみてもどうかといったアドバイスをいただいているため、自治会内で検討していくこととした。	生活環境課	（生活環境課）ゴミステーションの施設整備を行う地域団体等に対する補助制度があります。 補助率は、施設整備に要する経費の2分の1以内で上限10万円（100円未満切り捨て）です。 ただし、この補助金の交付を受けて施設整備を行ってから10年未満のごみステーションは対象なりません。
68	畑地	8	災害委員会ができているか、いつごろできて何回ほど開催しているのか。	災害委員会は、災害対策本部のことでよい。 先日の大雨の時も災害対策本部を設置しており、そのことであれば、日々情報が入ってきており適時、対応している。平時でも情報共有し、すぐに動けるようにしている。豪雨災害時には、線状降水帯など初めての体験などを通じて、こうすれば良いのではないかと常々話をしながら進化している。トイレカーは、その議論の中で導入した。3台の導入について少ないと感じると思うが、今後、様々な地域と連携して、いざという時に相互に派遣できるよう準備をしている。これからも市民の皆さまに情報提供できるように進めていく。	危機管理課	（危機管理課）宇和島市災害対策本部は地震発生直後に設置しています。また、災害対策本部会議は4月22日までに5回開催しています。
69	畑地	9	人口減少が甚だしいが、下灘公民館で婚活のイベントやろうとしたところ申し出がなかった。人権同和教育の総会でも、教育長が宇和島の人口減少をもう少し考えていくようなこと言われていた。できるだけ人口減少を少なくするために、色々な会に参加された際にもこのことを繰り返し言っていただきたい。周りをみても独身が多いので発言をした。	これまでもやってきたが、これからも力も入れてやっていく。 先ほどの公民館でやっていたのは自主事業ではないかと思うが、地域の問題を解決しようとする素晴らしい取組みだと思う。市として、これからも主体的に力を入れてやっていきたい。	こども家庭課、生涯学習課	（こども家庭課）こども家庭課では、今年度も婚活イベントを年4回開催する予定で、あわせて民間事業者等が主催するイベント補助を用意し、より多くの出会いの場の提供に努めています。イベントの開催や申込のご案内は、随時HPや広報等でお知らせします。また「うわじまMIセンター」では、結婚相談や会員同士のお引き合わせも行っています。引き続き、結婚を希望する皆さんを支援していきたいと思います。
70	畑地	10	地域とつながる商品券について、もっと宣伝してほしい。やすらぎの里で商品券を出していることも聞いている。また、地域の特産品知らない人が多いのではと思っており、このため生産者の売り上げも伸びないのではないかと心配している。	言われているのは、道の駅限定の国の施策のことでないか。市の事業であれば、今回で7回目になるので、大体のところで使えるようになっているので、ご活用いただきたい。特産品についてはPRが足りないという意見もあるが、やり方などについて十分に伝わっていないところもあると思うので、地域の商品をアピールしていきたいと考えているのでお力添えをいただきたい。	商工観光課	—

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
71	畑地	11	デジタル化の推進に関して、公民館への各種申込みについては紙と電子の両方で対応していただきたい。 宇和島地区では貸館要素が多いと思うが、津島地区の場合は、地区内の利用が多いので、みんながスマホを操作できるわけではない。	鶴島でも館長から同様の話を聞いている。 具体的にどのような仕組みで運用しているのかを確認して回答したい。	デジタル推進課、生涯学習課	(デジタル推進課) 公民館や体育施設などを対象に、今年度からサービスを開始した「施設利用予約システム」は、利用者の方の利便性向上を図るものであり、これまでの紙での申請に加えて、新たにスマホ等からの電子申請や利用状況の確認を可能にするものです。 (生涯学習課) 公民館は高齢者の方が多く利用されておりますので、利用状況を確認しながら、紙と電子申請の両方で対応してまいります。
72	畑地	12	自治会長の引継ぎのとき、公民館を使用したエアコン使えなかった。それは公民館の予算の関係で許可がいるということだった。いろいろな方が集まって、話し合いをしたりもするのでお願いしたい。	一定のルールの中でやっていると思うので、持ち帰らせていただければ。	生涯学習課	(生涯学習課) 宇和島市公民館使用条例により、冷暖房設備を利用された場合は、実費相当額を徴収させていただいておりますので、ご理解の程よろしくお願いいたします。
73	小池	1	避難所について。公民館と旧小学校は土砂災害などの避難所となっているが、津波の時は適用していない。市の考えてとして津波が来た時の避難所生活はどう考えているか。 道路もどういう状況になるかが分からない中で、誘導手段はどうするか。	まず、津波からの避難は、より高くより早くということで、とにかく高い所に避難してください。津波の規模によっては、この辺りだけでなく城のまわりも浸かると言われている。避難所として候補が挙げられているところは浸水区域以外の小学校とか、どういったところがあるのかをシミュレーションしている。宇和島だけでは対応できない場合があるので鬼北町などの施設とも連携して対応していくことを決めているところ。この地区における避難者のシミュレーションまでを考慮できているわけではないが、まずは身を守ってもらった上で、そういった施設に誘導していく形となる。未曾有の災害が発生すると、皆で協力してやっていくという形が現実的な話になると思う。市などがバスを段取りしてということは現実的ではなく、臨機応変にやっていくしかないと思う。	危機管理課	(危機管理課) 市では、自主防災組織等の協力を得て、直ちに適応する指定避難所を開設し、設置場所等を速やかに住民に周知することとしている。なお、小池地区では、小池保育園が津波災害に適応した指定避難所となっている。また、避難者の健全な住生活の早期確保のため、応急仮設住宅の迅速な提供、市営住宅等や空き家等利用可能な既存住宅のあっせん等により、指定避難所の早期解消に努めることとしている。
74	小池	2	空き家の所有者が亡くなった場合で、相続者がいない場合やほかの場所にいる場合、台風などでその空き家が崩れたりしたら強制的に撤去できるのか。隣の家が崩れたりするなど。	財産に市が手を加えるには、一定の手続きをしていかなければならない。あくまで、本人が処理するというのが原点である。 今は、建物を建てている方が税金が安いとなっているが、これではいけないということで現在、国において論議されている。国全体の話なので何ともしがたいところではある。今、市の老朽空き家として認められると、解体費用の補助制度がある。	建築住宅課	(建築住宅課) 相続人が存在する場合は、市外であっても、相続人を調査して空家の状態を通知している。 相続人がいない場合は、「相続財産清算人」、所有者が分からない場合は「所有者不明土地建物管理人」の選任を、利害関係人がそれぞれ管轄の家庭裁判所又は地方裁判所へ申立てするのが基本となっている。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
75	小池	3	地震で荷上場に被害が出ていたが、早急な対応に感謝する。小浜の避難道の上に、上水道の貯水タンクがあり、近くのス光工業（土地）の擁壁が崩れかけているところがある。昨年も市の担当者に来てもらったが、市内で同様の状況が60ヶ所あるのでなかなか対応できないと言われている。写真は撮っている。	何かしらの対応をしなければならないと思っているので、今日いただいた話として担当課に確認したい。	水道局	(水道局) 現地確認により、亀裂は配水池自体ではなく、周囲の擁壁に生じている。 補修の必要性の有無及びその方法について検討する。
76	小池	4	冬場、北風が吹くと真珠のいかがが傷んでしまうことがある。水産課に相談すると、防波堤の建設には5億円かかると言われており、内湾の防波堤がなければ一定の効果があるかもしれないが、シミュレーションでは費用対効果が足りないで難しいと言われた。カーブのところに、テトラポットを置くのはどうかと聞いたが、ゴミがたまるので今は推奨していないと言われている。これは県道の傍なので県の所管か。	テトラで対応できるものなのか。一度、担当課に確認させていただく。	水産課	(水産課) 要望箇所へのテトラポットの設置になると、防護対象施設が県道となるため、水産課としては対応できない旨回答済み。
77	小池	5	小池保育園は地元にあるのに、地元の子どもが入っていない。私も娘が入れるか分からないと言われている。せめて地元にある保育園なので入れて欲しい。まだ娘は7か月で、0歳児の保育はやっていないので来年の4月から入れたいと考えている。	地元の人が入れるようにしてほしいとのことだが、なるべく送迎などの負担にならないようにという考えで、基本的には地元が優先されるものと思っている。今の小池保育園と、全体の状況を確認させていただく。	こども家庭課	—
78	小池	6	ここにいる半分以上が真珠養殖関係者であり、真珠母貝の大量死に関しても、すぐに検査をできるような体制整えてもらっている。今後も手厚いサポートをお願いしたい。	真珠については、コロナの手前の夏頃から大量へい死が続いている。水産庁などにも何度もお願ひに行っている。徐々に年数を重ねる中で、水産課中心に、なるべく早く情報伝えるよう対応している。産業の火を消すわけにはいかないで、魚類養殖も含めて国・県の力を借りながら行っていく。真珠母貝の強いものを生み出すためにいろいろ取り組まれている。真珠の絶対数が少ないので、単価をより高くというよりは、ある程度の数を確保して安定させる方が良いと思う。いろいろな意見をいただきながら市として対応したい。	水産課	(水産課) 市内各漁場アコヤガイ稚貝のモニタリングを3月下旬より週1回の頻度で実施している。顕微鏡観察及びPCR検査で異常が確認された場合は、県漁協真珠課の公式LINEやFAXを通じて、真珠母貝・真珠養殖業者に対し情報提供及び注意喚起を行っている。
79	小池	7	大量死の前段で、今年はふ化の段階で死んでいる。場所が悪いのか親貝が悪いのか、愛南ではそこそこ失敗せずに進んでいるようだ。昔から言っているが、試験場と愛南漁協、地元と一緒にって親貝の研究していたと思う。高齢化などもあり、ふ化の段階で失敗したら業者がなくなってしまうし、県外から入れても陽性となったりとイタチごっこにもなっている。何とか一緒にやって欲しい。	民間で種苗を生産している業者や水産試験場があり、種苗生産でタッグを組んでという点では、以前、県漁協の会議において、何か関わっていく必要性を感じた。市でも情報発信をしつつ、種苗の研究もしている。1つの目標に向かっていくことが回復につながるが私も思っているが、うまくいっていないことが現実である。引き続き、そういう関係性でやっていくことを訴え続けていかなければならないと思っている。これからは努力を重ねていく。	水産課	—
80	小池	8	自治会に入っていない方がいる。自治会の存続にも関わるので、どういう風に対処していけばいいのか教えて欲しい。	祝森地区でも半数の方が自治会に入っていない状態と言っていた。入っていない方に対して、広報が配られないことや、防犯灯の電気代や見回りなど自治会がやっていることの啓発などを行うが、なかなか理解してもらえない。もっと市が前のめりにできないかと言われることもある。大きな金額ではないがRUCPOINTなども行っており、力を入れていかなければいけないと思っている。	市民課	(市民課) 市連合自治会で作成した自治会加入促進マニュアルQ&A等の資料が市民協働推進室にありますので、ご相談ください。 ■現在、市民課窓口及び4支所の窓口にて転入者へ対して、自治会加入を呼びかけるチラシ及び加入者へRUCPOINTを付与することに関するチラシを配布中。(RUCPOINT付与開始時期は10月以降の予定)
81	小池	9	旧小学校のプールを管理する所管はどこか。火災が発生した時のための水利としておいていと言われているが、ポウフラなどが湧いているため、どうにかできないか。	旧小学校のプールは教育委員会が管理している。基本的には廃校となった後もそのままにしている。地域にそういう害が発生しているということなので、このまま同様の管理を続けていく理由があるのかも含めて、どういった対応ができるか検討させていただきたい。	教育総務課	(教育総務課) 廃校のプール施設については、防火水槽の役割という一面もあるが、小池小学校は目の前が海であるため、地元や消防団等とも協議し、水を抜く方向で検討している。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
82	市役所	1	2年前からの問題として、新内港や樺崎における不法係留や放置船の状況が悪化している。特に新内港では（係留の上）個人営業をしているので、早急に対応をして欲しい。樺崎についても亡くなった方の係留船がそのまま放置されていたり、市外の方も係留している状況である。宇和島市以外ではそのような（市外の方の係留を許可するといった）対応はしていないと聞いている。	かねてより、新内港での渡船営業と不法係留船の件については、県の港湾であるため、その都度、どういった対応ができるか、県の担当課と調整したり、直接話をしたりしている。つい先日、話をした時に係留船の行き場がないという事情がある状況を踏まえて、県との話をしていくと、これから有料化を含めて対応をしていくような話も聞き及んでいるところです。宇和島だけが市外の係留を認めている、他市では認めていないというルール面の対応は聞き及んでいないため、後日回答する。	建設課	(建設課)宇和島市だけが市外からの船の係留を認めているわけではない。 市外在住者から観光目的等の係留の問合せには浮桟橋の利用を案内しているが、長期係留の相談があった場合は、近隣のマリーナ等を利用するよう勧めている。 <参考> プレジャーボート係留施設の使用について市内在住者を条件にしているケースはある。（松山市）
83	市役所	2	市内全域の道路において 防災として道路上に避難の指示を示すようなプレートや、夜間にも見えるように設置してほしい。また、現在は南文が使えないが、避難所に指定されており、城山も避難場所、避難経路上でがけ崩れにあうおそれもあるので。（安全に）逃げれるよう整備してほしい。	避難所（南文と体育館）については、今後もそれが起きないように改修を進めている。各施設の設計者の施工会社に現場へ来てもらってアドバイスを受けたところ、南文は音響の施設として評価されていたために、複雑な構造設計ゆえに（修理に）時間がかかる。文化・芸能の聖地だが、一定期間は要するものの、速やかに解消できるように対応したい。 城山周辺のがけ崩れ防止について、大きな障害にならないよう、周辺の住家に迷惑がかからないような施工を順次していきたい。登山道におけるがけ崩れ防止対策としては、独自でやれることと整備計画の範疇として文化庁とのやり取りで進めていくことの2通りの側面がある。防災の側面としても、今回の意見を担当課と共有する。	危機管理課、文化・スポーツ課	(危機管理課)津波避難誘導標識等を多くの地域住民や観光客の皆さんの目につく場所に設置するため自治会、自主防災組織、事業所等の協力を募集しながら進めていますので、ご協力をよろしく申し上げます。なお、津波の避難場所は災害の規模等により使用できない場合もありますので、複数の避難場所を想定しておくようにお願いします。
84	市役所	3	江戸末期から明治にかけていらっしゃった偉人をもっと生かして、観光地としてブライドを持って、人が来られるようなまちにしていきたい。	「本物があるまち」として、宇和島城や産業系の段畑などをどう扱うかがテーマの中心にある。本物を意識しながら観光の案内をしていく。4年前、商工観光課を中心に、「宇和島本」という観光パンフレットを作った。写真を多く、本物を厳選してピックアップするなど分かりやすく作成し、全国で1位の評価をいただいた。これからも更新を加えながら、「本物があるまち」としてしっかり挑戦していきたい。	文化・スポーツ課、商工観光課	—
85	市役所	4	①4月に起こった地震の後、6月広報に被害の報告などが掲載されなかった。わが家も被災し、ひめぼん（4/24放送分）に取り上げられたが、その際、市は10万から5万円を支援するといっていた。地震対策で改修補助はあるとして、今回の被災に対する支援が見えない。今回の地震に対する支援はないか。 ②愛媛新聞（5/20掲載分）に投稿したが、地域の自主防の方に助けられた。23：14の地震発生から23:30には自主防の方が安否確認に回っていた。1ヶ月前に地域の夜間避難訓練をして、役に立った。おかげで、寝室にヘルメット、持出袋、着替えを用意し、すぐ避難できた。地区防災の取組みと訓練が大切だと実感した。切実なものとして全域に広げてほしい。 愛媛大学の先生が今は、歴史上大きな地震の前触れのときと似ているといっている。今回の経験を教訓にして、議員の中でもその行動を真剣に考えて、今からの対策に繋げてほしい。	①広報制作におけるタイミングもあり、自由度の高い「市長の部屋」で触れたが、その具体的な内容を差し込めず、申し訳ない。また、被災についてお見舞い申し上げます。災害の基準が一定以上ものについては国の支援があるが、今回の地震については該当がなく、市においてかなりの件数があるため、色々な検討をしているところ、それについて（別途）お知らせしたい。 ②豪雨災害でも、いかに自助・共助の（意識を）高めていただくか、行政からの支援を待つのではなく、まずはご自身の命を守る自助と訓練をもって自主防災の共助を高めていただくか。今回の防災組織の活動成果そのものだと思う。 避難路に電気をつけるなどの整備については危機管理課で補助しており、すべての避難路を網羅できるものではない。今回のご意見で、施策の方向性としては間違えていないことを確信し、共助の力をさらに高めていくことに力を入れていきたいと思う。	危機管理課、福祉課	—

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
86	市役所	5	伊達博物館建設に反対。私見だが、宇和島は経済が回っていないので、このままでは消滅都市まっしぐらの死にゆくまちである。原因は、市民の急激な貧困化で、収入が生活保護費より少ない、最低限度の生活を満たしていない方が急増していること。知人にはがんになっても治療を断念して、亡くなった方もいる。市民は深刻な生活苦にあえいでいる。 ・避難場所の天赦公園が、南トラ地震による液状化のレッドゾーンになっている。昔のレンコン畑で軟弱地盤に建物を建設することは、歴史的史料と市民の血税を海に捨てるようなもの ・天赦公園は緊急避難場所であり、発災後はヘリが離発着して食料供給や仮設住宅の拠点となる。ここに建設することは、有事だけでなく、その後の市民生活に悪影響を及ぼす。 ・伊達博の展示品、文化財は、あくまで宇和島伊達家、一市民の所有物でしかない。仙台伊達家の約10万点の文化財とは違い、市は文化財を借りているだけである。 ・53億の建設費、47億9千万の債務負担行為、1億7千万の年間維持管理費について市民について説明をしてほしい。地震で多くの住宅が被災し、市は罹災証明とブルーシートの配布のみ。多くの市民は壊れた屋根の下で、集中豪雨や地震の恐怖におびえて暮らしている。人命を守るため、優先順位を考えてほしい。 伊達博物館建設を中止にしてください、市民の意見と命を無視して建設を押し進めるか。	伊達博物館のみならず、市の必要な事業として進めている。宇和島に土地がない現状もあるが、伊達文化を集約した先が、現在の建設予定地となる。市役所も埋立地であり、杭を打って強度を確保しており、天赦公園も（そのように）しっかり対応する。 緊急避難所としても、建物前面にはグラウンドがあり、一定対応できるだろう。今から400年あまり前の宇和島の歴史そのものとして、本物の伊達家の財産を市がお借りしながらしっかり確保・展示していきたい。47億の債務負担行為はいろいろ積算しながら枠で設定しており、財源は77%を国支援等で確保していく。20数パーセントは市が頑張って拠出することになるが、まずは理念をしっかりと組み立て、次に財源をどう確保するかということに力を入れている。維持管理費について、今は概算だが、いかに圧縮できるかは、このタウンミーティングを通じてご意見をいただいたところであるが、しっかり精査していきたい。こういったリアルに本物を味わっていただくことはもとより、宇和島に来ていただく方にしっかり滞在していただくよう広報、PRを着実に進めていく。	伊達博物館	—
87	市役所	6	京都から宇和島にきた。現在、地域づくり協議会の会長を務めるなど、地域づくりの活動を始めて10数年になるが、この「規約」が何も変わっていない。地域の問題に対応しようにも規約外だから駄目だといわれる。地域の課題に対して、もう少し前向きに対応してほしい。海岸部では、地域猫の問題があり、手術から迎えに行くことで3万円弱の費用がかかる。これに対して8千円の補助というのは、対策する気はないのか、と思う。また、これも地域づくり交付金では規約外という扱いになる。もう少し血の通った対応を。 地域づくり協議会について、企画課と話し合いをした。他地域で何をしているかを共有できていないので、各地域の会長などで話し合いの場をもたせてほしい。	協働のまちづくりを具現化する中で、お力添えいただいていることに、まずもって感謝する。 各地の様々なご意見をいただく中で、これら取組を広く発信できてないところであるが、地域猫の去勢については、4月からOKとして、さらに拡充したところもあり、しっかりお伝えできてないところでもあるので、また担当から連絡させていただく。 他地域の事例をコミュニケーションする機会、他地域の事例を共有したいという趣旨と理解しているが、これについても具体的に提案をいただいているので、何とか検討していきたい。	企画課	(企画課)猫の不妊去勢手術については、地域づくり交付金の対象事業となっている。 また、地域づくり交付金については、活用事例を広報誌等で紹介しているほか、協議会の役員等を対象とした研修会を開催しており、その中で、意見交換の時間なども確保しているため、ご参加いただければ幸いです。
88	市役所	7	人口減少については、どのまちも死活問題。このままではともだおれとなるので、宇和島圏域で生き残れる施策を実施してほしい。例えば観光では鬼北、松野に来てもらった人を宇和島に、伊達博物館などに来てもらえるように、関係市町と一緒に考えてほしい。	観光では圏域でといった流れで、知事も発信している。確かに、広域事務組合など定住自立圏で各地域に役割などを持たせながら協力しているが、まだまだ大きな効果など十分でないところである。圏域全体でカバーし合いながら、どういった形となるか検討していきたい。	商工観光課	—
89	市役所	8	宇和津町にある、滑床溪谷に続く登山道に駐車場を整備してほしい。幅広い世代がたのしめる登山道なので、登山道の一部（空き地）を購入して公園にしていいただき、駐車場として整備をしてほしい。	愛宕山のあたり（後で、地図上で確認）のすばらしさ、全体的な話として、海から短い距離で、山へ通じる特異な環境があることから、山の整備を積極的に、という方向で松野町と話をしている。全体の話としてしていくべきと思うが、指摘の場所が市の所有であることはありうるので、景観の素晴らしさプラス何かへ繋げていく流れが重要だと認識している。	都市整備課、 商工観光課	—

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
90	市役所	9	伊達博物館について、建替反対ではない。博物館は好きで、立派な博物館ができるのは賛成。大きな建物なので、やはりランニングが1億7~8千万円と（多く）かかり、入館料を考えると、大きく赤字になるので、ホントにこのままでいいのかと心配に思うが、周りの方はあまり興味がなく、それ自体が問題だと思う。市長のいう伊達文化を中心とした観光、まちづくりで、市民自身がそういう機運になれてないのでは。映画館がない、お芝居や演劇環境が整っているとはいえない、その他文化的なものに大人も子どもも触れる機会が少ない。ホリパタ事業も、シティブライドを持ってもらいたいということで、市外に出ても帰ってもらえるように、というが、地域での遊び（海や山）など豊かな自然に触れる環境がない、子どもだけで遊ぶようなところもないので、結局、大人が楽しんでいないようにまちに、子どもたちは帰ってこないと思う。 また、今回は、人形劇の事業に携わって、全体的にこういうことに関心が低い職員が多いと思う。文化的な側面で、大きな意味で考えていかないと、魅力のない「まち」になる。	伊達博物館のランニングコストについて、現博物館で9,000万円かかっているが、新博物館ではしっかりアピールできる内容とする概算なので、今後、しっかり精査していくもの。博物館事業はどこの地域も（大変で、）金沢21世紀美術館など、当初は大反対されていたが、いろいろと努力を重ねられ（運営しており、）黒字化はなかなか厳しい。 旧町にも吉田のおねり、岩松の町並みなど代表的なものには力を入れながら進めていく。演劇など行政ですべてに対応しにくい部分もあるが、大人が楽しめないものではダメだということとはよく理解できる。建てること自体が目的でなく、民間の知恵を借りながら、我々の暮らしをしっかりと維持しなければならないと思う。 平成25年ごろ、当時の中高生にアンケートが実施されたこの結果が驚愕で、子どもたちが「宇和島を知らない」という結果となっていた。ホリパタ事業の出発点はそこにあり、その後、海士町などを視察し、いいものを真似しながらの拠点づくりをしようとしている。しかし、まだ道半ばであり、帰ってきたいまちづくりをしようと、まち全体がそういう機運にならないといけない。努力を重ねていく。	伊達博物館、文化・スポーツ課、生涯学習課	—
91	市役所	10	①伊達博物館と道の駅やすらぎの里の建替は、大変な事業費。人口減少の中、これだけのお金をかける必要があるか。宇和島の市政として、どういう博物館を建てるのか。場所や規模、やすらぎの里も今は更地で応札者なし、そういう状況の中、ほんとにこのまま続けていくことが真意か、発展と活性化に繋がっていくか。建設事業がこのまま進んでいくと負の遺産になるのではないか。行政と市議会で、文化事業として50年100年と続くことになるので、しっかり考えて欲しい。 ②市長2期目で、しっかりしたビジョンが見えてこない。例えば、400年の歴史と文化が共生する観光都市とか、衰退した南予地域の経済をどう底上げするか。市民は右往左往して日々生活している。物価高騰などの市民目線に沿った行政をしてほしい。この件は、大変な責任問題で、市議会でも8名の博物館反対者がいる、賛成者はどう考えているか、しっかりシミュレーションしているのか、もっと危機感をもって取り組んでいただきたい。	①伊達博物館と熱田温泉は、性格が異なる整備である。 伊達博物館は、建物自体が老朽化する中、歴史文化を守るという観点。 熱田は、H14建築で20年経過し、機器の不具合で再出発が困難であり、かつ民間での対応困難な中、少しでも市民の福利厚生に寄与しようというもの。 建設費の財源は、伊達博物館は国支援が77%でありこれは整備・計画に対する評価だと認識している。一方、熱田温泉は、補助なしで起債のスキームを活用。 性格は違うが市としての必要な施設として整理している。 ②ビジョンは「本物を味わえるまちづくり」とし、伊達文化もそうだが、都会と同じようなものを建てるのではなく、地域の特色を感じられるものにしたいと考えている。経済については、周辺を巻き込む力のある、特色ある取組みを（市を挙げて）、議会の皆さんとこれから対話をしながら進めたい。	伊達博物館、商工観光課	—
92	市役所	11	本日、皆さんに提案したいのは、伊達博物館などを整備した後、市外から人を呼ぼうとする時に、宇和島のまちは汚いと思う。美化運動を始めて気が付いたのは、空き缶、ペットボトル、たばこの吸い殻が見受けられるため、宅前がN.T.T通りで、ささやかでも花植えをしている。それに護国神社上の惨状は、目に余るものがある。以前、お願いしたことがあるが、国のものだから対応できないと言われた。市として、その辺の整備をお願いしたい。今、73歳で、歩きながらゴミ拾いをしている。「老いの力で」市民の皆さまにもご提案したい。朝日町ICをおりたら、駅前通りも雑草があり、行政ばかりでなく市民自ら街の美化運動をしてほしい。	先日も牛鬼ストリートから丸山にかけての惨状をご指摘いただいたところ。私も昼休みにきさいや広場からホテルイシバシを回ってゴミ拾いをしているが、吸い殻は結構ある。植え込みにもゴミが隠されてることも実感としてある。市民のお力を借りながら、サポーターズ（企業の皆様にサポーターになってもらって、美化していく）間の情報交換しながらまちの美化運動に努めていきたい。 「老いの力で」という言葉は心に響く。行政がやるべきことをしっかりやりながら、サポーター制度を含めて、やりやすい環境対策を検討しながら進めていきたい。	生活環境課、（商工観光課、伊達博物館）	（生活環境課）さまざまな主体によってボランティア清掃が実施されており、市もこれまで以上に支援に努めます。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
93	市役所	12	人口問題として、20歳から39歳が50%へと減少しており、若い方が宇和島から出てしまい、ひとり親家庭も多い。 年間で1,179人が減り、多い時は2年で3,000人減っている。 伊達博物館のランニングコストのことで、このコストを埋めるのは人口で、これが減少しており、また、経済も衰退している。収入は入館料だけで、5万人×1,300円で考えているようだ。 市民が説明しろといえ説明しないといけない。伊達博物館の価値は利用者の便利さに関する記載が必要。例えば、来館者の人生観が変わったとか、（伊達文化の）勉強を始めたとか、利用者が得られる具体的な効果を調べないといけない。一般に、博物館経営は危機的な状態で、永遠に支出することになるので相当の覚悟が必要だと思う。 回覧板で周知してほしい。松山大学の先生は、（本件について）わかりやすく説明しなさいと言っている。愛媛大学の先生は、赤字が出たら利益収入が上がるように、入館料の設定など、自己資金で賄わないといけないと言っている。	入館料の協議はこれから行う。概算は、これから精査されるものであり、入館者の5万人もそれで終わるものではない。民間の英知をお借りしながら進めたい。 現伊達博物館では経営のところを含めて十分でないが、空調の故障など施設としての限界もあり、新伊達博物館では現伊達博物館と同じような経営をするわけではない。努力を重ね続けたい。	伊達博物館	—
94	玉津	1	耐震関係について、耐震診断の申込みを4月20日頃にしたが、担当課から混んでるので審査に時間がかかると言われていた。その後、1か月くらいたっているのに、どのくらいでできるのか審査の進捗状況を教えてもらいたい。 また、玉津地区では、若い後継者が多い方だと思うが、婚活はどういったことをしているか。参加しやすい方法などの取組みを教えてください。	耐震診断の申込みは、想定を超えて相当多いと聞いている。予算的なものもあるが、足りない部分は議会に諮り追加していく覚悟である。後程、個別に回答させていただく。 若い方の婚活は、県や市がやっているものがあれば、公民館主催で行ったりもしている。出会い、結婚に対して、力を入れることは間違いなくやろうとしていることであり、MIセンターなどの具体的な場所も構えているが、問合せしにくいなどの意見もいただいている。現状の数字などは持ち合わせしていないが、もっと力を入れて、やり方なども工夫しないといけない。今一度確認させていただく。	建築住宅課、こども家庭課	（建築住宅課）地震の影響により申込者が多く、診断業者の協力で急いでもらっているが、現在、お申込みから交付決定まで約3ヶ月程度掛かっている。 （こども家庭課）こども家庭課では、今年度、婚活イベントを年4回開催する予定で、地域産業の後継者不足解消を目的としたイベントも計画している。あわせて民間事業者等が主催するイベント補助を用意し、より多くの出会いの場の提供に努めている。イベントの開催や申込のご案内は、随時HPや広報等でお知らせする。ぜひ参加の検討を。また「うわじまMIセンター」では、結婚相談や会員同士のお引き合わせを行っていますので、イベント参加が難しい方は、こちらをご利用いただければと思います。
95	玉津	2	独身の方は数多くいると思うが、男性が女の人を惚れさせる能力が乏しいのかなと思うが、昔より家の外で遊ぶところも減ったことも影響しているかもしれない。女性と比べて、男性は自分を磨くなどといったところが足りないと思う。そういった段階で、男子力アップ講座などそういう企画も面白いと思う。	本質を磨くというか、それは必要なことだと思うし、本来の課題はそこだと思う。実際は女性の求める人間像に合致するかどうかだと思うが、今行っている施策では、男子力を磨くことなどは十分ではないのかもしれない。効果がなかったら、次にどうするか、ということになると思うが、施策の段階で参考にしたい。	こども家庭課	（こども家庭課）独身男性を対象に、昨今の結婚の状況に関する情報提供や、出会いの場に役立つ自己アピール方法を知って頂く「スキルアップセミナー」を実施しており、今年度も婚活イベントの開催に合わせて実施する予定です。

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
96	玉津	3	男性の魅力に関する課題もあるが、宇和島市に住みたいと考える女性が増えていくことが必要であり、このあたりの情報発信などはどうするか。宇和島の駅前がきれい整備されたが、その先のところとして、魅力的な場所にするなど、どうされるのか。 夕日を見に来る人も多くおり、景観や食べ物の発信方法など、ネットの情報公開の仕方などどうするか。	20－30代の女性が減っているのは確かであり、女性の求める「まち」としてどうかという課題もあるかと思う。例えば、まちにカフェができ、そこでバイト募集すると、人手不足と言われてる中でも、多数の応募があったと聞いた。女性が働く職場として、お洒落なところで働きたいということの裏返しかもしれない。いろいろと課題がある中で、民間が参入しやすい仕組みなども必要だと思う。防災上・美観上のアブローチだと思うが、パフィオの前を開けさせてもらった。さらに、かどやが所在する1ブロックは話が進んでいる。その先は、都市再生整備計画事業の第3期計画で予定している。市役所の前のところもあるが、どうやって行くかを今、考えているところであるが、美観を整えていかなければならないという考えである。 観光分野でいえば冊子などは評価いただいている。SNSについては世代に応じて発信の仕方が変わってくることもあり、宇和島百景などの魅力の発信も、ターゲット世代に対応して、冊子なども活用しながら努力を重ねたい。	都市整備課、 商工観光課、 市長公室	—
97	玉津	4	豪雨災害前は小名トンネルあたりが避難所だったが、被災を受けて、使えなくなった。緊急避難場所がどこかと地域の人も把握できておらず、天満神社まで行けばいいのでは、という認識である。市としても軽々しく言えないと思うが、決まり次第、こういう時はここに避難してくださいなど教えてほしい。そして避難先に物資などあれば安心する。	現在の避難所は、危機管理課がどこかは把握して、指定していると思う。個別に把握はできていないが。県との取組みで、避難所までの道に照明を付けるなど補助制度をしているが、ご指摘の内容は再検討して、十分対応しないといけない案件なので、個別に連絡させてもらう。きっちり確認させていただきたい。	危機管理課	(危機管理課)※個別に回答済み 防災マップ等に掲載のとおり、津波災害時の避難場所として、周辺には「県道玉津港線（小名隧道付近）」と「畔屋・小名農道」を指定し、後者には備蓄倉庫も設置しています。ただ、これらは目安であり、この避難場所にこだわる必要はなく、津波災害警戒区域外の高台に速やかに避難することが重要です。天満神社も標高約15mとなっています。 また、令和5年度から3年間、県と連携して、夜間を含む避難対策の補助金を拡充強化して津波避難路等の整備促進をしています。新たな避難場所の指定にも対応していますので、安全安心に避難できる環境整備にご協力をよろしくお願いします。
98	玉津	5	再編復旧した場所の上に避難しようかと考えていた。どこからが安全かわからないので、危機管理課と地元で相談したい。今回の地震では津波は来なかったが、強い地震があった場合どうするか。津波のおそれがない、震度が強い時はどう備えるかなど防災講座などしないといけないと思うので、検討して欲しい。	市役所で実施したタウンミーティングで白浜地区の方が、自主防災組織の方が地震発生後に、一軒一軒回られたことで本当に心強かったと言われていた。これは訓練されていたことで、ヒントになるのではないかと思います。持ち帰らせていただきたい。	危機管理課	(危機管理課) 防災強化アドバイザーによる防災出前講座や防災訓練の支援をしていますので、お気軽に、危機管理課までご相談ください。
99	玉津	6	小学校が統廃合することで、今ある植栽をPTAで切ろうとしていたが、今後、敷地が広いため管理ができなくなる。管理が公民館になったとしても、なかなか対応できない。公共のものを対応するために事故があってもいけないので、地元要望として伐採を要望した際に、どう負担していくか心配。一般的な考え方でよいので、ご検討いただきたい。	現在の仕組みでは、現役の学校では、用務員や学校が対応したり、PTAなどにお手伝いいただいている。廃校になると、地域の方々に若干ながら謝礼をお支払いして行っている。地元もなかなか管理できない、ということであれば、今でも大きい木は市が管理するということになっている。これについても、しっかり検討していきたい。	教育総務課、 生涯学習課	(教育総務課) 廃校後の植栽管理・草刈り等については、市教育委員会の作業員による草刈りや、地元自治会等に協力いただける場合は「宇和島市廃校・休校管理活動謝礼金交付要領」に基づき、謝礼金の支払いを行います。なお、高所での作業や危険を伴うような木の伐採等は専門業者に委託するなどの対応も検討していきます。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
100	玉津	7	公民館機能が小学校跡地（予定）に移っていくことが現実的だと思うが、今の体制で管理していくことは難しいと思う。敷地が広くなるし、PTAの力も借りるのも難しくなる中で、なおかつミカン研究所もあるし、草ぼうぼうのグラウンドでは恥ずかしい。管理も、企画関係に代わると聞いているし、雨漏りなどもあるので、施設の管理的なところも、今後うまくできるよう検討してほしい。	公民館を小学校のところに移すかどうかについて、検討委員会にて検討されると思うが、市として小学校跡地の活用方法について考えているのは事実。コストがかかるとをどう対応していくかということは、今のPTAや公民館にお願いしている現状から、発想力を変えて、今一度、その体制についてもしっかり検討していきたい。	教育総務課、生涯学習課	(教育総務課)跡地は教育委員会が管理。気になる点はこちらでご連絡ください。 跡地決定までは教委管理。決定後は新たな管理者が適切に管理。 公民館＝市が管理。
101	日振島	1	これまで、市職員の動きは良かったが、最近遅くなっている。職員募集の広告を出しただけで、広告を出すのも遅くなっているし、募集しても来ない。人が来ないので公民館主事をお願いすることになった。宇和海支所長は人がいないので閉めても良いと言っているが、そういうわけにはいかない。看護師についても同じで、何人の応募があったかも教えてもらえなかった。こちらに関係することだから教えるべきではないか。宇和島市の端で仕事をしている人のことはどうでも良いのか。	支所を支える職員がいないことは申し訳ない。今は何をしても人が集まらず、民間のように条件を変えれば良いが全体の話もあるので難しいところである。看護師の募集は、色々考えながら対応しているが、実際にできていないことについて説明が足りなかったと思う。丁寧にスピード感をもって、これからもしっかり対応していきたい。	総務課	—
102	日振島	2	伊達博物館は、結構な金額だがどうか。 伊達博物館に行ったことはないが、どこかタイアップ企業など見つけて、伊達博物館の中に飲食店を入れるなど負担を軽くするのはどうか。	400年あまりの歴史あるものを大切にしていくことは地域の責任だと思う。この計画対して、国からの支援が大体77%で、建物に関しては9億円程度が市の負担となる。 飲食などについては、博物館のルールとして、本体の中ではできないが、離れたところにジュースなど飲むところを作る予定。規模の賛否は色々ご意見をいただいているが、（説明不足かもしれないが、）すべての費用を手出しだと思っている方も多。この事業は国の都市再生整備事業を活用していくもので、国からの期待感もあり、それに応えていく中で、市の手出しはどうしても必要なため、企業の力などを借りて負担を減らしてはどうかというご提案だと理解し、知恵を出しながら実施していきたい。入館目標を5万人としているが、是非とも本物を見てもらい、来ていただいた中の1万人が宿泊や食事などで1万円使っただけであれば1億円の波及効果があることも考えていかなければならないと思う。これからも努力を重ねていきたい。	伊達博物館	—
103	日振島	3	喜路地区では高齢者が5割以上で、ヘルパーを頼んでも来てもらえない。今は介護が必要な方がいないが、これから必ず出てくる。なぜ来てもらえないかご存じでしょうか。 市議会議員にも言っているが、社協に任せているので直接話してくれと言われて相談すると、日振島に行けるヘルパーがいないので誰かを紹介してくださいと言われる。今は必要なくても、4、5年先には必ず必要になるし、地元施設もないので、施設に入りたくてもすぐには入れないなど不公平感もある。ヘルパーも来てもらえないのでそこを考慮してもらって、島の人の入所は早めるなど配慮してもらえないか。ヘルパーを頼んだら運賃がかかると言っている人もいるので、そのあたりの制度を知らないのではないか。	介護保険料の中での計算の問題ではないか。もともと戸島でヘルパーの養成施設を設立して派遣しようとしていたが、あまりうまくいかなかった。離島地区に対して、いつも思うことは介護保険料を納めていただいても、街中との不公平感を突破（解決）できていない。そこを誰がやるかという所で、社協とも話して、これを公に近いところがやるべきではないかというところで、道半ばとなっている。 施設への入所については、現在、介護度に応じて順番を決めており、市内と離島地区でもそこは同じであり、介護度が高い方から入所するなど、基準を定めないといけないので、そこは難しいと思う。民間介護は赤字であってはいけないので、どこがやると思ったら公に近い社協等が対応すべきだというのが私の考え方。大きな課題として持ち帰り、担当部署にも何とかできないか伝えた上で、整理したい。	高齢者福祉課	—
104	日振島	4	去年の3月に移住してきた。なにが不自由かというと、母が介護1で90歳になる。兵庫から移住したが、前は週3回デイサービスに通所していた。社協にも前々から連絡しており、妻がヘルパーの免許を取るために研修へ頻回行かないといけないが、島の役に立てばと資格を取ろうとした。だが、船代などの出費により断念した。市長が先ほど理解を示してくれたのは嬉しかったが、戸島まではできて、日振島ではなぜできないのかという所がある。今一度考えていただきたい。	離島かそうでないか、でこの状況となっており、そこを突破できていない。たちまちこうしていくとは言えないが、もともと私のテーマであり、どうにかしたいと思っているので、持ち帰り、改めてしっかりと検討させていただく。	高齢者福祉課	—

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
105	日振島	5	盛運汽船のしらすぎが故障で2ヵ月動いていない。島の生活で軽トラが必要だが、車検が受けられないので困っている。仮ナンバーを取ろうと思ったが、災害でないと取れないと言われた。これは災害のように扱ってもらわないと、車検切れの車が増えてしまう。仮ナンバーの発行は国交省だが、対応できるよう配慮してもらいたい。	しらすぎの件は存じ上げなかった。車検先に持ち込めない状態で、車両を正當に保有していくということができない状態となっているので、考えないといけない。仮ナンバーの仕組みは分からないが、何ができるかをもち帰りたい。別途、連絡する。	企画課	(企画課)市より四国運輸局に対して、災害時等に適用される自動車検査証の有効期間延長の特例措置を要請し、8月1日まで有効期間が延長されている。(しらすぎは6月21日に運行再開) ※各自治会長に対し連絡済み。
106	日振島	6	喜路の津波避難場所としては県道を上がった高台を設定しているが、その避難ルートに倒壊しかけの家がある。相続放棄したとの噂もあるがこれが倒壊すると、地震が起こった際にトラックなどで避難できないため、撤去もしくは倒れないように措置できないか。 理解できるが、元旅館のとこなで金額も大きくなり、相続者もいない場合なかなか対応できない。実際に道路を塞がないように、鉄板を入れるなどの対応もできないか。	人の財産なので、許可なく何か措置をすることは難しい。相続者の方に、手紙などを送り、返事があるまで繰り返しアクセスすることが基本となる。連絡がつき、解体するとなつて条件が合えば、市の補助金も利用できる。離島の場合は上限を上げていく。ただ、所有者の意見がないと前に進まないため、この手続きは外せない。 予防的にするということは、これまでやったことはない。どこまで緊急性があるのかなどでも条件などが変わるかもしれないが、一度、調査研究をさせていただきたい。	建築住宅課、建設課	(建設課)道路側に影響が出る可能性があれば、三角コーンや看板による注意喚起を行っている (建築住宅課)法人所有の物件については、老朽危険空家除却事業補助金の対象外となるが、所有者に対処するよう通知文書は送付する。 道路側に影響が出る可能性があれば、三角コーンや看板による注意喚起を行っている。
107	日振島	7	日振島の小学校へ子どもたちはバスで通っている。大雨の際は、落石などがすごく通りにくい状況となっている。地域の方にも手伝ってもらいながら落石を撤去しているが、人の手でやっているため相応のことしかできない。年3回程度、落石の撤去などをさせていただきたい。	道路には管理者があり、そこをきれいに保っていく手法はいろいろあるが、それも役割の1つだと思う。地域の方々の道路を確保するのが重要なので確認する。	建設課	(建設課)南予地方局建設部道路課にも確認しましたが、現実的に年3回程度の落石撤去は難しいと思われます、落石の際、工事業者が現地に入っている場合は対応できる場合があるかもしれないが、できるだけ地元の協力をお願いしたい、地元でも手に負えない場合は対応するとのことでした。
108	日振島	8	小学校に門扉ができたことはありがたい。小学校のイノシシよけとしてはまだ一部仮設状態であり、一部錆びている。小学校は一度、休校となるが避難所でもあるのでしっかりとしたものにしてもらいたい。今年も要望で上げる予定。	後程、詳細な場所を教えてください。	教育総務課	(教育総務課)【直近のイノシシ進入対策】 ・H31.1月 ガードフェンス設置 ・R1.11月 フェンス修繕 ・R1.11月 フェンス設置 ・R1.12月 グランドネット修繕 ・R2.9月 グランドネット修繕 ・R6.3月 大型スライド門扉設置
109	戸島本浦集会所	1	医師の住宅について、ムカデなど虫が入って大変な状況だが、何か対策はできないか。シロアリの薬が効くとも聞いたことがある。	診療所にムカデ出るとは聞いている。ただ、候補となる別の場所に引越しても、近隣であるためあまり効果的ではないため、元の場所にいてもらっていると聞いている。今、どうすることが一番良いのかを協議している。 戸島にとっては急務であると思うので、持ち帰って対応するように指示する。シロアリ消毒についても、1つの案として伝えておく。	保険健康課	(保険健康課)医師住宅のムカデ駆除については、駆除剤散布効果をみながら、近隣住宅を利用させていただくこと等医師と検討をしている。 シロアリの薬を使用すること等、今後も駆除方法について検討する。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
110	戸島本浦集会所	2	要望で出しているが、戸島の介護ヘルパーは1人いるが、その方が辞めてしまうと、いなくなってしまう。 社協に相談したが離島には出せないと言われた。どうにかならないか。	日振島でも、同様の意見が出た。介護保険料をいただいている中で、何とかできないかという気持ちはずっとある。かつて、戸島でヘルパーを養成して各島に派遣するという話があったと記憶している。そこはうまくいかなかったと聞いている。日振島の住民が資格を取っても良いと言っていたが、講習する際の旅費に負担がかかるので難しいという話を聞いた。社協は民間ではあるが、公的な色合いもあるので、条件の厳しいところに派遣することも役割ではないかと私は思っている。少しでも、何かできないかという思いがあるので、持ち帰らせていただきたい。	高齢者福祉課	(高齢者福祉課) 令和6年度から、現地雇用によるパートヘルパーを1名増員。現在は2名体制でサービスを継続している。
111	戸島本浦集会所	3	小学校が休校になっているが、ほぼ閉校と同じ。跡地の利用計画はあるか。 ヘリの離発着場所で、芝を植えたが草が生えてだいぶ伸びてきている。離発着できなくなるのではないか。どのような対応をするのか。 学校のプールについて水を抜いてはだめか。近所の方がボウフラに困っている。	廃校となれば跡地検討委員会により検討されるが、日振島地区は休校であり、児童が戻ってくるという話もある。特に離島地区については、一度閉じるとまた開けることが難しいので、完全に閉めるという判断はせず、休校としていると思う。 現在の開校している学校では、学校の先生や用務員、PTAなどが対応しており、廃校のところは地域の方に若干の謝礼を支払いながら対応してもらっている。休校については把握していないので、個別に確認させてほしい。大きな木などについては、市が対応しているようだ。 (地区の方) 学校は自治会に草刈りの依頼来ている。少ないが1日1万円くらい。 プールの件は、聞いた話では(水を抜くと)機能が落ちることと、地域の真水を確保する手段やその他防災利用のためと聞いている。小池公民館でも質問があったので別途、連絡させていただく。	教育総務課	(教育総務課) 廃校・休校の適切な管理のため、地域を代表して草刈り業務等を行っていただける自治会等に対し謝礼金をお支払いしています。(規模に応じ15,000円～25,000円 戸島小の場合は20,000円) 地元において、自治会から草刈り作業を行ってもいいとの声があるため、現在確認しているところです。 学校のプールについては防火水槽としての役割も担っているため各学校プールは1年中水を張った状態になっています。 戸島小学校は休校のため管理者がいないことから、地元消防と協議を行い、火災時においてはプール貯水の代用として海水を放水することで代替可能であるとの回答があったため、近々排水予定です。
112	戸島本浦集会所	4	健康増進のため、プールの一般利用や体育館の開放などは考えているか。 もし使うのであれば水道料金は市が持つのか。体育館くらいは使いたい。	体育館については、そもそも使っていないのか。(使っていないとの声) 市内では行っているが、こちらでは貸していないのか。(校舎と繋がっているからではないかとの声) 夜間の照明など利用者負担の考えもあるので一定のルールはあると思うが、衛生状態の管理など、プール自体を利用できるかどうか、体育館についても、1番は地域の方はどう使うかということなので、確認する。	教育総務課	(教育総務課) 体育館については、社会体育施設として解放できるよう体制づくりを行っている。準備ができ次第、周知を行っているため今しばらくお待ちください。 プールにつきましては、今後、水抜き予定としておりますので、使用はできません。
113	戸島本浦集会所	5	体育館(避難所)へ避難しても鍵がかかっている。 地域の代表者などにスペアキーを持ってもらうべきではないか。	誰が鍵を管理できるかや、自動で開錠できるのかななどを整理をさせていただきたい。	教育総務課	(教育総務課) 体育館の鍵については、公民館のほか、本浦自治会長、小内浦自治会長が管理・保管している。
114	戸島本浦集会所	6	元保育所のサロンの裏は草が多い。今はシルバーが除草などをしているようだが、コストもかかると思うので、こちら(地域)でできるようにならないか。	地域に迷惑かけないようにしている側面もあるかもしれない。(他の案件に関しても地域の方に) やっていただけるのであれば、謝礼をしてやってもらうこともしている。むしろ、地域モビリティのように、地域が、市から受託して困りごとを解決するなどということも悪いことではないと思う。お願いをしてやってもらうのは行政と地域にとってもWIN-WINだと思う。一度、整理して、回答させてもらう。	こども家庭課	(こども家庭課) 来年度以降の実施に向けて、どのような方法が可能か検討したい。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
115	戸島本浦集会所	7	市道について、石橋市長時代にきれいにやると言っていたが、20mやっただけで、今はボロボロになっている。モビリティで迎えに行く時に、道に支障物があり、落石や穴が開いているところもある。舗装も降雨で狭くなっている感じがおり、離合ができない。石は除けたりするが。行政からも定期的に依頼していただきたい。	道路のことについて日振島からも意見をいただいている。合わせて、確認させていただく。	建設課	(建設課) 定期的な維持管理は、現実的には難しい。できるだけ地元でお願いしたい。地元で手に負えない状況であれば業者に依頼する。
116	嘉島	1	3年前のことになるが、家の瓦がずれてしまった。台風でも被害があったが、修繕にお金もかかるため補助が出たらいいなと思っていた。	補助事業などがあるか、ということだと思うが、3年以上前から何らかの補助事業があったかどうかということもあるが、3年前に遡って適用されるということにはならない。解体の場合であれば、老朽空き家と認められると対象になり、島しょ部はさらに上限が高く設定している。	建築住宅課	(建築住宅課) これから修繕を行うのであれば、修繕の内容によってリフォームの補助制度がある。老朽危険空家であれば、解体についての補助制度がある。
117	嘉島	2	海底送水管の対応に感謝する。島内の水道本管と消火栓の整備・交換ついて、早い時期に対応をお願いしたい。	計画があったことは理解しているが、時期など確認させていただき回答する。海底送水管の前からの話とは理解している。	水道局	(水道局) 当該整備については、8次整備事業にて実施予定です。現時点では令和10年以降の着手予定です。なお、漏水などの修繕については、随時対応しますので、不具合等あればお知らせ下さい。
118	嘉島	3	きさいや広場の前の信号が短いと感じる。そういう意見はないか？お年寄り歩けないのではないか。車もそうだが、短いと思う。	よく言われている。渡り切れないことが多い。間にいすがあるので、休むことが前提なのかとさえ感じる。あそこは市の管轄ではないが、所管を確認し、そういった声があるということを先方に伝えたい。	建設課	(建設課) 以前にも同じ話があり宇和島警察所と協議したが、自動車の交通量との兼ね合いもあり今の時間にしているとのこと。
119	嘉島	4	消防団について。60歳で勤続も30年となっている。辞めるに辞められない状況だが、1回退団させてもらい、1度休ませてもらうなど、何か制度はないか。60歳超えると再入団がしにくくなると聞いている。	夜警などの際に消防団のお顔は、同じ方だなと感じることはある。では地域を誰が守るかということで、頼らざるをえないため、モチベーションを維持するためという発言だと思うが、特別公務員という事実もあるため、いろいろと制約もあると思うので確認させていただきたい。	危機管理課	(危機管理課) 機能別消防団員制度の活用について検討をお願いします。
120	遊子	1	市内と地域を結ぶ生活道路である松節トンネルの取付道路について、(現状) 道路幅が狭く、見通しが悪い状況。近年の通行車両の大型化に伴い、車両の離合に支障がある。これまでも市議会や歴代自治会からの要望も認識いただいていると思う。能登地震では復興半ばと聞いており、地域でも南海トラフ地震などの大規模災害発生時において、救援物資の緊急輸送道路として特に重要な道路となる、という共通の認識を持っている。ぜひ、新トンネルの事業化を求める。	まさに生活道路。また、産業の道という意味において、水産業界の経験からこちら(の地域)まで活魚車等の往来が多いことも承知している。遊子地区の魚類養殖はブランドであり、地区における価格設定が他地域にも波及している。一方、能登半島地震で孤立してしまう事態を各所で経験した。松節を活用する方々は、半島方面や離島の利用者、そして救急輸送がある。宇和海の市議から熱心に話をいただいているので、(予算や技術力が不足している中で) 県に対して様々な問いかけをしている。県からも、要望に対する返答も(前向きに) 変わってきている。今回、市から知事要望に入れることとしている。今年度は(市も) 調査予算をつけているところだが、土木系の過程は要望や調査に時間を要し、事業化の決定までも相当、長期間となる現実がある中、この産業の道も今後、地元市議とも何ができるか考えながら、協力して進めていきたい。	建設課	—
121	遊子	2	松節のほか、市道・県道とあるが、道路の陥没等、排水溝含め、傷んでいる。事故予防のため、漁協までの間(の道路が) 大変なことになっているので、補修をしてほしい。	道路の件、各道路管理者がしっかりと対応していくことに尽きる。そこにいたる要望数はかなりの数あり、臨時的な修繕は別として、全体的な道路をどうするかは計画によるため、市の力だけでは把握しきれないため、地区の要望として取りまとめていただきたい。その中で対応していく。どの場所が(地域にとって) 重要かは、お話をいただくことで把握したい。	建設課	(建設課) 危険な箇所については早急に対応する、パトロール等難しいため地元からの連絡をお願いします。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
122	遊子	3	人口減少の対策として、担い手の方もやっているが、農協、特に漁協関係は船の整備工場で修理できる人がいない。造船を含めた担い手、後継者がいない。このような中、いろいろやっていただいているが、全国の各大学、専門学校などに働きかけてほしい。雇用について（現場）は、ハローワークしかなく、Uターンを含めて、20～30代の応募がない。女手として、事務員は少しあるが、特に男手が少ないと思う。そういった対策をできればお願いしたい。 あこや貝等の補助金、ありがたい。餌代等の値上がりは生産者・養殖者だけでは解決できない問題なので、制度的な問題があるかもしれないが、国内消費を上げていくために補助事業としてお願いするのか、また、県漁協組合長とお願いしにいく可能性もある。	樟崎大橋の架橋をきっかけに、造船業の厳しさに触れた。県漁協もすしえもんの横に構えていると思う。移住施策でいうと、仕事のミスマッチがないように、インターンシップを始めている。市は仕事の斡旋というものができないだけに、職場体験には漁協にも手を挙げていただきたい。移住者の方に、具体的にそういったインターンシップを、というのはやっているところ。 産業に対する経費について、あこや貝は今、相場がいいが、絶対数は少ないので、生産は確保していかないと。餌代高騰により、ぶり・はまちはキロ1,000～1,200円で売らないとなかなか追いつかない（今見えている700円では合わない）という話。市は、共済加入のお手伝いをしている。農業については飼料の話があったが、魚類では餌代のかかり方が全く違うので、どこまでできるのかは分からない。原料を持っていることは、食料安全保障上有利なはずだが、出来上がりの魚類についてはまだ辛い状況にある。おいしく、安定的に提供できるのは、養殖魚に分があると思うので、これからも要望していく。	水産課、農林課、（企画課）	（農林課）農林課では、大都市圏（東京・大阪）で開催される、農林業に特化した移住フェアに年間4回程度参加し、ブースに立ち寄られた方からの相談対応を行っている。 また、本市で柑橘農業に就きたいと考えている方に対し、地域の数名の農業者に依頼してマッチング研修を実施したうえで、就業につなげるサポートを行っている。
123	遊子	4	赤潮等の際、魚の処理場、死んだ魚の処理場がない。現在、市外へ輸送をしてる。肥料も高騰していて、広域か市か不明で用地の問題もあるが、そういった処理場の確保はできないか。地元業者はやめた。宇和海近辺では、環境の問題としても、加工場だけでなくそういった処理場にも目を向けてほしい、農業と水産業を絡めたそういった事業に関する補助などはないか。	赤潮等、処理場の件について、実は吉田地区で要望があり、県漁協吉田支所ではやってなく、そういう処理場ができないか、という話があった。メーカーに聞くと、結構な経費がかかるという話で、それを現在は遊子だけはやっている。吉田では柑橘の方々がSDGS系の話として、みかんの何かを肥料化できないか、というものであった。市が主体的にというよりは、（例えば、）漁協のやることに対して、漁協との対話を通じて何らか支援をしていくかどうかという方向になると、個人的には思う。	水産課、農林課、（商工観光課）	（水産課）赤潮による養殖魚のへい死に係る処分費用等に対する支援（赤潮被害支援事業補助金・対象経費の3分の1以内）を実施している。 （農林課）肥料価格の高騰対策として、本市では令和4年度と5年度に、前年度から増加した肥料価格の1割を支援する事業（肥料価格高騰対策事業）を実施。
124	遊子	5	文化的景観の指定を受けている水荷浦の段畑は観光資源のひとつ。今、この景観を維持することが大変。景観維持について、どのようなお考えか。またどのような対応ができるか。	かつて遊子小で実施したタウンミーティングで、何とかやりたいということを申し上げながら、十分なことができていないのは事実、お詫び申し上げる。そこへは個人的に行くことがあるし、対外的に水荷浦をPRしている。その景観維持が困難になったのは、元々耕地としてそれを担う方が高齢となり、猪が石を落とす被害などもあり、また景観ということで雑草が生い茂ってはいけけないなどの課題も多い。昨日、市議を含めて、関わっている方と具体的に話し合いを始めた。守ろう会の方々もそうだが、農協にも関わってもらわないと、専門性の高い分野はなかなか困難であり、すぐ将来に向けての理想的な形になるかは分からないが、今、与えられた条件の中で（あの）景観を維持できるように、市はもっと汗をかかなければならないという話をした。遊子地区の方々も巻き込みながら具体的にやっていきたい。そこはいきなり始めるのではなく、遊子地区の方々ともこうやってやっていきたいと思いますというキックオフの会などやりたいと（勝手に）考えている。お力添えをいただきながらやっていきたい。	農林課、文化・スポーツ課、商工観光課（市民課）	（農林課）作業に関する人手不足という喫緊の課題については、地域の方々だけでなく、市職員・JA職員の協力やボランティア等による支援策を検討。
125	遊子	6	昨年12月に行われた、宇和島市出身の大石昌良さんのコンサートは大変好評だった。今後も、同じような企画を、無料でなくてもいいので、実施していただきたい。	仕事で行けなかったが、整理券もあつという間になくなって、当日も立ち見などで、今までの文化祭の状況を超えるような形だった。今回、南文が（地震による被災によつて）こういうことになりつつある中で、世代に応じて楽しみにされているものもある。年代のバランスを考えながら、宇和島を代表して頑張っている方など、こういうことにも挑戦していきたい。また、ご提案があれば、考えていきたい。	文化・スポーツ課、商工観光課	—

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
126	遊子	7	地震対策について、陸路が寸断となった場合の物資輸送について、具体的な想定はどうか。	松節トンネルの事業は、それを回避するための対策の1つ。すべてをシミュレートできているわけではないが、豪雨災害では海から、空から（アクセスしていく）ということがあった。吉田では、（道路が寸断し）断水した状況で、水をどう届けるかを思案する中、漁船で生活用水を送ったり、中には広島から保安庁のヘリコプターで搬送したり、という対応などの実績がある。想定は尽きないが、陸路がだめならあらゆる手段でやっていく。 平時にお願いしたいことは、各ご家庭で、これまで2日だったところ、南海トラフなど激甚化、頻発化を考えると、7日～10日分の備蓄をしていただきたい。陸路が途絶えたら、何もできないではなく、家庭でそういった備えをしておくことが重要。それが広く、深く伝わっているかということ、行政としてもまだまだ力不足でもある。小学校等への公的備蓄も用意していくが、私もローリングストックを実践しており、各ご家庭での備蓄をまずお願いしたい。	建設課、危機管理課	(建設課)巨大地震時に道路が寸断することは避けられないと考えている、そのような状態が発生した場合等、迅速な救援・救助活動ができるよう、被災状況に応じて国、県などの道路管理者と連携し、早期に啓開作業に取り組み道路ネットワークの確保をしている。
127	遊子	8	先日実施されたワークショップの中で、矢の浦の道路（カーブのところ）に広いスペースがある。そこを避難場所に指定してほしい。	この前報告を受けた新たな避難場所について、地域が良いというなら、前向きに調整していきたい。整備にも、県予算を考慮して色々調整していきたい。追って、危機管理課から連絡する。	危機管理課	(危機管理課)要望を踏まえて、地域の関係者の皆さんと検討を進めている。
128	遊子	9	伊達博の建替について2回入札不調があったが、これ以上増額することなく、規模を小さくするとかしてほしい。将来の負担を考えた見直しについてはどのように考えているのか。	博物館については、築後50年が経過し、施設の老朽化から建替えることとなった。規模感やどういう形か、ということは建替委員会で話し合った結果である。2回不調に関する調査と、(先日の地震で)市有施設の被害もあり、これらを同時進行で進めなければならないが、今は現状を把握しているところである。建築費用は47億円という予算の枠を認めてもらっているが、現在、このうち建物だけだと77%は国からの支援であり、しっかり取り組みたい。よく言われる維持管理費も、現博物館では9千万円くらいの費用で、(新博物館の維持管理費は)今は概算なので、なるべく負担にならないように努力し、精査する。現在調査中であることをご理解いただきたい。	伊達博物館	—
129	遊子	10	前自治会長。最近の状況で、地震を身近に感じた。昨年の補助事業で、避難経路の整備工事を実施して、助かった。地域には、まだまだ不安定な避難経路が残っているため、今後の災害に備えて、こういった事業を継続してほしい。	命を守る避難経路。今回は、県事業など、各種メニューを用意し、市も以前から事業を用意して対応してきたところ。先ずはより高く、より早く避難することで難を逃れたい、といった思い。また、津の浦の個別具体的にこういう風に形にしたいという思いについてはご相談ください。地域全体の要望として具体的に話をしたい。	危機管理課	(危機管理課)津波緊急避難路等整備事業補助金の活用が可能。
130	遊子	11	津島やすらぎの里（熱田温泉）については、一年でも早く再開してほしい。今、1時間かけて宇和町やゆらり内海まで行っている。津島なら30分くらいなので、ぜひとも再開してほしい。	当地域のやすらぎに対する期待をいただいている。農面道路から高速で向かう経路で、半島部の方が、これまでやすらぎをよく活用いただいていたことを感じる。旧津島町が平成14年に建てて、いろいろな不具合がある中で、今回は建替えといった判断となった。言われるとおり、アクセスに時間がかかっていること、そして今回の入札不調があった。なるべく早く再開させるため、努力を重ねることを改めて申し上げる。	商工観光課	—
131	遊子	12	U-cat（有線放送）をつないだが、従前の共聴アンテナの電柱などが残っており、これが邪魔になっているので、地域の中でも要望があって少し撤去した。未だ、10数本残っているところなので、これを撤去する場合の補助金はないか。	元の共聴アンテナをU-catの可聴エリアとなったので、(撤去したいというのであれば、)各種メニューが考えられるが、例えば地域づくり交付金など。何ができるかは(モノを見ていないので)不明。状況については、また確認したい。	企画課、デジタル推進課	(企画課)共聴アンテナの電柱などの撤去に対する支援制度は、国・県を含めてありませんが、地域における環境整備の一環として、地域づくり交付金を活用することは可能となっている。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
132	遊子	13	日常の救急体制として、自衛隊ヘリの活用を検討してほしい。ドクヘリには時間の制約があるほか、天候不良時には飛ばないなどの制約もある。命に係わることなので柔軟に対応していただきたい。 また、ヘリ離発着時の安全確保については警察にも協力いただきたい。地区のランデブーポイントは、旧宇和海中と水荷浦公園になるが、離発着時に交通規制が必要である。消防車の出動には現場まで最短でも30分かかるので、警察パトカーの方が早く到着できるのではないか。また、警察には交通規制にかかる権限があるので、救命率と地域の安心の向上につながると思う。	道が閉ざされた場合の有効な手段として、空からや海からということを豪雨災害から経験した。吉田町喜佐佐地区では、道路が寸断される中、透析を必要とする患者がいた。そこは、海保ヘリが広島から来て、その方を搬送した実績がある。一方、自衛隊の出動にはいろいろなルール（緊急性、公共性）の中で活動していることを経験則として理解している。 能登半島地震において、そこに残り残され生活ができない場合のヘリによる移動もあった。ヘリの特性として進入角など、管制系の（条件として）なかなか認められない場合もあると聞いている。では、自衛隊ヘリがたちまちどういう条件で運用しているのか、分かっていないところもあるので、何ができるか考えさせていただきたい。自衛隊は国防を担う中で、有事の時は各種活動もされるが、（防災ヘリだけでなく）自衛隊ヘリにおいてどういう制約があるのか、別途お知らせしたい。	消防本部、病院局（総務課、危機管理課）	（病院局）市立宇和島病院において、自衛隊ヘリによる救急患者の受入れ要請があった場合は、基本的に受入れることとしている。ただし、市立宇和島病院の屋上ヘリポートは耐荷重量6.4tを超える機体は離着陸ができないため、ヘリの重量が基準以上であった場合は、丸山公園等で離着陸いただくことになると思われる。
133	遊子	14	先日、事前復興の研修会にも参加した。市職員が現地にも入っていただき、心強く思っている。どれくらい（のスケジュール感）で、どのようなことが起こってくるのかを教えてください。	ワークショップが行われたのは、先ずは皆さんとの意識合わせ、今後どのように行っていくか、まちづくりにおけるスタートラインだと思う。この前のだんだんまつりなど、東京大学の方と地域との関わりが実際あったかと思う。これらが組み合わせりながら（事前復興についても、）今年、具現化、見える形で示されていくだろう。地域のことを考え、ここで暮らしたり働いている方が主体的に考えていくことが重要だと思う。皆さまのお力添えをいただいていますので、これからもしっかりと対応していきたい。	危機管理課	（危機管理課）事前復興ワークショップの開催予定 回数：各地区5回程度 地区：宇和島市街地、津島町中心部、遊子の3地区 ※第1回は6月に開催済 ※第2回は8月に開催予定 ※次年度以降、他地区で実施
134	遊子	15	市議会に対して。ほかの自治体では市議会の様子をネット配信しているところがあるが、宇和島の市議会もその予定はないか。生放送ではなく、見返せるような配信をお願いしたい。	現在、ホームページ内でも、またU-catの放送は議会開会中のライブ配信をしている、という認識。 持ち帰って、どういう中身かを整理させてほしい。 現在でも観ている方はいらっしゃって、視聴率もいいと聞いている。	議会事務局	（議会事務局）議会内で協議した結果、現段階では、アーカイブ配信はしないこととなった。
135	御横	1	地区は60戸余りの集落。南海トラフ地震が30年以内に来ると言われている中で、南海トラフ地震が発生したらこの地区は孤立すると思う。能登でもあったが、4、5日程度経過した後に孤立が分かる集落もあった。ここも、1週間くらいたないと分からないのではないか。自助公助の公助を受ける際には、地域から連絡しないといけない。ここから支所まで歩くと半日もかかる。発災すると停電しスマホ等も使えなくなる。公民館も耐震化されていないので、どこかに支所と連絡の取れる衛星電話や無線などの連絡手段をお願いしたい。日振島の件を新聞で見たが衛星システムなどを使うなど同じような対策を検討してもらいたい。御横がこうなっている、市が今こうだから時間がかかるなど情報のやり取りができるようにしてもらいたい。 孤立した場合、どういう援助できるのかというと、ヘリしかない。だが、ヘリポートがない。宇和島は海岸線も多く、山も多い。孤立集落への補助金はあまり聞いたことがないのでそのあたりも考えてもらいたい。	6年前の吉田を中心とした災害の中で、行政がすべての命を確保できないと感じたことは事実であり、自助共助をお願いをしていくことで避難計画の作成などに協力いただいている。連絡の取り方について、停電の中、スマホが対応できるのか、というところは仰るとおりだと思う。津島支所までせめてアクセスできればということなので、しっかり考えていきたい。日振島については、企業版ふるさと納税の寄附を日振島に使ってほしい、特に防災に使うというところで衛星電話の整備を行うこととなった。もちろん宇和島は海ばかりではなく山地もあり、どういうところにどうしていくのかということや使用料などについても全体的に考えていかなければならない。自助共助をお願いするところがあるのであれば、公助としての対応も事前に連絡をして、決して離島だけの対策ではなく山間でも寸断されることなども意識を高く、考えていきたい。 吉田でも、水を海から運ぶことなどを行った。南海トラフ地震の際にも陸地から持っていけないことは容易に想像できる。連絡があつてのことと思うので、意識を高くしたい。広域的な災害になると、援助が遅れることがある。家庭での備蓄を10日程度準備してもらいたい。	危機管理課	（危機管理課）孤立した場合でも情報連絡ができるよう、衛星電話の配備について検討している。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
136	御槇	2	御槇の避難所は2つあるが、役に立ちそうにない。小学校は先般の地震で屋根が壊れた。教育委員会が見に来ていたと聞いたが、返答がない。避難所としての運営ができるように早急にどうにかしてもらいたい。公民館は、地震の度に床のひびが広がっている。入り口が開かなくなるかもしれないので、入口を開けて、地震に備えて仕事しているとのこと。避難所として1ヶ所はきちっとしたところが欲しい。	小学校の体育館については報告を受けている。学校施設は全体で4か所の不具合が出ている。順次対応しているが、ここは教育総務課が確認し、見積もりを出して解消される見込みであると聞いている。公民館も老朽化しているが、ほかの公民館も順次、解消しているので、なるべく早く解消できるよう私からも話をする。	危機管理課、教育総務課、生涯学習課	(教育総務課)地震による体育館の修繕につきましては、業者に見積依頼を行っており、修理方法について検討しているところです。
137	御槇	3	一般住宅の補助金について、御槇の家は古い、古い家の多い地区へのアピールはしているのか。もっと枠を広げて良いものではないか。	広報や回覧などで十分に周知できているか分からないが、お知らせしている。もっと発信をして欲しいとのことなので、しっかり対応していきたい。	建築住宅課	(建築住宅課)現状の周知は下記を実施している。 ・広報紙掲載(4月、10月号) ・ホームページ公開 ・住まいの地震対策講座 ・防災士ブラッシュアップ研修 ・戸別訪問など
138	御槇	4	市道を作ってもらっているが、家の周りに下水の蓋がない。危険なため市道の側溝に蓋をしてほしい。また、神社の参道があるが災害で壊れているので直してほしい。	場所がわからないので、確認させてほしい。個別に回答する。	建設課	※個別に回答済み —
139	御槇	5	神社に行く市道については建設課に来てもらって、う回路の検討をした。地権者との兼ね合いもあり、改修工事をするにあたって1,000万かかるということで保留となっている。また、寺社仏閣直すのにお金はかかるので、財産区の資源をうまく使えるようにしてほしい。	財産区について把握していないため、その資源を少しでも使うようにとのことなので担当課にも伝え、頭にしっかり置いておきたい。	津島支所(建設課)	(建設課)保安林解除の手続き中。 (津島支所)財産区は特別地方公共団体であるため政教分離により、神社仏閣の修繕等への支出はできません。
140	御槇	6	農業について今年度は、来年の県事業ふるさと保全計画を調査し、策定して事業を使う方向にしている。実際アンケートを実施し、意向などを反映したいと思うので、市の人材や財政的支援をお願いしたい。	農業に限らず厳しいことになってる。計画などは、具体的にできるように導き出していくのが着地点だと思う。こちらでやっていることは私も注視し、市も、財政支援などどういったことができるのかも含め目を向けていきたい。	農林課	(農林課)ふるさと保全計画については、県南予地方局の担当部署と連携して、地区代表者との協議を行っている。また、当該地域の農業者へのアンケート調査を行うにあたり、内容を検討することとしている。
141	御槇	7	夜間、小学校の明かりがついている。先生方が昼は、子どもの対応し、夜は事務仕事しているので、先生方の事務的な支援など含めて対応してもらいたい。	先生方の働き方については様々な意見をいただいている。すぐに帰れていない現実があることは承知している。教育委員会に対して予算措置をしているが結果にすぐにつなげていないことも事実なので、大きな課題と思っている。ここについても、何ができるかどんどん提案してほしいと言っているが、引き続き先生方を支援できるように努力を重ねていきたい。	学校教育課	(学校教育課)学校の業務改善に加え、今後、業務に対する教員の意識改革が必要。また、教員の業務の範囲について、保護者に理解していただくことも必要であると考ええる。
142	御槇	8	県道を使って通勤しているが、路面状態が悪い。御槇を降りたところで、岩渕・むろふし?あたりで、大型車の通行もあり、へこんでるところもある。県の方に働きかけて、道路の補修など対応していただきたい。	道路についても、県に対しても、厳しいご指摘があったことも含めて伝えていきたい。	建設課	(建設課)南予地方局と情報共有する。
143	御槇	9	小学校の裏を超えたところでは、道がせまいので脱輪事故が多いので、側溝に蓋をつけてもらえないか検討をお願いしたい。峠の下の方はしてもらっているため堀切のあたりをしてほしい。	先日のれんげまつりの際に、小学校の裏から峠越えた。長年の草木の堆積で、側溝がどこか分からないし、対向車が来ると離合が難しいというのは感じており、安心・安全という面においては、危ないと感じている。要望もいただいていると思うので、どうことができるのか考えていきたい。	建設課	(建設課)交通量等考慮すると優先順位は低い。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
144	御槇	10	御槇小学校の保護者の中で議論しているのが、学童問題。生徒が少ないので集団下校ができず送迎が必要なため、学童をお願いできないかと市へ相談しているところ。学童は、岩松と北灘地域に放課後児童クラブがあり、勧められたのは放課後児童クラブ。学童は、予算や人数、開催日数などの面で難しいようで、北灘のような放課後児童クラブであればできそうだとのこと。全世帯ではなく半数くらいではあるが、放課後児童クラブが上手くいけばと思っているのでお願いしたい。	学童が放課後児童クラブかは教育委員会が担当している。私はこの状況を知らなかったが、状況を確認させていただいて、なるべく叶えられるように、努力したい。	生涯学習課	—
145	御槇	11	源池公園の工事についてありがとうございます。あと2年したら水が溜まるが、子どもなどが危険なこともあるので、ロープなどの対策をしてもらいたい。外来種を放流されたら困るので看板もお願いしたい。公園のところにトイレがあるが、かなり古くなっており小学生が怖くて行けないと言っているので、更新してもらいたい。高知の県境にいいものができているとも聞いているのでお願いしたい。	池の落下防止について、わずかな水深でも亡くなることがあり、注意喚起をすることが一番である。 何かしらできると思うので、魚についても併せて所管課に伝えたい。	都市整備課	(都市整備課) 源池公園：農林課管理公園 (農林課) 源池改修・浚渫工事が今年度完了予定となっていますので、地元関係者の方と協議し注意喚起等検討する。 トイレについては、現在調査中で更新・修繕を含めた計画を立案し対応を図る。
146	御槇	12	前年度、御槇自治会代表とボランティアの会の連名で、トイレを改修してほしいと要望を上げている。御槇地区の源池公園のトイレは古いので優先度は高いのではないかと言っていた。公民館などにトイレはあるが、周りにはない。地域も桜を植えるなど頑張っているの、トイレをきれいにしてほしい。公園がきれいになっても、トイレがきれいでないと人が集まらないので、もう一度確認してほしい。	要望については私も聞いており、所管課がどうしていくか取りまとめをしている。計画としてやっていくことなので、改めて意見をいただいたので、確認したい。	都市整備課	(都市整備課) 源池公園：農林課管理公園 (農林課) 現在調査中で更新・修繕を含めた計画を立案し対応を図る。
147	御槇	13	民有林の作業道や道を市も積極的に協力してもらいたい。民有林も荒れているところが多く、作業道があれば、なんとか間伐など管理ができるのではないかと考えている。 また、南海トラフ地震で伊方原発は大丈夫か、こちらは50kmほど離れているが、北風が強く心配している。この地区にモニタリングする装置を置いてもらえればと思っている。大きな地震があった場合でも、道さえ通れば水は大丈夫だと思う。	民有林所有者に、意向調査などを実施すると、相続放棄されるところも出ている。全体の民有林の搬出する道を作るという予算まで行っていないことは確かである。財産区の管理をしていただいているのは承知しているので、意向調査後に優先順位をつけながらのことになると思う。 伊方原発のモニタリングをこちらに置くかどうかは国の判断になると思う。こういった声があるということを伝えていくことが重要ではないかと思う。	農林課、危機管理課	(農林課) 市では、森林経営管理制度による森林所有者への意向調査、調査結果に基づく経営管理事業（保育間伐）を進めており、事業の中で必要に応じて作業道の開設が可能。 また、森林所有者が搬出間伐を実施する場合、経営計画を策定することで国の事業が活用でき、要件を満たすことで支援を受けることができる。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
148	御槇	14	簡単にいけないと思うが、御槇地区に小中学校を設置することを考えてもらいたい。移住してきた方の子どももいるのでどうかと思っている。	統合について、津島町に目を向けると、昨年度の出生数は20名いなかったと思う。子どもたちのそれ（人口減少）については、結果がすべて。小学校の適正配置については、検討委員会の報告書を踏まえ、教育委員会で決定した。ここで小中学校というところは現実的ではないと思うが、ご意見としては受け取って持ち帰らせていただく。	教育総務課	(教育総務課)将来の児童数推移等を見据え、教育委員会として小中学校適正規模、適正配置等に関する基本指針を決定し、6月13日に市ホームページで公表しました。基本方針における基本的な考え方として、旧3町においては、急激に出生数が減少していることから、小学校は原則1校とすることとしています。 津島地区においては、現状でも通学に時間を要する下灘小学校を除き、令和9年度に岩松小学校に一斉統合することを目指しています。今後、保護者の皆様をはじめ、地域の皆様のご理解を得ながら、子どもたちにより良い教育環境を整備したいと考えています。
149	御槇	15	田園はきれいだが、いつまで続くかわからない。市の補助は、生産組合のような地域に貢献した団体には出しているが、田を維持する人の費用に対する補助はできないか。	農業も含めて担い手の確保も難しくなっている。ご意見は受け止めて帰りたい。	農林課	(農林課)農業の担い手に対して、所定の要件を満たすことにより、田植え機等の農業用機械の購入費を補助する事業がある。 また、主食用米から転作（飼料用米、米粉用米）した場合に、作付面積に応じて補助金を支払う国事業もある。
150	御槇	16	ふるさと納税について、6億円あった。伊達博物館を建てるのに50億円かかるなら、ふるさと納税をもっとがんばってもらいたい。また、伝票もこちらで作ったりしているが民間任せでなく、もっと簡単にしてもらいたい。	ふるさと納税の寄付額について、昨年は6億円で、八幡浜市、愛南町はより大きな寄附額で柑橘が中心になっている。宇和島も柑橘が中心だが、何が違うかというと、高級なものを確保できうる状況かどうか、それに対応できる業者があるかということで、JAの経営判断もある。以前は、宇和島もふるさと納税の先進地であったが、納税額に波がある。事務の煩雑さについては昔より良くなっているが、所管は市長公室なので、もっと出したいと思えるように、ご意見は持ち帰りたい。	市長公室	(市長公室)寄附の増加を図るため、返礼品充実などの取り組みを行っており、今後も継続していく。また、返礼品発送にかかる伝票作成については、ふるさと納税に関して支出できる費用には上限があることから、返礼品事業者様にご協力をお願いしているところです。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
151	御槇	17	移住者対策に対しての補助制度はあるが、地元の人にはない。残る人に補助金を出せないか。	移住者については、呼び水にというところもある。市内の方に還元しないのかということはよく理解できる。「住むなら宇和島応援金」なども行っているが、地元の方がいなくなるような対策を、ということだと思うので、貴重なご意見として受け止めたい。	企画課（農林課、水産課、商工観光課）	(企画課)企画課移住定住推進室では、定住促進を図るため、移住者だけではなく、市民の方を対象として各種事業を実施しています。 「住むなら宇和島応援金」 子育て世帯を対象に住宅取得を支援 「若者定住奨励金」 市内の高等教育機関を卒業した新規学卒者、Uターン者などを対象に奨励金を支給
152	御槇	18	老人クラブの記念品について、宇和島では75歳、他市町は70歳としているのはなぜか。	老人クラブについては、何かのときに取り決めた、という所があると思うので持ち帰りたい。	高齢者福祉課	(高齢者福祉課) 県内11市の敬老事業の実施状況については、9市が75歳以上対象。70歳以上対象としているのは1市のみとなっております。(R6.1月時点) 平成22年度から関係部署、関係機関と協議を重ね、平成27年度から75歳以上対象としております。
153	御槇	19	伊達博物館について、当初予算からあがっているがどこまでするのか。変更してもいいのではないか。	伊達博物館については、建築予算の枠としては47億円である。国からの支援は現在約77%を予定して計画している。この地域の歴史文化を守るという理念が大事で、次にとどのような財源とするのかも重要。補助事業や起債には期限もあることなので、そのあたりは冷静に判断していきたい。	伊達博物館	—
154	御槇	20	熱田温泉は、前よりももう少し温泉らしいものを作れないか。	熱田温泉については、地盤沈下や井戸が1本しかなく不具合が続く中で、営業を中止していた。外観などに関して感じられ方は人によって違うところはあるが、特産品売り場の面積を増やすなど、以前の施設では解消できなかったことを解消し、サウナ等々需要の大きいところは取り組んでいるので、ご理解いただきたい。	商工観光課	—
155	御槇	21	伊達博物館の建替えは、大きな問題。やすらぎの里は5、6年ほったらかしにしていたのに建て替えるのか。 コロナ禍でも営業する努力を行政がしなくてはいけなかったのではないか。	ほったらかしではなく、コロナ禍では温泉が営業できない期間があったもの。 努力等ということではなく、コロナ禍では温泉施設などでは営業はできなかったということである。	伊達博物館、商工観光課	—

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
156	吉田	1	①能登半島地震、豊後水道地震と地震に関する災害が続いたが、玉津は30年豪雨の被害から復興に向けた努力をしている。復興にかかる事業、原形復旧や大規模再建などの達成状況、園地の復旧状況をお聞きしたい。 ②これから出水期迎えるにあたって、30年豪雨では、地域の指定避難所が開設できなかったことがあり、集会所などを地域で開設した。これから先に南海トラフ地震が発生した場合、吉田においてはどこに避難すべきか。また、吉田町内で間に合わない場合は、危機管理課からは三間や西予へ避難するよう言われている。 ③地震発生の際、ブルーシート対応には土嚢が必要となり、丸山公園等へ土嚢を取りにいったが、土嚢袋が朽ちて使えなかった。備蓄している災害物資については、見直しは何年ごとにやっているか。能登半島地震では、非常食などの支援物資が期限切れで届くことが多くあると聞いている。備蓄物の一覧表などをしっかり管理できているか。	①まもなく6年が経過しようとしている30年豪雨について、当時は各集会所に避難されていたことや、みかん園地のみならずいろいろな被害も記憶している。すべての復旧状況、数字については、資料を持ち合わせてないが、概ね解消されつつあるだろうと思う。当時の災害査定から漏れている、またはその後ひどくなった場所があるということとは農家から聞き及んでいる。補助事業は一定の期間で終わらせないといけないというのは事実としてあるが、これは何年経ったからそれで終わったというものではなくこれらについては、市議会でも対応するよう言われ、私も頑張ります、とお答えしているところ。 ②ブルーシートの配布だけでは不十分だったというのは仰るとおりで、それを敷設する人がなかなかいない、そしてその道具も十分ではなく土嚢が必要だったということも聞いている。丸山などに置いてある土嚢についてはものの悪い土嚢袋を使っているわけではないが、（丸山が）屋根もあって比較的環境がいいのでどの程度劣化しているかの確認までは十分でなかったかもしれない、定期的に確認したい。 ③食料備蓄は、消費期限等々について民間システムを活用して、しっかり管理している。一定の消費期限が到来する前に、計画的にそこを交換している。先の土嚢等々、（現場の）見回りをする中でどこまで確認してたかについては、精度をあげていきたい。	建設課、農林課、危機管理課	（建設課）①今年度においても補助事業で完了できなかった災害復旧工事について、市単独費で予算計上させていただき執行している。 （農林課）①農地・農業用施設の原形復旧及び改良復旧については既に完了し玉津地区・立間地区における再編復旧については現在施工中。 （危機管理課）資機材等については、備蓄計画により計画的に配備し、備蓄食料等は期限切れを迎える前に更新しているところ。また、土のうについては毎年更新している。
157	吉田	2	吉田病院（地域の病院）の歯科に通っていたが、なくなるということで探した結果市立病院にかかった。同じ医師が（市立病院に）いて、その先生にかかったが、病院が違うことで3,300円の初診料を請求され、先生に迷惑をかけてはいけないので支払った。 今回、医師が（病院を）変わられ、替わりの先生が来ないから、違う病院を探してほしいといわれ、別の病院探している最中である。また、ずっと、眼科に通っているが、先生がおられなくなって、別の先生へ変わり、その先生も今度、退職されるとのこと。自分の替わりが来られないということで、違う病院に行ってくださいということだった。歯科も眼科も替わりの先生が来ないということだが、市民の病院なので誰もがいける病院であってほしい。（各診療科の）先生方をちゃんと雇うことはできないのか。私としては、伊達博物館とか温泉とかよりも、そこ（医師の雇用）にお金を使ってほしい。 先生の雇用については、雇いたいけど人材がいけないということか。これから先、（医師を）雇うことはあるか。	医師の確保、看護師が不足している状況を打破するのは、先ほど言われた伊達博であるとか温泉など他の施策がある中でも、どこよりも長く取組んでおり、また費用もこれまで積み上げてきたものは他と比べ物にならないくらい取組んでいるところ。特に、市立宇和島病院は、市民病院で運営がなされているが、四国の西南地域の中核病院としての位置づけから、（一定）レベルを上げておかないといけないので、愛大医学部を含めて再三、医師の派遣に関するお願いを繰り返している。今、市立宇和島病院のサンシャイン側でやっている工事は、現在、地下にある電源施設を、津波による水没の可能性を回避して病院の機能を落とさないよう、エネルギー棟を建設している。併せて、吉田病院についても中棟、南棟が耐震基準に満たないことから、いろいろ協議した中でも、まだまだこの地域で必要な病院として入院施設を携えた病院として整備するため、今回、一部新築と改築をしている。 仰るとおり、必要な人材はしっかり確保しようとする中でも、その先生はおそらく定年だと思うが、（他院を探してもらおうよう伝えたのは）医療を継続いただくための予定が立たないということではないか、と思う。市立宇和島病院の医師は、年齢構成でいう中堅がいない一方で、若い医師が鍛錬をしながら切磋琢磨する病院である。欲しい世代が居ないところに、いかに来てもらうかをテーマに手を尽くしている。医師の雇用を拒んでいるのではなく、愛大や愛大以外の病院にも医師の派遣を繰り返しお願いしているところ。	病院局	（病院局）歯科については、宇和島市立吉田病院病院機能改編計画（令和元年8月9日策定）に基づき、令和4年3月31日をもって廃止している。

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
158	吉田	3	この前、9年ぶりに吉田病院に行ったが、吉田病院は2階を使っていないようで、（医師は）内科と外科、放射線科が常駐、眼科と耳鼻科が週に何回か来られるようなシステムになっていた。吉田町内に必要な地域医療がなく、（高齢化の中）何かあったときに宇和島まで通うのも（それ自体）が大変になるし、今も大変な方がある。もう少し、吉田の病院のことも考えてほしい。 数か月前、転倒で頭を打ったが、市立病院では初診料で7,700円もとられるので、別のところに行った。大したことはなく良かったが、この初診料の7,700円は国の指示か。大きな町で、病院がたくさんあるところで、大きな病院を受診した時なら仕方ないが、医師の多忙さも理解できるところ、市民病院として初診料の7,700円はいかなものか。 初診料の7,700円は、宇和島市の既定で、診療科ごとにかかるのか 市立宇和島病院なら以前はバス通院。交通手段がなく、紹介状をもらいに行くなど、医療費だけでなく様々な経費がかかる。	常駐医師の不在のところ、これは常々必要な医療人材の派遣をお願いして回っているところであるが、これは全体の医師数から限界だということで、現状では一部、シフト制での対応をいただいているところ。初診料については、それぞれ症状は大きなことだが、先ずはかかりつけ医で診ていただき、（次の）少し高度な医療を提供する病院にしないと、言われるとおり先生方もアップアップで。これは国が決めたというよりは、地域にとつての拠点病院としてこういう選択をしながら、棲み分けをしてやっている。ただ、緊急性の高い救急搬送は別として、（医師不足に対する現実の対応として、）一度、かかりつけ医など一呼吸ついでいただくといったワンステップを置くことで、次の高度な医療を必要とする方が必要な医療を受けれる仕組みとして対応（そういう価格を設定）することにご理解をいただきたい。 かかりつけ医による紹介状があれば、初診料はかからないところ。市立宇和島病院の一番のクレームは、待ち時間が長い、予約時間に行ってもなかなか時間どおりに受診できないということがあつた。全体に必要な、少し上の医療が必要な形で来られている方もいらっしゃるの、初見を他で診ていただくことで初診料はかからないようにしている。（病院の能力を確保するため、必要な対応として） かかりつけ医の紹介状を必ずしも書いてくれ、ということではなく、かかりつけ医の治療で完結する場合もある。そこで時間もお金も（負担を増やさなくてもよくて）、かかりつけ医の見立てで、必要な検査など必要な対応があれば紹介状によって、そうすれば初診料はいらないという仕組み。なるべくかかりつけ医ですべてが終わるのが目指すところなので、なるべくかかりつけ医を確保しておかないと、市立病院も回らない状況であり、そういった両輪でやっていかないといけないことに、ご理解いただきたい。	病院局	（病院局）吉田病院は、令和4年8月から令和6年8月末までの予定で改修工事を行っているが、本館2階部分については、令和5年9月23日からは一般病棟として使用している。 紹介状の持参がない場合に初診料に別途費用がかかるのは、厚生労働省の制度（保険医療機関及び保険医療費負担規則）に基づき、宇和島市病院事業の料金等に関する規程で定めたもので、令和2年4月より下限の7,000円＋消費税の7,700円を診療科ごとに徴収している。ただし、小児科については、令和5年10月より学校健診の結果受診勧奨があった患者、令和6年4月より全ての患者について免除としている。
159	吉田	4	来年度、公民館の取り壊しを予定しているが、外灯を直してもらいたいのに、まだ修理に来ない。担当課に聞くと「どうせ壊すところにお金をかけない」との話。ここは、小学校、中学校の通学路であり、外灯は今後も必要なもの。新しい公民館に新しくつけるまで待つのではなく、道路向かいなどにでもつけていただくよう要望したい。	今、統合小学校建築のピークを迎え、いよいよ来年4月から統合小学校が始まるころ。そこで喜佐方公民館の場合は、喜佐方小学校の中を改築して、かなり公民館としては充実したメニューを取り入れることを予定している。今の公民館は借地なので、そこに何かの造作物を残して、ということとはなかなか難しいが、外灯が地域の防犯灯か、何かしらの光が必要なら地元と検討したい。	生涯学習課、（市民課 市民協働推進室）	（生涯学習課）情報提供いただいた外灯につきましては、地域の皆様と協議し対応を検討させていただきます。
160	吉田	5	ブラジルをはじめ、オレンジ果汁の世界的な不足と、円安等の状況からオレンジ果汁が入りにくい状況。今が売り時なので、みかんもミカン果汁の販売にもっと力を入れていただき、宇和島市にお金が落ちるような施策を実施していただきたい。農家に対して、それなりに生産量を増やせるような施策ができないものか。高齢化で生産が落ちてきているが、長期的にみた施策が必要だと思う。まだまだ情報が足りない、土地の流動化や、支所や農協窓口を十分活用していただき、基幹産業であるみかん、それと海のものを抱き合わせたような新しい商品開発を、年間を通じたふるさと納税に対応していただけるよう、お願いしたい。	オレンジジュースは、ブラジルで果汁が不足していること、良質の日本産に光が当たっていることも承知している。市がジュースを主体的に販売することはできないが、何かしらのバックアップという意味においては当然、やりようがあると思う。実は食料安全保障上でいうと、原料を持っているところが強いはず。ここのジュースは、どこよりも新鮮でおいしいと感じているので、今、まちの価値を上げてモノを売っていく、特産物をしっかりアピールしていく、ということは、私も一番の課題としてやっている。ふるさと納税については、海のものを抱き合わせで、という話が あつたが、圧倒的に人気があるのが柑橘であり、海のものがついてくることでの反応は分からない。八幡浜なり、愛南なりが群を抜いて良いのはその部分。じゃあ、宇和島もできるだろうというところを、今、いろいろな努力と、あと出荷していただける方に何とか商品を提供していただきたいというお願いをしているところ。ただ、言われた海の中はそこに変化をつけるという意味で考えていきたいと思う。	農林課、市長公室	（市長公室）ふるさと納税については、委託事業者と協力し、新規返礼品の開発を図っていく。
161	吉田	6	大学生に対するふるさと産品の送付は非常に好評なので、これをもっと活用していただき、宇和島クラブ等があるのでこれを生かしながら、宇和島に対する「第2のふるさと」といった気持ちを持ってもらうように、大学生に宇和島に帰ってきたいという気持ちを育むような施策を進めてもらいたい。	ふるさと小包は、今、年3回発送している。地域を出た人に、この地域に思いを寄せ、そしてゆくゆくは（宇和島に）帰ってきて欲しいという思いでスタートした事業である。今日くらいに発注し、そろそろ第1便が発送される時期。これについては、これからも継続してやっていきたい。概ねいい評価をいただいているので、しっかり対応したい。	企画課	—

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
162	吉田	7	旧吉田町は（平成）18年の合併以前から、生涯教育に力を入れている。そのまま合併してもらったらよかったが、コロナの影響もそうだが、だいたコミュニケーションが薄れている。これは公民館事業もそうだが、地域の良さが薄れてきているということ。今一度、社会教育、生涯教育に力を入れていただいて、死ぬまで楽しく暮らしていけるようにしてほしい。 今日、喜佐方では老人クラブがクロッケー大会をしているが、そういうところにも来ていただいて、遊びでもなんでも力を入れてもらいたい。	旧吉田町は、各公民館に保険師も配置されて、地域コミュニティに職員が入り込んで、社会教育等いろいろと実施していた。その予算も消えていったところだと思う。今、コミュニティスクール等実施しているが、なかなか十分な成果につながっていないことは聞き及んでいる。今回、喜佐方小学校に公民館が出来るということ、あそこが確実に拠点となりうると感じる。クロッケー大会とか、努めてどこでも行くので、逆に教えてほしい。そういった地域でこれまでご尽力いただいた方がそういったことをやりながら、拠点である公民館を中心に様々な活動をしていくという機運が重要だと思うので、今後ともサポートしていきたい。	生涯学習課、 （高齢者福祉課）	—
163	吉田	8	みかん列車がなくなって数年、2024年問題があるが、みかん列車の復活を視野に入れていかないといけない。宇和青果に入っているの、ふるさと納税に関して、生ものの発送は気が引けるが、組合とも話していただいて、商品に入れていただいたらいいし、（内情として）組合同士の足の引っ張り合いがある中、難しい部分もあるが、できれば出したいのでご指導いただきたい。	組合とはいろいろ対話をしながら進めているが、今、ふるさと納税で引きが強いのは高級柑橘で、それらを含めて何とか出荷をお願いしたいという話をしている。未だ、大手量販店など民間同士で決めている出荷量がある中、これまでお世話になったところにしっかり確保しなきゃいけないこと、また、どうしても手間がかかることがあるというの聞き及んでいる。これからも、ふるさと納税については、先の抱き合わせもそうだが、何かしら工夫は絶対していこうと思っている。取り扱いの窓口も順次増やしているところであり、しっかりとやっていきたい。	農林課、市長 公室	（農林課）受益戸数（3戸以上）等の要件はあるものの、果樹の高品質化や高収量化のために必要なハウス、かん水施設等の施設の整備に対する補助事業がある。
164	吉田	9	地域づくり団体活動で、対象がNPOのところについて、30年豪雨まではNPO団体として活動されていた団体はそんなになかったが、豪雨後に、ほとんどが旧市内の方で立ち上がったと思う。総じて、タケノコのようにできて、なくなっていったというのが実際だと思う。 時間の経過とともに、各団体でやるのが分からないとこが多く、残った団体で力を入れてやっていただいているのが、こども食堂や海洋ごみ回収をしている団体だと思う。吉田では、旧しんばし前に「宇和島NPOセンター」があり、中間支援組織として活動している。先般、吉田高校で話をしたところ、残念ながらこの団体を知っている生徒がいなかった。いろいろなことをしている団体は多いと思うが、ボランティアも集まりにくいので、市の広報誌にも掲載していただくなど告知の仕方を工夫してほしい。	NPOに登録しているのは熱心に活動されている団体ばかりではないのは、実際にそうだと思う。令和5年に指針を改訂して、災害以降のグラナマや子ども食堂などは、元々牛鬼会議という場で議論し、今でも頻繁に会合し、実際に現地に行って、具体的な行動をしている。特に、宇和島NPOセンターは中間支援として、そこがハブ機能を持って調整をしている。 宇和島NPOセンターは、自身の公式ラインなどで情報を発信しているので、ある一定の知名度があると認識していた。やはり市との間を取り持つ団体としてご活躍いただいているのであれば、当該団体の信用を高めるべく存在をお知らせしていくことは、我々の役割だろうと思う。 今、NPO等いろいろな民の力を主導としてやっていることがあり、市の広報や市政広報番組などいろいろな形で、そういった信用に繋がっていくことをひとつの効果として、これからさらに力を入れていかないといけないと思知知らされている。努力を重ねていきたい。 先ほど言われたのは、信用があれば人が集まりやすい、ということに行きつくと思うので、そこはしっかりやりたいと思う。	市民課	（市民課）■地域づくり団体 R6. 7. 1現在市登録NPO団体は80団体。 内、平成30年7月豪雨災害以後登録団体は46団体。R5年度から、地域づくり団体活動補助金の拡充以降、積極的に活用いただいている。R5実績：21団体 ■告知 市広報誌内「協働まちづくり通信」で市NPO団体の活動紹介を実施。市政広報番組（協働のまちづくり（牛鬼会議）を周知。宇和島NPOセンターにおいて、ボランティア募集やNPO団体の企画相談、情報発信について支援いただいている。隔月で広報誌（キャリアッジ新聞）を発刊いただいており、市登録NPO団体のほか、吉田町内の小中高等学校や公民館、社協等にも配布いただいている。 ■ボランティア募集 宇和島NPOセンターによるボランティアバンクには、個人又は団体で登録いただいている。ボランティアバンクを活用することで、市NPO団体等の活動情報の周知やボランティア募集を実施いただいている。 ■出前授業 中学・高校からの依頼を受けて、学校へ出向き、NPOについてや防災・減災の取組等の出前授業を開催している。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
165	吉田	10	「宇和島NP0センター」は、現実に豪雨があって立ち上がった団体なので、それを小中高など学校に対して、団体の活動をお知らせし、語り部的に出前講座などをやってほしい。若い世代で、30年豪雨のことも忘れてきている。 先日、縁があって、香川大学で授業をしたが、そこに進学された市内出身者でも吉田の被害状況を（認知してなかった）そういう風な感覚でおられる。語り部から話を聞く時間と場所がないので、防災教育の1つとしてやるべきだと思う。実際に、市の総合防災マップでは、玉津地域には、津波災害時の指定避難所がゼロで、吉田町でも喜佐方と立間、旧吉田地域での支所くらいしかない。どこへ逃げたらいいのかと職員に聞くと「三間に」と言われる。どうしても道路事情が悪くなり、交通が集中することになるので、かなり状況が悪くなると思う。津波警報が出た時の適切な避難所については3年から5年で見直しをすべきではないか。 また、津波災害時には本庁と社協はおそらく使えない中で、非常用電源は上階に置いているが、市役所への出勤自体が難しくなると思う。そうなったときに災害ボランティアの受け入れをどこにもっていくかといった話をすると、職員もなかなか答えられない。災害を経験したことによるスキルとして、住民も一緒に考えた方がいいのではないか。	実際に今でも、ここ（吉田）は大きな被害があったのかと言われることがあると聞いている。ただ、仕組みとして、語り部がどこかに常駐して、という形にはなっていない。高光くらいまでは被害があったので同じような感覚だったが、市内や津島町でも一定規模の土砂崩れはあったものの、地域によって感じ方が違うことは私も痛感した。吉田の方で、大良の方だったと記憶しているが、本庁まで来られた方が、本庁周辺の何事もないような雰囲気を見て、あまりにも感じ方が違うということで「悔しい」とおっしゃっていた。こうした温度差を埋めていくのは、その時は仕方ないかもしれないが、やはり防災教育で、この地域にはこういったことがあって、今後これらにどうやって対応していくのか、という話をするに尽きると思う。玉津のタウンミーティングでも指定避難所について話があり、これは早急にしっかり対応します、という話もしている。	市民課、危機管理課	（市民課）■ブラ防さんぽ 宇和島NP0センターの自主事業として、危機管理課と連携し、ブラ防さんぽを開催。平成30年7月豪雨により被災した吉田町のまち中を実際に歩き、災害を体験した地元ガイドから当時の体験を聞き、災害への備えや防災・減災の意識と災害の記録を受け継ぐことで、水害と過去から続く地域の自助共助を学ぶ取組として実施している。 ■牛免会議ワークショップ 市委託事業として、多様な主体との情報共有会議の運営や地域活動団体の支援を行い協働のまちづくりを推進するため、「NP0等連携推進事業」を宇和島NP0センターへ委託。「命を守る・暮らしを守る」をテーマに防災減災をはじめ地域課題を学べる場としてワークショップを開催（R5年度：3回）。障がいのある方の被災体験談や災害時に企業やNP0団体ができると日頃からの関わり方について、参加者地震ができることを語り合い学ぶ場として実施している。 ■体験型防災プログラム 市委託事業として、市内NP0団体等と自主防災組織、自治会、公民館等が参加する「体験型防災プログラム」を、を市内各所で開催（R5年度：12回）。様々な災害に対して、地域で主体的に防災に取り組む自治会や自主防災組織などの団体を対象に、防災上の地域課題に即したプログラム事業を実施している。
166	吉田	11	ゴールデンウィーク前の夕刻近くに、市立病院から処方箋がでたが、ゴールデンウィーク中に営業している薬局が、調べたところ宇和町にしかなかった。長い休みの間にも対応できるような当番薬局があればよいと思う。	処方箋には4日間の有効期限があり、ゴールデンウィークに入ると期限を超えてしまうため、「休みの日でもここだけは開けて欲しい」とか「こういう案内をしている」という具体的な相談ということで、何かできることがあるかもしれない。医療機関が処方箋を出すという行為を法律的にどう定められているのか分からないがこの点と、薬剤師会が年末年始も含めて、そういう長期の休みの時にどうにか対応できることはないか、別途問いかけてみたい。	保険健康課	（保険健康課）処方箋の使用期間については、「保険医療機関及び保険医療費担当規則」第20条において、原則として交付の日を含めて4日以内（休日や祝日含む）と規定され、併せて、長期の旅行等の特殊の事情がある場合には、この期間を延長又は短縮できる旨が規定されています。医師や歯科医師が、処方箋に別途使用期間を記載した場合には、その日まで有効となりますので、医療機関においてご相談ください。 なお、休日当番薬局については、愛媛県薬剤師会HPに掲載されておりますが、GW期間中等の対応につきましては、受診医療機関で相談ください。

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
167	三間	1	年明けの地震以降、30年豪雨を経験したこともあり、非常に災害を身近に感じるようになったタイミング。 災害時の避難所について、三間町内にある最大の（避難所で）屋根付きの建物は国民体育館だが、地震に非対応。三間町内だけでなく、旧市内、吉田町の方からも避難されることも考えてほしい。また、本来のスポーツ施設という意味合いでも使い勝手がよくないと思う。	三間地区における防災に関する印象として、「津波が来ない」がある。これまで海岸部で実施したタウンミーティングでよく言われていたのは、「その時にならないと状況が分からず取るべき対応が変わってくる」と申し上げてきた。津波の状況に応じて、三間のみならず、広域で避難する鬼北、松野、西予等々に別れて避難する計画がある。持ちうる施設の中でやっていく、これが避難の考え方である。国民体育館については耐震化の問題だと認識している。これを今、何か計画があるわけではないが、三間高校を含めてこれからの施設をどのように考えていくかは、避難所運営の中でも必要なことだと思う。これから学校の統廃合についても教育委員会の方で進めている。持ちうる施設の中でしっかり考えていくという認識である。	文化・スポーツ課、危機管理課	—
168	三間	2	孫が、「地震があったときに、宇和島は津波が来るけん」と戸雁に家を建てている。二名保育園がなくなって、三間に立派な保育園を建ててもらったが、人数が入らないと聞いている。孫は今、宇和島に通っているが、子どもは子どもで遊ばせる方がいいので、保育園の募集枠などの情報を教えてほしいので、早めに情報提供をしてもらいたい。	今回、二名保育園が閉園となり、認定こども園を新たに新築させていただいた。入れるかどうかを含めた情報を早めに知りたいという話だと思う。情報提供等できることはしっかりやるので、個別に事情をお話いただければ丁寧に対応させていただく。 【職員回答】次年度の申し込みは10月頃から広報等でご案内する。それまでに情報を知りたいということであれば、こども家庭課において、毎月空き状況等を把握しているので、電話、来庁等個別に連絡をいただければ対応できる。	—	—
169	三間	3	社会福祉センターでの総会で、子どもの小学校入学に関する資料では、二名と成妙で子どもが少ないので、複式を含めて三間小に統合を進めていく、と話しているのを聞いた。吉田小では広域の統合が進む中で、三間町も十分な収容ではないと思っているので、今後の見通しを含めた学校運営についてお聞きしたい。	昨年度生まれてきた子どもたちの数は、旧町では三間が多い。吉田は14名、津島は17名、三間は28名と確実に子どもの数が減っている。 吉田地区においては、ほぼ浸水域にあり、6年前に河川災害があった中、建物のデザイン等々を検討し、5校を1校に統合することに決定をした。 三間地区についても今後の子どもたちの教育現場をどのように考えていくのか、教育委員会において検討している。確かに今、たちまち集まる（統合する）のに、三間小は十分なサイズではないということは聞き及んでいる。一方で、子どもの数は縮減していくことが分かっているので、この辺のタイミング等はこれから精査をされながら地域に話が出てくるものと思う。少なくとも、今たちまちに、という話ではないことは聞いている。	教育総務課	(教育総務課) 将来の児童数推移等を見据え、教育委員会として小中学校適正規模、適正配置等に関する基本指針を決定し、6月13日に市ホームページで公表した。 基本方針における基本的な考え方として、旧3町においては、急激に出生数が減少していることから、小学校は原則1校とすることとしている。 三間地区においては、令和11年度に一斉統合することを目標としています。今後、保護者の皆様をはじめ、地域の皆様のご理解を得ながら、子どもたちにより良い教育環境を整備したいと考えている。
170	三間	4	じゃこ天の生産者が減っている中、蒲鉾組合青年部も18年前のメンバーが10人くらいから今年度で5名となった。全国の蒲鉾屋を回って、仙台では観光客も多くお土産として（売り上げが）良いが、宇和島では観光客が少なく地元消費がメインである。人口減少の中だが、組合としてやっていきたいので、ご協力とご支援いただきたい。	昨年9月に、秋田県知事の発言が、中村知事の素晴らしい対応で一気に注目を浴びた。この前も仙台でじゃこ天を取り扱う機会があったが、元秋田県民の方が「すいませんでした」と仰っていた。昨年一年間はじゃこ天のCM効果は金額では計り知れないものだった。一方、宇和島で揚巻の原料のお揚げを生産しているのは2社しかなく、そこもなかなか厳しい状況である。魚類、柑橘、三間米など原料を持つことが我々の強みである。じゃこ天は、地域で〇〇派、●●派があったように、宇和島はそういうストーリーがある町であるという認識。まちの特色をどう発信していくか、私はじゃこ天もやっていきたいので、これからも努力を重ねる。	商工観光課	—

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
171	三間	5	ブルーシートの配布についてのニュースを見たが、そういうことを一般の方は全然知らなかった。前もって知っていればよかったと思う。事前に（そういうことをやっている）分かれば、（実際に被害にあったときに）SOSを市役所に連絡など発信できた。 水害の時、その2日後には市職員が「大丈夫ですか」と訪問され、その時は怪我をしていないという意味で「大丈夫だ」と答えた。その後、床下などの消毒の話が出て、周辺住家では床下浸水などもあって対応してもらっていた。その時はじめて、市がそういう対応をやっていると知ってから支所に聞いて対応してもらった。具体的に訪問してもらうのは心強いが、（漠然と）「大丈夫ですか」という聞き方ではなく、具体的に「水に浸かりませんでしたか」などの一言があれば良かった。 今回のブルーシートや消毒の件は、その時はみんな慌ててし、職員も本当に大変だと思うので、事前にどういう対応してくれるかを知っていれば、私たちもブルーシートが頼めるだとか、浸水時には消毒が必要だ、などといった意識が向き、近所の人に聞きながらでも対応できる。普段から、こういう時には、どういうSOSを出せるか、市にお願いしてもいいことを私たちが知っておくべきだと思うが、そういうことを（事前に）何かの形で教えていただきたい。	「伝えた」とことと「伝わる」とこととの違い。これはブルーシートに限らず、我々もどう伝えたらいいか、工夫をしているつもりだが、実際に伝わっていないことが事実なので、どのように伝えていくかは進化していかなければならないと改めて思った。 ブルーシートのみならず、災害時のごみの対応について、屋内屋外の行政放送等で周知していたが、実際に聞けてない方もいらっしゃるの、その想像力として、例えば回数を増やすとか、自治会に何かをお願いするとか、ということになると思う。これは全体として、今後の大きな課題・テーマをいただいているという認識。これからは「伝える」だけではなく、「伝わる」ような取組みとして努力を重ねていく。 床下消毒の対応は、私が勝手に思うのは、水道関係の職員が行って「大丈夫か」と聞かれれば、消毒関係の対応を含めた対応まで考えずに言ったことか分からないが、最前線ですといった行動をする以上は、その家がどういう状態なのかをもっとヒアリング出来たら（結果は）違ったのではないかと、というご指摘だと思う。縦割りではなく、総合的なお声がけについて、どこまでできるか、これからしっかりと精査していきたい。 例えば今、地震が起こったとして、我々も状況をみてという部分はどうしてもあるが、基本的な対応がどういったものか、自助・共助で地域の方々をお願いしている部分もあるので、何らかそういう問合せいただける形で、地域にもしっかりと落とせるように検討してみたいと思う。	危機管理課、生活環境課、水道局	（危機管理課）4月17日の豊後水道を震源とする地震で住家に被害を受けた世帯に対して応急的な対応としてブルーシートの配布を行いました。
172	岩松	1	①御槇地区のコミュニティバスについて、試運行が2ヶ月間だった。（期間が短いので、）やはり1年くらいは運行させて、どういう状況かをアンケートで調査すべきだったと思う。 ②デマンドタクシーは御槇地区で上槇だけの運行となっている。宇和島の長堀、別当などではデマンドタクシーの要望があり、年間1,000件以上動いているという話を聞いた。成の帆焼では、独居老人などバスは通っているが、歩いてバス停まで行くのに時間がかかるので、そういったところにデマンドタクシーを運行させる必要があると思う。	①コミュニティバスのお試し期間を1年にするというのは、（期間が）長ければ長いほどいろいろなことの精度が高まることは理解できるが、調査業務なので、目安として2か月でもある程度の流れが把握できると思う。 ②デマンドタクシーは市内においてもバスがない地域で実施している。帆焼での事情も十分理解できるが、デマンドタクシーの性格というのを十分（理解を）得ていないので、この点について確認する。一方で、例えば島しょ部の地域交通として、いきなりデマンドタクシーという訳にはいかないの、戸島ではモビリティの実証実験から始まって、本格的な運用にスタートを切った。1回乗るのに100円という価格設定をして、戸島地区のボランティアの方が、必要な方の足となり、車は公用車を貸与して、地域の中で活躍いただくというもの。日振島地区においても、そういった流れで、この秋から実証実験が始まる。こういった、行政がやるべきことと地域がやりたいと言われたこと、コミュニティバスの区間を何かするというよりは、コミュニティバスにアクセスする区間を地域で何とかしていくという企画で動いている方々もいらっしゃるの、こういったことも併せてご案内したい。	企画課	（企画課）成地区については、県道改良工事の進展に伴い、令和6年4月より、運行エリアを集落の中まで約400m延長し、地域住民の方が、より快適にコミュニティバスを利用いただけるように改善を図っております。
173	岩松	2	伊達博物館と熱田温泉について、応札者なしという結果となった。32億円という数字もあるが、もし、予算内でできないのであれば、てんやわんやいちの今の状態をもう少し手入れしてはどうか。温泉施設も2階建てを止めて、1階建ての簡潔な施設にするなど、いろいろな方にアンケート取って、温泉施設（の機能）を一番考えてやってはどうか。	熱田温泉は確かに、5月に応札がなかったという現実。てんやわんやいちの方々も今回の入札が順調にあって、なるべく早い時期に本体の熱田温泉の特産品広場で商売をするべく、その間頑張っていたところ。現在、入札の流れがどうだったかを調査をしている。たちまち1階建ての何かに変えることは難しく、また温泉に特化するというご意見だが、津島地区の特産品売り場の充実も1つの命題としてあるので、先ずは今の状況の中で、どういったことが今回の入札不調になったのか、これを精査するタイミングだと思う。しっかりと検討に移していきたい。	商工観光課	—

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
174	岩松	3	正和会が頑張っている九島の活動、石応の活動、地域の方と浦知の学校での活動など地域が関わっている活動は、うらやましいと思う。地域ごとに活動があると思うが、浦知のような活動を地域毎に展開できないか、それとも要望を出せばやれるのか。	九島の正和会、浦知のあすも、社協、そして地域。石応は地域と東京の企業。あるいは、原点は三間町のもみの木で、ここは社会福祉法人が、地域を拠点として様々な取り組みをしていくという意味で、本当に注目されていて、全国でも視察など問合せも多い。これら拠点について、今後の人口減少社会の中で、各地域で多くの方に輝いていただけるきっかけとして、拠点を作っていかうすることを目標として三間から整備をされた。これは行政が主導というより、行政がそういうことをやりたいという企画の中で、必要なのは誰が運営していただくかがいつも課題となる。これら4つの施設については、そういった方々の思いであるとか、市もこういったことをやりたいんだとか、いろいろ話をした上で活動している。まずは地域がこういったものをやりたいということ、市が網羅して分かっているわけではないので、例えば個人にしても団体にしても、こういうことできないかという話をお受けして、市としてどこまでサポートできるかということの話し合いに繋げていくことは十分可能かと思う。実は、宇和島の街中にも作ろうかという動き。こちらから誰かやりませんか、で進めるのではなく、こういうのやりたいという話をまとめて拠点化していくという流れであり、逆にお話をいただきたいと思う。	企画課、高齢者福祉課	—
175	岩松	4	浦知の活動に参加しているのは一部の人だと思う。例えば、浦知地域の人だけしか参加できないということを聞いた。個人的にはシフトで他の地域の人でも活用できた方がいいと思う。	浦知は旧浦知小でやってるから地元だけしか参加できない、という認識はない。つまり、津島町における拠点の第1号として整備させていただいたので、そういった地域外の人でも活用できるようになっていると思う。部分的に配食サービスであるとか、そういったものを全部お受けできてないとか、そういった地区の縛りというのはあるかもしれないが、活用としては全体という認識だった。今一度、正確な情報を整理した上で、どういう形かをお伝えする。	高齢者福祉課	(高齢者福祉課)津島地域の拠点として旧浦知小学校の1階(トイレ・空調設備)を改修し、7月から受託法人(社協)が常駐し、楽校うらしりが本格的に始動となります。そこでは、津島地域における地域づくりのほかに、相談業務や介護予防教室を実施していく予定です。なお、地域との交流を図り、地域内外の方が集う場所として利活用に努めます。

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
176	岩松	5	①昨年、岩松地区が重伝建に指定され、7～8ヶ月が経過した。岩松川沿いに住んでおり、観光客の方が、日に20～30人来られて、周辺を回った後に、地域の人に対して「がっかりした」と言われたことがあったと聞いた。1人の男性観光客は平日に川沿いを歩いていて、観光としてどうしようもない、見る場所もない、造成いただいた色ガラスの店も開いていないという。国がやま・かわ・まちをセットにした認定で指定したからには単なる地域のイベントではなく、住民の力不足もあるが、市の方も積極的に関わって欲しい。石応では都会から業者が入っている。せっかくの国指定は地域の財産として、他地域の活動を情報共有したり、地域おこし協力隊だけでなく業者などプロの視点を取り入れてほしい。私としては、やすらぎが入札不調にはなったが、これを機会に地域を興すチャンスだと思う。全国にアピールすると、いろいろなところから来ると思うので。同時に、やま・かわ・まちをアピールのチャンスなのに、市も全然動いてくれずに私らに丸投げ、私ら住民も素人でどうしたらいいのかわからない、観光客の方も「がっかりした」と言われて、住民として恥ずかしい。何とか、早く着手してほしい。市が勝手にやっていたのに、という雰囲気、市の協力を全然感じられない。広報に出て、テレビにも流されるのに、気概を感じれない。また、色ガラスも早く解放していただきたい。細かいところは住民で話してボランティアとかいろいろな人がやる。そういう具体的な内容に入る前に、まずは市から積極的に動いてほしい。 ②犬の散歩に河原を歩く。桜並木のところは少し幅もあって、少し座ってゆっくりしたいし地域外からの人も座ってゆっくりしてほしい。川も癒しで、まちの財産なので、まずは川の整備をしたいが、住民ではどうしようもない。県に言っても、市でグループを立ち上げて、それからの動きだと言われたが、そこについても疑問があって、国指定後、今までそういう声が市に届かなかったのかもしれないが、7ヶ月たっている中で、いろいろな方が小さい声をあげている。市役所もその担当者だけに丸投げではなく、市長から率先してもっと情報を把握していただきたい。まちなかにも、阿部亭とかNPOで立ち上げた女性がおられ、私も何とか盛り上げたいが、そこを民泊で活用するのにも浄化槽などいろいろな面で限界があり、カフェみたいな感じで運営されている。今、インバウンドがすごくて、外国の方も街中を歩いている。外国人は発信能力に長けているので、岩松というところに単なる素通りではなく、民泊できる施設があるところで、1ヶ月とか長期で日本を回っている方もいるので、ゆっくりと宿泊いただいて写真とか世界に発信していただける。インバウンドを取り込むためにも熱田温泉が加わればもっとやりようがあるのではないかな。そういう民泊施設を取りやすくするようサポートしていただきたい。	①②十分に対応できていない、大きな課題の1つだと認識している。就任後、地域の特色は確保したいということで、地域の方々と会を立ち上げからすぐに、災害が起きてストップしてしまった。その後も、行ったり来たりしながら申請に向かっていった。手前の段階で準備できていたこともあったはずだが、十分に出揃っていないのが現実である。先日も担当課から、今後の岩松の町並みについて関わっていくという説明を受けた。これを調整しているところ。 地域の方々が何とかこれを生かしていこうと、「がっかりした」と言われなくても少しでも協力していきたいというところに、十分に対応できていない、一緒になって動いていないと思っている。今、色ガラス建物、川の整備、民泊をとりやすいサポートなど、色々ご提案をいただいているので、一度、団体なり個人の方にこれができたらということを、担当課だけでなく、全体の課題として、早期に話し合いが持てるようにしたい。その時には、忌憚のないご意見をいただいて、いわゆるキックオフになれば、これは早期に段取りをしたい。その時は、ぜひご協力をいただきたい。	文化・スポーツ課、都市整備課、(商工観光課)	—
177	岩松	6				

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
178	岩松	7	岩松幼稚園がなくなって、岩松保育園へ。岩松の園長が避難場所もない保育園に幼稚園の園児を行かすのは苦で、大変だという話を言っていた。わが子も保育園に行ったとき、避難訓練で、港町の寿団地の向こうの神社の下に避難場所があり、100人も人が避難できないとこに設定されたまま数十年続いている。そこで建替え等の話をしていたが、今回あけぼの園が旧給食センター跡に建てられたが、津波浸水エリアに障がい者施設を建てられた。避難もできないようなところにそういった障がい者施設を建てたこと、岩松幼稚園の子どもも地震が来て避難できないところに建てられると逃げ場がない。それであれば地震があっても避難しないでいい施設を高台とか安全な場所に建てると、周辺の避難場所としても使えるような建物を建ててもらいたい。	保育園の避難経路は、前のタウンミーティングでご指摘があり、厳しいと聞いた中で、幼稚園がなくなって今度の整備計画では、別の価値観でやろうとしており、ここは十分な協議はできていない。あけぼの園では、今までも文京地区で避難訓練をしていく中で、城南と鶴島小の間に障がい者施設もあるので、近くの市立宇和島病院のエネルギー棟の中に福祉避難所も併設予定で、早期に避難できるよう工夫している。岩松はこれからの計画策定になるが、垂直避難を含めたことを広く検討しているところ。親御さんや防災関係者のご意見をお聞きしながら、今の避難場所（ローソンの裏）という価値観ではなくご相談させていただきたい。	こども家庭課	（こども家庭課）大切な園児の命を守るために保護者、地域の皆さん等との地震津波合同訓練を実施するなど、もしもの時に備えて、安全な避難行動がとれるよう訓練を重ねている。 岩松認定こども園の改築に関しては、現在、建設用地の選定について協議を重ねているところ。できるだけ早く方針を決定し、皆さんにお知らせしたいと考えている。
179	岩松	8	岩松のまちなみのことで、何度も言われていると思うが、土地の固定資産税が減額にならなかったことが引っかかっている。岩松でも土地や家屋の売買では、取り壊し費用と土地の購入費用でトントンになってしまい手元には一銭も残らない、なのに地価だけは高い、という声がある。同じような条件でも宇和町であれば、伝統的建造物の土地であれば2分の1の固定資産税で済むので、土地が安く買える、維持の負担が少ないなどのメリットがある。国からも税収の一部が戻ってくるので市の手出しもなく、デメリットを感じられない制度だったにも関わらず、である。重伝建について、住民からの要望もあり署名までしようかという中で、とりあえず要望出してからと待っているうちに、いつのまにか決まってしまったという状況。決まってしまったものは仕方ないので、今後、もう一度検討いただきたい。	土地の固定資産税の減免については、いろいろな議論があったことは承知しているし、他に要望があったことは聞き及んでいる。土地については、これから岩松のまちなみをどう考えていくのかというところの流れと、それ以外の方々がこういった税金については一定等しく負担をしているというところとのバランスが事情として重要だろうということで決めさせていただいたと記憶している。今後、どのように回していくかという課題とさせていただきます。	文化・スポーツ課、税務課	（税務課）土地については、伝建地区に指定されても、家屋に比べて制限（形質変更等）が少ないことや、地方税法（第349条の3の2）の規定により、小規模住宅用地（課税標準額が6分の1、200㎡以下）・一般住宅用地（課税標準額が3分の1 床面積の10倍まで）特例措置が適用されていることなどから、条例において特例措置の対象とはしていない。
180	岩松	9	修理の補助金、事前相談の締め切りが7日17時でした。担当も相当走り回って、いろいろなところから要望を聞き出して現場を回ってくれていたのはよく分かっている。情報の届け方が不十分で、知らなかったり、聞くのが面倒だったり、そもそも意味が分からなかったりという方がたくさんおられた。そもそも人が足りていないと思う。西予市は町並みの中に職員3人くらい確保していて、それくらいのボリュームが西予市や内子では必要だが、岩松は西予や内子よりももっと面積が広いし、対象家屋も多いが1人の職員が兼業で一生懸命走り回って何とかする問題ではなく、何とか増員対応していただきたい。 移住政策に関連して、農家の子世代・漁家の娘・商家の孫が家に帰って商売をしようにも何の支えもない、お祝いもない。このまちで生まれて、このまちで生きて、このまちで生活しようとしている人をまず、応援する制度がないか、何とか支援できる仕組み。	市の全体の人数の足りなさもあり、切実。内子、西予がそれなりに人は揃えているというのは、承知している。どうやって獲得していくのかを、これからの岩松のまちなみの中の課題として、しっかり対応していきたい。これから一からの出発だと思うので、しっかり検討、対応していきたい。	文化・スポーツ課、企画課、農林課、水産課、商工観光課	（企画課）企画課移住定住推進室では、定住促進を図るため、移住者だけではなく、市民の方を対象として各種事業を実施している。 「住むなら宇和島応援金」子育て世帯を対象に住宅取得を支援 「若者定住奨励金」市内の高等教育機関を卒業した新規学卒者、Uターン者などを対象に奨励金を支給

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
181	岩松	10	伊達博物館は、市の緊急避難場所に指定されている、また、地盤が軟弱で液状化の危険度が一番高いレッドゾーンに建設予定となっている。そして天赦公園に21億円の補助金目当てで伊達博物館建設を決定したこと。伊達博物館の建替え問題に対し、2年で8千名の署名を集めて、住民投票条例で臨んで、第1回目の市議、そして行政の中で残念な結果になってしまった。2日目やはり市議会議員の方の圧倒的な賛成により決断された。市議会は市民の代表だが、それならば将来世代の、宇和島市の文化ゾーンとしての基盤づくりをどうしてももっと危機感をもって考えないのか。なにも考えていないのではないか。	21億の交付金目当てではなく、今の建設予定場所であろうが、違う場所であろうが、これらの計画が国に認められた補助事業としてなされるもの。市立宇和島病院は地下に電源施設があるので、それを地上4階建てのところへ上げようとしている。これも都市再生整備事業で、伊達博物館についても（同じ）都市再生整備事業で実施する。つまり、交付金目当てではなく、やりたい事業は何か、その中で使える補助事業は何か、起債は何か、なるべく自らの財布で出さない方が他にできることがあるのは分かっている。まずは理念、そのあと財源をどう考えるか。現在、国から約77%もの支援を受けようとする計画である。もちろん市が直接負担しないといけない費用はあるが、我々のまちをどうしていくのかという理念の中で、これは自分たちの財布の中から出してでもやっていくという覚悟としてやっている。今の建設予定地がレッドゾーンであるというのは、例えば城南中をどう考えるか、（文京地区）周辺は埋立地なので、そこに対応するのが杭工法で、基盤に対してしっかり杭を打ち、建物の安心・安全を確保しようとするもの。併せて緊急避難場所としてというご指摘については、つついっばい建物が建つわけではなく、公園部分がかなり残る。そこは、津波以外の火事等における緊急避難場所なので、十分対応できる。議会の投票条例については、議会の皆様方が考えていくことなので、私からのコメントはない。	伊達博物館	—
182	岩松	11	やすらぎの里の建替えに関する資料が、前回と今回で記載が全く違う。どういう事業整理なのか分からない。事業費も32億8,500万、伊達博と合わせると総事業費で100億のものになるのではないかと思っている。市長の意見を聞きたい。	熱田温泉について、時間がたてば最初の基本計画から実施設計ということでフェーズがどんどん変わっていく。タウンミーティングで前回お見せしたものと、今回とで記載が変わることはありうること。これら状況について、議会にお示しをして、地域住民を代表する方々にもお話をして今日を迎えているところである。そういった意味では、間が抜けてるというご指摘かもしれないが、議会を含めて丁寧にやっているところであり、ご理解をいただきたい。	商工観光課	—
183	岩松	12	一応交付金とかお金については手当が出来てますということは別にして、十萬石の城下町である宇和島城にたくさん観光客が来ている。そこを中心にした総合的なまちづくりをしていくことがやはり先決であって、その中で伊達博物館の大きさなどが決まってくると思う。的を外れたような事業ではだめで、まずは宇和島の歴史と文化、一番たくさんのお客さんが来るのは宇和島城で、その中心として、しっかり宇和島城の整備を現実問題としてやっていくべきではないか。	確かに、宇和島城なり天赦園もそうだが、しっかり集まっていたかどうかはしなければと思う。ここ岩松では、伝統あるまちについて十分な対応ができてないことを認識している。だからこそ、民間の地域の方々が「恥ずかしい」「情けない」と思われたということは、申し訳ない気持ちでいっぱい。ただ、こういった本物を、どこに力を入れていくかといったこともそうだが、たちまち今、やらなければならないことがたくさんある中で、どれかに順番をつけるというよりはどれもしっかり対応していかなければならないというのが、今日の考えである。	伊達博物館、文化・スポーツ課（商工観光課）	—
184	岩松	13	熱田温泉という名称は、当時の小学生からの応募の中で一番多かったものとして命名されたと思う。お願いしたいのは、能登半島地震、先だての豊後水道地震では被害もあり（私見では）個別に被災した人もいるが、（総じて）よくこんなもので済んでよかった、という思い。ところが、こういった自然災害が身近なところで起きていて敏感になっている。熱心に防災、避難訓練などいろいろな防災の取り組みを地区や自治会をあげて参加している状況で、このことを考えると、やすらぎの場所は避難場所として、高台でもあるし地元では将来に渡っていい場所だと考えている。残念ながら、今回の計画では温泉施設がメインで、一時的に避難をして生活ができるスペースが図面を見ただけでは見当たらない。今言っても、どうにもならないと思うが、新しい公共施設としてお金をかけて作っていくものなので、場所の関係と災害弱者、子どもたちの避難先として、高田地区には3つの介護施設の方が素早く避難できる場所として、後付けでも道の駅ではあるけども有事の場合には転用できるような活用を検討してほしい。	高田地区における旧やすらぎの里との関り、平成14年に竣工して以来、温浴施設としてサービスを提供されてきた。その前段で、高田地区の方にいろいろなお協力をいただき、当時、会合ができるようになどの配慮をしていたというのは聞き及んでいる。今回の熱田温泉として整備をする際に、地域関係者と話すときに、会合ができるようなスペースを、というかつての流れがあることは担当者から聞いていた。ただ、避難所で使う、一部避難生活をしているのは聞いておらず、今後の指定管理者等々との運営において課題としてあると思う。先ほど言われた避難所としての空間を備えていないのは事実で、有事の際には、地域の方々と協力して、施設として運営していくことは間違いはない。せっかくいただいたご意見ですので、今後の運営でどういったことができるか検討したい。	商工観光課	—

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
185	岩松	14	私が、古い自宅の合併浄化槽を検討していたところ、法律のため何ともしがたいことだが、基本的には建坪に応じた整備の規模となっている。この地域は、過疎地域で、残っているのは年寄り夫婦が圧倒的多数で、古い建物が多く、建坪も多い。そのような中、年寄り夫婦の家で合併浄化槽を整備しようにも、（居住者に対して）大きい浄化槽を設置しないといけない。その場合、国補助、県補助、そして市補助金を活用となると、無駄なお金を投じて立派な合併浄化槽を造ったとしても、年寄り夫婦がいなくなったら空き家になってしまうのではないか。法律が地域（の実態）に合っていない。行政から声を上げてほしい。	合併浄化槽の規模についてはおっしゃるとおりで、建物の面積を判定基準として決められるのは承知している。このように生活者に対して建物の規模で決められ、実際は使わないのに無駄使いじゃないかということだと思う。この面積に合わせたルールについて国への要望などになると思うが、県からの助言などを確認して、担当者としてもうどうできるかを、改めて確認したい。	都市整備課	（都市整備課）愛媛県及び宇和島市では、住宅の延べ面積に係る浄化槽の人槽算定において、国の面積基準からの緩和（※5人槽 国基準130平米まで 県・市基準160平米まで）を行っている。また、明らかに建物の使用状況と沿わないと考えられる場合には、上記基準からの変更を行った事例もある。
186	岩松	15	デフレが30年続き、政策転換もあって漸くインフレになり、激変するほど物価が上がり、経済が激変した。令和の始め当時、市長は宇和島の1つの目玉に伊達博物館をという計画だった、しかし今日のような経済を想定してなかったと思う。大阪の万博もあり、モノの値段も上がって、人もいない、我々市民も何もない時であればいい計画だと思う。当時はよかったが、今は（災害が）身近になって、こんなことにお金をかけるよりも、例えば水道管は40年経過すれば交換しないといけない、県下でも宇和島でも古い、公共施設も合併後古くなっている、そういったところも（伊達博物館を）建てる建てないではなく、総合的に点検してほしい。	今回の能登半島地震を受けて、水道管の耐震化が注目されている。この4月以降、水道の所管が厚生労働省から国交省に移管した。国として、これからもっと力を入れてくると思う。水道事業において、配管のやりかえは補助事業がなかなかないため、地域にかかるコストが非常に大きい、やらなければならない、といったせめぎあいであり、これから調整していく。一方、伊達博物館の出発点は、建設から50年たった中で、先日のエアコン修理だったので軽微で済んだが、状況が変われどやらなければならないものはやり抜かなければならない、国として大いにバックアップいただいている状況も非常に心強いと思う。今後、大きな流れの中では、さらに考えていかなければならなく、そういった時代を迎えているということは認識している。	伊達博物館	—
187	岩松	16	4月17日の地震で南文と体育館の天井が崩壊した。場合によっては多数の死傷者が出たかもしれない。建築基準法12条で建物の施主が管理者には3年ごとの定期点検が義務付けられている。法定の点検はどういう風にしてきたのか、非常に不可解だった。ここは災害時の緊急避難場所として指定している場所。今回の地震は南トラ地震で想定する1,000分の1の規模といわれており、東日本大震災の際に死傷者が出た事例もある。国からも（通達）出ていた中、この点検のありようとその報告書をどういった観点で受け入れたかということについて説明をしてほしい。場合によっては担当部署の職務怠慢ともいえるし、人災ともとれるのではないかな。	点検内容については十分得てなく、この場でお答えできる資料は持ち合わせていない。今後、議会でもご指摘があるかもしれない内容として、また、そういう問合せがあるものとして、担当課にはお示しできる準備をしっかりとさせるようにしておく。今回の地震は、揺れに対して地盤の特性であるとか、揺れ方の変移であるとか、そういったことが重なってそのような被害につながった、通常の揺れとは違うような流れができたと言われている。これらのことが、今回の検証をもって言えるかどうか分からないが、起こったことは事実なので、今回の6月議会でも早期に予算を上程して、市民の皆さま方の文化芸能、スポーツの聖地を早めに対応できるよう努力を重ねていきたい。	文化・スポーツ課、企画課	（企画課）法定点検である特定建築物定期調査については、専門業者に調査を依頼しており、直近では令和4年度に実施している。特定天井に関する項目では、特に指摘はなく、点検結果については、特定行政庁である愛媛県に報告している。 （文化・スポーツ課）定期点検については、資格を有する業者に業務委託をしている。
188	岩松	17	大津波の影響を受けるような天赦公園に、60億を超える伊達博物館を建設することに熱を入れるよりも、喫迫する市民の生活と大災害から市民の命を守る方向に舵を切ってほしい。限られた財源しかない中で、こういった事情の中で伊達博物館の建設計画は、白紙撤回をお願いします。	先ず60億という数字がどこから出たか分からない。今、47億円で、その後の第3期等々の費用を含めても全体で52億円までである。先ほど申し上げたとおり、いろいろな目的に応じて予算を組み立て、そして財源を確保していく、そういった意味で今回、都市再生整備事業そして起債等々を活用して国から77%の支援をいただく。もちろん、厳しい生活を送っている方々についての支援も別の施策であるとか、広く商品券事業であるとか、別途施策として展開している。伊達博物館のそれをしなかったら、その77%は一切市に落ちることはない。転用はできず、計画があるからこそ国が支援していくということである。これをやりながら、他の分野の施策については何ができるかということをしかり考えていかなければならないと思う。	伊達博物館	—

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
189	岩松	18	津島町曾根のライブカメラの復活をお願いしたい。市のライブカメラ整備が昨年度、ホームページ上にできたので、デジタル推進課に問合せをしたところ、デジタル推進課と危機管理課で対応するという返事をいただいた。津島町曾根のライブカメラは以前から整備していたが、平成29年度に再整備についての要望が出て、当時の下灘公民館長、下灘漁協の組合長、消防団の団長、地域づくり協議会の会長に下灘小学校の校長と連名で陳情した。登下校の安全だけでなく防犯上、真珠養殖筏等の管理など、そういった面でぜひ欲しいということで復活した。途中、エアコンの故障などで一時停止した時もあったが、（今年の）3月末まで稼働して活用していた。 ホームページ上の提供については、3月に、デジタル推進課から丁寧に説明いただいて、ネットワークの変更等で停止するという事で、私も理解した。デジタル推進課の方もケーブルテレビに移行できないかと考えて動いているようなので、私もケーブルテレビの情報カメラの規格にそのカメラの映像を映してほしいとお願いした。ケーブルテレビとしても川や道だけでなく、海をみた情報カメラも欲しいが、現在設置されてあるカメラの解像度であるとか設置費などいろいろな問題があり、すぐに対応するのは難しいということで、現在に至っている。危機管理課からの返答はない。最近、海岸部に（停泊している）ミニゴート（3m未満の船外機、船舶免許不要）が増えている。今日は（海が）荒れている、出航はやめた方がいい」といっても「せっかく来たので」と出航されるので、こういった広範囲を見ることができるようライブカメラがあると、釣り客にも非常に役に立っていたようだ。そういった、安全航行云々だけでなく、能登半島地震でも短時間で津波が来たということであるので、こういったカメラを復活してほしい。	今年度から、危機管理課の取組みで国交省のカメラを取り込んで活用できるようになる。今、道路や地域がどのような状況か、ということは、重要な基礎情報になると思っている。一方で、消防団がドローン隊をつくっているのも、まずは視覚的に何が起きているのかを知りうる手段であり、危機管理課がもっている大型ドローンについても飛行距離を延ばして地域の状況を知るという意味で必要なことだと認識している。 そのカメラに関する技術的な何かであるとか、それまでの経緯であるとか、そういった話をいただいたことを含めて持ち帰らせていただいて、ケーブルテレビの技術的な部分も併せて、今どういった状況なのか、一度整理をさせてほしい。明確なやり取りの状況を言われているので、最新の情報をキャッチする。	デジタル推進課、危機管理課	（デジタル推進課）当該ライブカメラは、離島向けの無線ネットワーク中継局の管理を主目的として導入し、平時における有効活用として副次的に一般公開していたものの。 当該中継局の老朽化により通信方式を変更したことで中継局自体が不要になったこと、外部セキュリティ監査によりライブカメラのセキュリティリスクを指摘されたことなどから、お話しいただいたとおり、停止した。 民間での設置も採算面で課題があるとのことから、現状では、設置は困難であると認識している。
190	岩松	19	津島町福祉会館に勤めていた時は、岩松保育園と合同で防災訓練等をやっていた、民間会社が神社の下に60台くらいの駐車場を設けて災害時にも活用できるよう整備した。福祉会館と保育園で防災訓練を年2～3回やっているし、市より早く黒潮町に現地視察をして、そういう保育園とも連携しながら防災訓練をしている。もしかしたら福祉会館が、保育園との連携を休止しているのかもしれないので、確認をお願いする。	福祉会館がそういったことができるかについて至急確認して、できてないのであれば復活させていきたい。	こども家庭課、人権啓発課	（人権啓発課）現在も福祉会館と保育園は合同で防災訓練を実施している。福祉会館職員と保育士が連携し、児童や訓練参加者の避難行動の支援を行っている。
191	岩松	20	先日、警報が出て大雨が降った。地震の翌日に、家の裏でがけが崩れた。その土地（家の裏）は、個人の持ち物で、その方は亡くなられており、市では個人の持ち物なのということで対応されなかった。今日の雨が怖い。 がけ防事業は10分の1が個人負担であり、優先順位からいつ整備できるかわかりません、と言われた。緊急を要するため、優先順位を変えることはできないか、順番待ちにどのくらいかかることを覚悟する必要があるのか、10年かかるなら引越すを考えたい。	被害に対してお見舞いを申し上げる。地震以降、気象庁では注意報等基準を早めて、早い段階で警報等々出すような運用となっており、地震以降の不安があらうかと思う。がけ事業については、支所にも本庁にも言われたようだが、確かに術がないということもあり、長年待たれる方などズラリと順番に並んでおり、時間を要する状況である。個別に連絡させていただく。	津島支所（農林課、建設課）	（建設課）南予地方局森林林業課に連絡済み

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
192	岩松	21	みなみくんに加工品を出荷しているが、6月から漬物の販売に営業許可が必要となった。これまで漬物をやっていた方が100万かかるならやめると言っている。鬼北町はこれに補助を出している。宇和島市にもその辺の対応をお願いしたい。	漬物について、私が後になって聞いたことは、結果として事業継続の方はいないと聞いていた。先の話は、その前段だと思う。今一度、鬼北町の事例がどういったことでそれがなされたかを検証したい。	商工観光課	(商工観光課) 【鬼北町補助事業】 ●事業名 農産物加工品製造業支援補助金 ●事業概要 町産農産物を使用した加工品の製造・出荷を目的に、食品営業許可を取得するのに要する施設改修等の経費を補助。 ●事業開始：令和6年4月1日 ●補助率：2/3以内 ●補助上限：50万円 ●補助対象経費 改修費、備品購入費、申請手数料 ●補助対象者 鬼北町在住者 町税等に滞納の無いもの 広見森の三角ぼうし、日吉夢産地の青空市会員 町産農産物を使用した加工品の製造・出荷を目的に、食品営業許可の取得を予定している者 ※R3.6.1以降に改修等を行った 実施済み事業者者も対象。 ●R6.5.31までの漬物出荷者 約20人 ●6月末申請状況：2件
193	Zoom	1	色々な意見がある中で、私としては子どももいるので、子育て支援に関していろいろ応援してもらいたい。今、紹介しているもの以外で考えているものがあれば、言える範囲で教えてもらいたい。	宇和島市の子育て支援は他市町と比べてどうかということをとことん分析できていないが、他の市町がやっている良いものがあれば、宇和島方式にしてやっていきたいと思っている。独自に取り組んでいるものもある。子どもが少ない中でサポートしていく時代に合わせて深化していかなくてはいけないと思う。18歳までの医療費の無償化や、1、2歳児への交付金なども取り組んでおり、保育料についてはまだ宿題としてあるが、やっとスタートし安定してきたところ。少しでも子どもを育てる環境を整えていきたい。こういったものがあればなど、ご提案いただきたい。	こども家庭課	—
194	Zoom	2	他の自治体をみていて、子育てが良いと聞く明石市の施策などは個人的にも興味がある。詳細を知っているわけではないが、明石市と比べると、宇和島市として近隣の自治体から引っ張ってくるのも良いのではないかと。取り合いになってしまうのでそこは気にはなるが、身近なところから呼ぶことも手ではないかと思う。	明石市は、絶妙な地理関係によって、動きやすい街としても有名。子育てに良いということで、明石市に住むことを決めて移住した方もいるので、それはすごいことだと思う。子育て世代の辛い所に手が届くような取組みについて検討していくべきだと思うので、ご意見を頂きたい。	こども家庭課	—
195	Zoom	3	雨の日に遊べる施設については、パフィオもあるが少し狭いと思う。屋内体育館などもあればよいと思う。子どもが入れるところが少ないという印象。	同じような質問を複数いただいており、パフィオがあり、津島には児童館もあるが、様々な声をいただいているところ。屋外施設や体育館に限らず、子どもたちが過ごせる空間ということだと思うので、宿題として受け取らせていただきたい。	こども家庭課	—
196	Zoom	4	私の子どもも、市長の顔を知らないように、市長自身の知名度を上げてもらうのはどうか。学校に訪問したり、どこか公園などに訪問したりして、安芸高田市長のようなインフルエンサーのようなことも行いながら、市長の知名度も上げるのも良いのではないかと。	SNSなども利用して、まずは知っていただく努力を重ねていきたい。	市長公室	—

令和6年度市民と市長のタウンミーティングでの意見交換の概要

通し	地区	番号	要望・質問内容等	当日の回答	担当課	補足説明等
197	Zoom	5	タウンミーティングについて、まず若者自身が行政について興味があるのかという面もあるが、自分の意見が反映されにくいと感じている結果として、興味がない方が多いのではないかと。提案として、ゲリラ的に公園などを訪問して、そこにいる人に話を聞いてみるのはいかがでしょうか。正式な場でのやり取りとはかけ離れるが、若い人は改まって日を決められても、集まりにくいと思う。	ウェブは場所を問わないこともあり、まずは、ウェブを活用した気軽なものをやってみたいと思う。今は対象も、広く押しなべてやっているの、ピンポイントで子育て世代でやろうということは、他市町でやっているところもあるため、何か工夫をしていきたい。 タウンミーティングという名称なのか、分野別、世代別でやるのか、子育てに特化したり、時間を気にせず開催したりと、これまでのタウンミーティングは維持しつつ、一方でそういったことをやっていくことも1つの方法かと思う。	市長公室	—
198	Zoom	6	突飛な話になるが、子どもが遊べる場所としては、新たに建物を作るのではなく、完全屋内ではないが公園の土地に大きな屋根を作るだけでも良いと思う。 人口減少を遅らせるということであれば、宇和島は働くところが少ないので、民間の企業にがんばってもらいたいところだが、民間の誘致などをしてほしい。	企業も、人口減少の中で、集約化する傾向があり、田舎に進出しても人がいるのかという話を聞いている。また、いろいろな企業からオファーがある訳ではない。地域の子どもたちが戻ってきた際に、働き先を選べないということだと思う。 昔はメリットを発信したりしていたが、今の企業はかなり良い条件でないと来てくれないし、企業自体がかなりリサーチをかけていると聞いている。現在までに、企業の進出については聞いてないので、厳しい状況だと思う。	都市整備課	(都市整備課) 公園の遊具については、設置から相当の年月が経過しているものは、順次更新を進めているところ。しかしながら、屋根を作るなど現状に無い施設を新たに設置する計画は予定しておりません。 今後の公園(広場)整備においては、既存施設を活用し、当市の規模に合わせた整備を検討したいと考えます。